

1997年度

英語学科シラバス

獨協大学

英語学科シラバスについて

英語学科長

佐藤 勉

獨協大学の全学部学科にわたって新カリキュラムが施行されて4年目をむかえた。授業内容も大きく様変わりしてきたが、英語学科においては特にその感が強い。そもそも学問は時代と共に変わらなければならない部分と古代ギリシャから滔々と変わらずにその基礎を保ち続けている部分とがある。このような学問の世界は今尚時代と共に幾多の矛盾をはらみつつ、弁証法的止揚によって発展していることは言うまでもないことであろう。現代の国際社会の民族的複雑さを知るとき、果たして大学の学問がその時代のニーズに対応しきれるものだろうかとふと心配になることがある。しかしわれわれ大学で教鞭を取っている者は高感度のアンテナを張り巡らせながら国際社会のニーズを見極めていかなければならない。したがってカリキュラムもこれからさらに幾多の新陳代謝を繰り返すことになるだろうが、今われわれの出来ることに積極的に取り組む姿勢がさらに新たな世紀に向かって始動する上で最も必要なことではないかと思う。

このシラバスは授業科目の骨組みに肉付けをするものである。「基礎科目」、「共通科目」、「専門科目」という3科目群と「文学文化」、「言語情報」、「国際コミュニケーション」という3専門分野を横軸にすえ、その専門分野をコース制にして縦軸とし、相互に系統的に関連を持たせて組み合わせることによって、より幅広い履修ができると共に、専門性をも一層高めつつ、文字通り縦横に選択をしながら、目標とする学問を極める道を発見することができるように工夫されている。したがって学生は自ら希望する専門を中心に自主的にカリキュラムを編成していくことになる。この自主的なカリキュラムの編成に当たってこのシラバスが大切な役割を果たしてくれることは言うまでもないことであろう。

さてこのシラバスの作成にはその他に三つの目的がある。その一つは教員が自らの授業に関して週単位の授業内容を公表することによって授業の進み具合をチェックし、その質的向上を計り、自己評価に資することができること、二つ目は学生がこのシラバスによって自分の興味を確認し、講義の内容を事前に適確に把握し、予習をして授業に主体的に参加することができること、そして三つ目は獨協大学がどんな授業をしているのか、どんな責任ある教育を行っているのかということを知ってもらい、それによって一層獨協大学を理解してもらえる機会にして戴けるのではないかという期待である。学生諸君がわれわれ教員の授業に対してもっと深い理解と関心を持ってあくまでも主体的に参加し、貪欲に学んでくれるように、この有意義な冊子を効果的に利用してくれることを強く期待したいと思う。

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度入学者用および、1992年度以前入学者用とに分かれています。
 - ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
 - ③ 科目名の表記について
入学年度によって、科目名の異なる科目があります。
該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。
正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修登録はできません。
-

目 次

1994年度以降入学者対象

「英語」部門

英語 I (講読)	-----	各担当教員	-----	1
英語 I (Reading)	-----	各担当教員	-----	2
英語 II (講読)	-----	各担当教員	-----	3
英語 III				
(BC)	-----	各担当教員	-----	4
(IC)	-----	各担当教員	-----	5
(AC)	-----	各担当教員	-----	6
英語 IV				
(文法・作文)	-----	各担当教員	-----	7
(パラグラフ・ライティング)	-----	各担当教員	-----	8
英語学概論				
1	-----	神尾昭雄	-----	9
2	-----	児玉仁士	-----	11
3	-----	清水由理子	-----	13
4	-----	長谷川欣佑	-----	15
英米文学概論				
1	-----	(前期) 島田啓一	-----	17
		(後期) 林節雄		
2	-----	(前期) 林節雄	-----	19
		(後期) 島田啓一		
3	-----	(前期) 原成吉	-----	21
		(後期) 富士川和男		
4	-----	(前期) 富士川和男	-----	23
		(後期) 原成吉		
国際コミュニケーション概論				
1	-----	(前期) 佐々木輝美	-----	25
		(後期) 若林広		
2	-----	(前期) 若林広	-----	27
		(後期) 町田喜義		
英語音声学				
1,2,3,4,5	-----	(半期完結) 大西雅行	-----	29
スピーチ・クリニック				
1,2,4,5	-----	(半期完結) 津田望	-----	31
3	-----	(半期完結) 大西雅行	-----	33

学科共通科目

「英語」部門

専門講読

(英語学)

1 ----- 川崎 潔 ----- 35

2 ----- 清水 由理子 ----- 36

3 ----- 須賀川 誠三 ----- 37

4 ----- 府川 謹也 ----- 38

5 ----- T. Hill ----- 39

(イギリス文学)

6 ----- 北澤 滋久 ----- 40

7 ----- 児嶋 一男 ----- 41

8 ----- 近藤 ヒカル ----- 42

9 ----- 白鳥 正孝 ----- 43

10 ----- 長谷部 加寿子 ----- 44

11 ----- 林 節雄 ----- 45

12 ----- 藤田 永祐 ----- 46

13 ----- 三好 健 ----- 47

14 ----- 山田 修 ----- 48

(英・米文学)

15 ----- E. Carney ----- 49

(アメリカ文学)

16 ----- 秋山 武夫 ----- 50

17 ----- 岡田 誠一 ----- 51

18 ----- 香取 豊 ----- 52

19 ----- 島田 啓一 ----- 53

20 ----- 原 成吉 ----- 54

21 ----- 升水 一三 ----- 55

22 ----- 村松 美映子 ----- 56

23 ----- 吉元 清彦 ----- 57

24 ----- M. A. Schible ----- 58

(英米文化)

25 ----- 阿部 純一 ----- 59

26 ----- 加賀爪 優 ----- 60

27 ----- 佐藤 唯行 ----- 61

28 ----- 佐藤 真千子 ----- 62

29 ----- 杉山 晴信 ----- 63

30 ----- 中村 粂 ----- 64

31 ----- 鍋倉 健悦 ----- 65

32 ----- 福井 嘉彦 ----- 66

33 ----- 町田 喜義 ----- 67

34 ----- 宮川 淑 ----- 68

35 ----- 森 永京一 ----- 69

英作文

1 ----- 青柳 明 ----- 70

2 ----- 青柳 明 ----- 72

3,4 ----- 伊藤 隆男 ----- 74

英作文

5	-----	四 宮 満	-----	7 6
6	-----	島 田 啓 一	-----	7 8
7,8	-----	中 村 祭	-----	8 0
9	-----	藤 田 永 祐	-----	8 2
10	-----	三 好 健	-----	8 4
11	-----	渡 邊 美代子	-----	8 6

エッセイ・ライティング

1	-----	黒 岩 由 子	-----	8 8
2	-----	篠 田 愛 理	-----	9 0
3	-----	(前期完結) J. C. Allard	-----	9 2
4	-----	K. R. Bayne	-----	9 4
5,6	-----	E. Carney	-----	9 5
7	-----	F. Fearn	-----	9 7

翻訳 I

1	-----	園 部 明 彦	-----	9 8
2	-----	林 節 雄	-----	1 0 0

翻訳 II

	-----	藤 田 永 祐	-----	1 0 2
--	-------	---------	-------	-------

Conversation I

1	-----	P. Apps	-----	1 0 4
2	-----	K. R. Bayne	-----	1 0 6
3	-----	P. Beland	-----	1 0 8
4	-----	W. J. Benfield	-----	1 0 9
5	-----	D. Bradley	-----	1 1 1
6	-----	R. J. Burrows	-----	1 1 3
7	-----	E. Carney	-----	1 1 5
8	-----	R. Durham	-----	(最初の授業で説明)
9	-----	A. R. Falvo	-----	1 1 7
10	-----	F. Fearn	-----	1 1 9
11	-----	T. J. Fotos	-----	1 2 1
12,13	-----	K. Harris	-----	1 2 3
14	-----	T. Hill	-----	1 2 5
15,16	-----	R. M. Homan	-----	1 2 7
17	-----	C. B. 池口	-----	1 2 9
18	-----	N. H. Jost	-----	1 3 1
19	-----	D. R. Kogge	-----	1 3 3
20,21	-----	R. M. Payne	-----	1 3 5
22	-----	C. J. Poel	-----	1 3 6
23	-----	M. A. Schible	-----	1 3 8
24	-----	L. Villeneuve	-----	1 4 0
25	-----	J. J. Waldman	-----	1 4 2

Conversation II

1	-----	K. R. Bayne	-----	1 4 4
2	-----	W. J. Benfield	-----	1 4 6

Conversation II		
3	-----	D. Bradley ----- 1 4 8
4	-----	J. J. Duggan ----- 1 5 0
5	-----	R. Durham ----- (最初の授業で説明)
6	-----	A. R. Falvo ----- 1 5 2
7	-----	T. Hill ----- 1 5 4
8	-----	R. M. Homan ----- 1 5 6
9	-----	C. B. 池口 ----- 1 5 8
10	-----	N. H. Jost ----- 1 6 0
11	-----	D. R. Kogge ----- 1 6 2
12	-----	P. McEvelly ----- (最初の授業で説明)
Discussion		
1	-----	W. J. Benfield ----- 1 6 4
2	-----	T. Hill ----- 1 6 6
3	-----	N. H. Jost ----- 1 6 8
スピーチ		
1	-----	大川道代 ----- 1 7 0
2	-----	J. J. Duggan ----- 1 7 2
ディベート		
	-----	T. Hill ----- 1 7 4
通訳 I		
	-----	鍋倉健悦 ----- 1 7 6
英文法		
1	-----	児玉仁士 ----- 1 7 8
2	-----	近藤ヒカル ----- 1 8 0
3	-----	須賀川誠三 ----- 1 8 2
4	-----	府川謹也 ----- 1 8 4
5	-----	三好健 ----- 1 8 6
ビジネス英語 I		
1	-----	海老沢達郎 ----- 1 8 8
2	-----	海老沢達郎 ----- 1 9 0
3	-----	杉山晴信 ----- 1 9 2
4	-----	杉山晴信 ----- 1 9 4
5,6	-----	信達郎 ----- 1 9 6
7	-----	山本孝夫 ----- 1 9 8
8	-----	山本孝夫 ----- 2 0 0
ビジネス英語 II		
	-----	杉山晴信 ----- 2 0 2
時事英語 I		
1,2	-----	新井妥門 ----- 2 0 4
3	-----	金子節也 ----- 2 0 6
4,5	-----	工藤政司 ----- 2 0 8
6	-----	佐藤真千子 ----- 2 1 0
7	-----	篠田愛理 ----- 2 1 2
8	-----	野村展子 ----- 2 1 4
9	-----	森永京一 ----- 2 1 6
10	-----	W. J. Benfield ----- 2 1 8

時事英語Ⅱ

1	-----	新井 妥 門	-----	220
2	-----	佐藤 真千子	-----	222
3	-----	森 永 京 一	-----	224

「第2外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	-----	山 本 淳	-----	226
フランス語Ⅲ	-----	田 桐 正 彦	-----	227
スペイン語Ⅲ				
1	-----	假名垣 宏	-----	228
2	-----	野々山 ミチコ	-----	229
ドイツ語会話Ⅰ				
1	-----	R. Briel	-----	230
2	-----	C. Jobst	-----	231
3	-----	U. J. 川村	-----	232
フランス語会話Ⅰ				
1	-----	R. Floirac	-----	233
2	-----	S. Giunta	-----	234
3	-----	Y. Perrot	-----	235
スペイン語会話Ⅰ				
(総合) 1	-----	野々山 ミチコ	-----	236
(総合) 2	-----	J. L. Velasco	-----	236
(LL) 3	-----	霞 洋 子	-----	237
スペイン語会話Ⅱ	-----	霞 洋 子	-----	238

学科専門科目

「言語情報」部門

言語情報処理Ⅰ a・b—1, 2	-----	高 柳 敏 子	-----	239
言語情報処理Ⅱ a・b	-----	前 田 功 雄	-----	241
統語論 a・b	-----	安 井 美代子	-----	243
意味論 a・b	-----	神 尾 昭 雄	-----	245
音声・音韻論 a・b	-----	大 西 雅 行	-----	247
英語史 a・b	-----	近 藤 ヒカル	-----	249
英語学特殊講義 a・b	-----	川 崎 潔	-----	251
英語学文献研究 a・b	-----	四 宮 満	-----	253

「文学文化」部門

英米文学史 a (英) 1	-----	佐 藤 勉	-----	255
" b (英) 1	-----	富士川 和 男	-----	255
" a (米) 2・b (米) 2	-----	秋 山 武 夫	-----	257

英米の小説 a-1・b-1	北澤 滋 久	259
" a-2・b-2	吉元 清彦	261
英米の詩 a・b	原 成吉	263
英米の演劇 a	長谷部 加寿子	265
" b	児嶋 一男	265
英米文学文献研究 a・b	園部 明彦	267
英米の社会と思想 a・b	萩間 寅男	269
英米の政治と経済 a・b	宮川 淑	271
英米の歴史 a・b	佐藤 唯行	273
英米事情 a-1	E. Carney	275
" b-1	M. A. Schible	275
" a-2	J. J. Duggan	277
" b-2	E. Carney	277
英語圏文化特殊講義 a・b	福井 嘉彦	279
英米文化文献研究 a・b	山田 修	281

「国際コミュニケーション」部門

国際政治論 a-1	有賀 貞	283
" b-1	竹田 いさみ	285
" a-2	竹田 いさみ	285
" b-2	有賀 貞	283
国際関係史 a・b	有賀 貞	287
国際開発協力論 a・b	加賀爪 優	289
国際関係論特殊講義 a・b	加賀爪 優	291
国際関係論文献研究 a・b	阿部 純一	293
異文化間コミュニケーション論 a-1・b-1	石井 敏	295
" a-2・b-2	町田 喜義	297
マス・コミュニケーション論 a・b	佐々木 輝美	299
スピーチ・コミュニケーション論 a・b	石井 敏	301
コミュニケーション論特殊講義 a・b	鍋倉 健悦	303
コミュニケーション論文献研究 a・b	佐々木 輝美	305
特別セミナー 1	(前期完結) J. C. Allard	307
" 2	(前期完結) J. C. Allard	309

目 次

1993年度入学者対象

「英語」部門

専門講読

(英語学)	1	川崎 潔	35
	2	清水 由理子	36
	3	須賀川 誠三	37
	4	府川 謹也	38
	5	T. Hill	39
(イギリス文学)	6	北澤 滋久	40
	7	児嶋 一男	41
	8	近藤 ヒカル	42
	9	白鳥 正孝	43
	10	長谷部 加寿子	44
	11	林 節雄	45
	12	藤田 永祐	46
	13	三好 健	47
	14	山田 修	48
(英・米文学)	15	E. Carney	49
(アメリカ文学)	16	秋山 武夫	50
	17	岡田 誠一	51
	18	香取 豊	52
	19	島田 啓一	53
	20	原 成吉	54
	21	升水 一三	55
	22	村松 美映子	56
	23	吉元 清彦	57
	24	M. A. Schible	58
(英米文化)	25	阿部 純一	59
	26	加賀爪 優	60
	27	佐藤 唯行	61
	28	佐藤 真千子	62
	29	杉山 晴信	63
	30	中村 繁	64
	31	鍋倉 健悦	65
	32	福井 嘉彦	66
	33	町田 喜義	67
	34	宮川 淑	68

専門講読

(英米文化) 35	森 永 京 一	6 9
英作文		
1	青 柳 明	7 0
2	青 柳 明	7 2
3,4	伊 藤 隆 男	7 4
5	四 宮 満	7 6
6	島 田 啓 一	7 8
7,8	中 村 粲	8 0
9	藤 田 永 祐	8 2
10	三 好 健	8 4
11	渡 邊 美代子	8 6
エッセイ・ライティング		
1	黒 岩 由 子	8 8
2	篠 田 愛 理	9 0
3	(前期完結) J. C. Allard	9 2
4	K. R. Bayne	9 4
5,6	E. Carney	9 5
7	F. Fearn	9 7
翻訳 I		
1	園 部 明 彦	9 8
2	林 節 雄	1 0 0
翻訳 II	藤 田 永 祐	1 0 2
Conversation I		
1	P. Apps	1 0 4
2	K. R. Bayne	1 0 6
3	P. Beland	1 0 8
4	W. J. Benfield	1 0 9
5	D. Bradley	1 1 1
6	R. J. Burrows	1 1 3
7	E. Carney	1 1 5
8	R. Durham	(最初の授業で説明)
9	A. R. Falvo	1 1 7
10	F. Fearn	1 1 9
11	T. J. Fotos	1 2 1
12,13	K. Harris	1 2 3
14	T. Hill	1 2 5
15,16	R. M. Homan	1 2 7
17	C. B. 池口	1 2 9
18	N. H. Jost	1 3 1
19	D. R. Kogge	1 3 3
20,21	R. M. Payne	1 3 5
22	C. J. Poel	1 3 6
23	M. A. Schible	1 3 8

Conversation I		
24	L. Villeneuve 1 4 0
25	J. J. Waldman 1 4 2
Conversation II		
1	K. R. Bayne 1 4 4
2	W. J. Benfield 1 4 6
3	D. Bradley 1 4 8
4	J. J. Duggan 1 5 0
5	R. Durham (最初の授業で説明)
6	A. R. Falvo 1 5 2
7	T. Hill 1 5 4
8	R. M. Homan 1 5 6
9	C. B. 池口 1 5 8
10	N. H. Jost 1 6 0
11	D. R. Kogge 1 6 2
12	P. McEvelly (最初の授業で説明)
Discussion		
1	W. J. Benfield 1 6 4
2	T. Hill 1 6 6
3	N. H. Jost 1 6 8
スピーチ		
1	大川道代 1 7 0
2	J. J. Duggan 1 7 2
ディベート		
	T. Hill 1 7 4
通訳 I		
	鍋倉健悦 1 7 6
英文法		
1	児玉仁士 1 7 8
2	近藤ヒカル 1 8 0
3	須賀川誠三 1 8 2
4	府川謹也 1 8 4
5	三好健 1 8 6
ビジネス英語 I		
1	海老沢達郎 1 8 8
2	海老沢達郎 1 9 0
3	杉山晴信 1 9 2
4	杉山晴信 1 9 4
5,6	信達郎 1 9 6
7	山本孝夫 1 9 8
8	山本孝夫 2 0 0
時事英語 I		
1,2	新井妥門 2 0 4
3	金子節也 2 0 6
4,5	工藤政司 2 0 8
6	佐藤真千子 2 1 0

時事英語 I

7	篠田 愛理	212
8	野村 展子	214
9	森永 京一	216
10	W. J. Benfield	218
ビジネス英語 II	杉山 晴信	202
時事英語 II		
1	新井 妥門	220
2	佐藤 真千子	222
3	森永 京一	224

「英語学」部門

英語学概論

1	神尾 昭雄	9
2	児玉 仁士	11
3	清水 由理子	13
4	長谷川 欣佑	15
言語情報処理		
1	高柳 敏子	239
2	前田 功雄	241
統語論	安井 美代子	243
意味論	神尾 昭雄	245
音声・音韻論	大西 雅行	247
英語史	近藤 ヒカル	249
英語学特殊講義	川崎 潔	251

「英米文学」部門

英米文学概論

1	(前期) 島田 啓一	17
		(後期) 林 節雄		
2	(前期) 林 節雄	19
		(後期) 島田 啓一		
3	(前期) 原 成吉	21
		(後期) 富士川 和男		
4	(前期) 富士川 和男	23
		(後期) 原 成吉		

英米文学史

1	秋山 武夫	257
2	(前期) 佐藤 勉	255
		(後期) 富士川 和男		

英米の小説

1	北澤 滋久	259
2	吉元 清彦	261

英米の詩	原 成吉	263
------	-------	------	-------	-----

英米の戯曲	(前期) 長谷部 加寿子	265
		(後期) 児嶋 一男		

「英米文化」部門

英米の社会と思想	萩間 寅男	269
----------	-------	-------	-------	-----

英米の歴史	佐藤 唯行	273
-------	-------	-------	-------	-----

英米の政治と経済	宮川 淑	271
----------	-------	------	-------	-----

英米事情

1	(前期) E. Carney	275
		(後期) M. A. Schible		

2	(前期) J. J. Duggan	277
		(後期) E. Carney		

英語圏文化特殊講義	福井 嘉彦	279
-----------	-------	-------	-------	-----

国際政治論 1	(前期) 有賀 貞	283
		(後期) 竹田 いさみ	285

国際政治論 2	(前期) 竹田 いさみ	285
		(後期) 有賀 貞	283

国際関係史	有賀 貞	287
-------	-------	------	-------	-----

国際開発協力論	加賀爪 優	289
---------	-------	-------	-------	-----

国際関係論特殊講義	加賀爪 優	291
-----------	-------	-------	-------	-----

国際コミュニケーション概論 1	(前期) 佐々木 輝美	25
		(後期) 若林 広		

国際コミュニケーション概論 2	(前期) 若林 広	27
	(後期) 町田 喜義	
異文化間コミュニケーション論		
1	石井 敏	295
2	町田 喜義	297
マスコミュニケーション論	佐々木 輝美	299
スピーチ・コミュニケーション論	石井 敏	301
コミュニケーション論特殊講義	鍋倉 健悦	303
特別セミナー 1	(前期完結) J. C. Allard	307
" 2	(前期完結) J. C. Allard	309

「第二外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	山本 淳	226
フランス語Ⅲ	田桐 正彦	227
スペイン語Ⅲ		
1	假名垣 宏	228
2	野々山 ミチコ	229
ドイツ語会話Ⅰ		
1	R. Briel	230
2	C. Jobst	231
3	U. J. 川村	232
フランス語会話Ⅰ		
1	R. Floirac	233
2	S. Giunta	234
3	Y. Perrot	235
スペイン語会話Ⅰ		
1	野々山 ミチコ	236
2	J. L. Velasco	236
スペイン語会話Ⅱ(会話) 1	霞 洋子	238
" (LL) 2	霞 洋子	237

目 次

1992年度以前入学者対象

「英語」部門

英語講読

(英語学)

1	川崎 潔	35
2	清水 由理子	36
3	須賀川 誠三	37
4	府川 謹也	38
5	T. Hill	39

(イギリス文学)

6	北澤 滋久	40
7	児嶋 一男	41
8	近藤 ヒカル	42
9	白鳥 正孝	43
10	長谷部 加寿子	44
11	林 節雄	45
12	藤田 永祐	46
13	三好 健	47
14	山田 修	48

(英・米文学)

(アメリカ文学)

15	E. Carney	49
16	秋山 武夫	50
17	岡田 誠一	51
18	香取 豊	52
19	島田 啓一	53
20	原 成吉	54
21	升水 一三	55
22	村松 美映子	56
23	吉元 清彦	57

(英米文化)

24	M. A. Schible	58
25	阿部 純一	59
26	加賀爪 優	60
27	佐藤 唯行	61
28	佐藤 真千子	62
29	杉山 晴信	63
30	中村 祭	64
31	鍋倉 健悦	65
32	福井 嘉彦	66
33	町田 善義	67

英語講読

(英米文化)	34	宮 川 淑	6 8
	35	森 永 京 一	6 9

英作文

	1	青 柳 明	7 0
	2	青 柳 明	7 2
	3,4	伊 藤 隆 男	7 4
	5	四 宮 満	7.6
	6	島 田 啓 一	7 8
	7,8	中 村 粂	8 0
	9	藤 田 永 祐	8 2
	10	三 好 健	8 4
	11	渡 邊 美代子	8 6
(エッセイ・ライティング)	12	黒 岩 由 子	8 8
(エッセイ・ライティング)	13	篠 田 愛 理	9 0
(エッセイ・ライティング)	14 (前期完結)	J. C. Allard	9 2
(エッセイ・ライティング)	15	K. R. Bayne	9 4
(エッセイ・ライティング)	16,17	E. Carney	9 5
(エッセイ・ライティング)	18	F. Fearn	9 7
(翻訳 I)	19	園 部 明 彦	9 8
(翻訳 I)	20	林 節 雄	1 0 0
(翻訳 II)	21	藤 田 永 祐	1 0 2

英会話

(Intermediate)	1	P. Apps	1 0 4
(Intermediate)	2	K. R. Bayne	1 0 6
(Intermediate)	3	P. Beland	1 0 8
(Intermediate)	4	W. J. Benfield	1 0 9
(Intermediate)	5	D. Bradley	1 1 1
(Intermediate)	6	R. J. Burrows	1 1 3
(Intermediate)	7	E. Carney	1 1 5
(Intermediate)	8	R. Durham (最初の授業で説明)	
(Intermediate)	9	A. R. Falvo	1 1 7
(Intermediate)	10	F. Fearn	1 1 9
(Intermediate)	11	T. J. Fotos	1 2 1
(Intermediate)	12,13	K. Harris	1 2 3
(Intermediate)	14	T. Hill	1 2 5
(Intermediate)	15,16	R. M. Homan	1 2 7
(Intermediate)	17	C. B. 池口	1 2 9
(Intermediate)	18	N. H. Jost	1 3 1
(Intermediate)	19	D. R. Kogge	1 3 3
(Intermediate)	20,21	R. M. Payne	1 3 5
(Intermediate)	22	C. J. Poel	1 3 6
(Intermediate)	23	M. A. Schible	1 3 8
(Intermediate)	24	L. Villeneuve	1 4 0

英会話

(Intermediate)	25	J. J. Waldman	1 4 2
(Advanced)	26	K. R. Bayne	1 4 4
(Advanced)	27	W. J. Benfield	1 4 6
(Advanced)	28	D. Bradley	1 4 8
(Advanced)	29	J. J. Duggan	1 5 0
(Advanced)	30	R. Durham	(最初の授業で説明)
(Advanced)	31	A. R. Falvo	1 5 2
(Advanced)	32	T. Hill	1 5 4
(Advanced)	33	R. M. Homan	1 5 6
(Advanced)	34	C. B. 池口	1 5 8
(Advanced)	35	N. H. Jost	1 6 0
(Advanced)	36	D. R. Kogge	1 6 2
(Advanced)	37	P. McEvelly	(最初の授業で説明)
(Highly Advanced : Discussion)	38	W. J. Benfield	1 6 4
(Highly Advanced : Discussion)	39	T. Hill	1 6 6
(Highly Advanced : Discussion)	40	N. H. Jost	1 6 8
(Highly Advanced : スピーチ)	41	大川 道 代	1 7 0
(Highly Advanced : スピーチ)	42	J. J. Duggan	1 7 2
(Highly Advanced : ディベート)	43	T. Hill	1 7 4
(Highly Advanced : 通訳)	44	鍋 倉 健 悦	1 7 6

英文法

1	児 玉 仁 士	1 7 8
2	近 藤 ヒカル	1 8 0
3	須賀川 誠 三	1 8 2
4	府 川 謹 也	1 8 4
5	三 好 健	1 8 6

時事英語 I

1,2	新 井 妥 門	2 0 4
3	金 子 節 也	2 0 6
4,5	工 藤 政 司	2 0 8
6	佐 藤 真千子	2 1 0
7	篠 田 愛 理	2 1 2
8	野 村 展 子	2 1 4
9	森 永 京 一	2 1 6
10	W. J. Benfield	2 1 8

商業英語 I

1	海老沢 達 郎	1 8 8
2	海老沢 達 郎	1 9 0
3	杉 山 晴 信	1 9 2
4	杉 山 晴 信	1 9 4
5,6	信 達 郎	1 9 6
7	山 本 孝 夫	1 9 8
8	山 本 孝 夫	2 0 0

「英米文化」部門

英米の哲学	荻 間 寅 男	2 6 9
英米の歴史	佐 藤 唯 行	2 7 3
英米事情				
1 (前期) E. Carney		2 7 5
 (後期) M. A. Schible			
2 (前期) J. J. Duggan		2 7 7
 (後期) E. Carney			
英米の経済	宮 川 淑	2 7 1
英米文化特殊講義	福 井 嘉 彦	2 7 9
コミュニケーション論特殊講義				
(異文化間コミュニケーション論)	1	石 井 敏	2 9 5
(スピーチ・コミュニケーション論)	2	石 井 敏	3 0 1
(マス・コミュニケーション論)	3	佐々木 輝美	2 9 9
(異文化間コミュニケーション)	4	鍋 倉 健 悦	3 0 3
(異文化間コミュニケーション論)	5	町 田 喜 義	2 9 7
国際関係論特殊講義				
(国際関係史)	1	有 賀 貞	2 8 7
(国際政治論)	2	(前期) 有 賀 貞	2 8 3
		(後期) 竹 田 いさみ	2 8 5
(国際政治論)	3	(前期) 竹 田 いさみ	2 8 5
		(後期) 有 賀 貞	2 8 3
(国際開発協力論)	4	加賀爪 優	2 8 9
(国際貿易論)	5	加賀爪 優	2 9 1

「第二外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	山 本 淳	2 2 6
ドイツ語会話Ⅰ				
1	R. Briel	2 3 0
2	C. Jobst	2 3 1
3	U. J. 川村	2 3 2
フランス語Ⅲ	田 桐 正 彦	2 2 7
フランス語会話Ⅰ				
1	R. Floirac	2 3 3
2	S. Giunta	2 3 4
3	Y. Perrot	2 3 5
スペイン語Ⅲ				
1	假名垣 宏	2 2 8
2	野々山 ミチコ	2 2 9
スペイン語会話Ⅰ				
1	野々山 ミチコ	2 3 6

2	J. L. Velasco	2 3 6
スペイン語会話Ⅱ		
(会話) 1	霞 洋子	2 3 8
(LL) 2	霞 洋子	2 3 7

科目名	英語Ⅰ（講読）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>講読の方法にはいろいろあるが、大きく分けると、ことば遣いや内容をじっくり味わい検討していく読み方と大量のページ数を速く読みその概要をつかむ読み方がある。英語Ⅰでは、読む目的に応じて読み方を変えることが出来るようになること、語彙を増やしていくこと、行間を読みとることなど、さまざまな形の「読む」という言話活動をとおして、現代英語で書かれた英文を読む基礎的な力を育成する。</p>	
講義概要	<p>授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>	
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。
	参考文献	
評価方法	<p>各担当教員が授業時に説明する。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	英語 I (Reading) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	Objectives of this program : 1) to develop good reading skills, i. e. inferring, guessing the meaning of a word from context, getting into the habit of using an English-English dictionary 2) to build passive vocabulary, including some slang and "culture-bound" vocabulary 3) to develop extensive, as well as intensive, reading skills 4) to encourage students to think deeply enough about a selection to give their own opinion or comments 5) to introduce students to taking responsibility for their own reading (outside readers) 6) to give students the chance to see that English reading can also be an enjoyable and interesting, as well as an informative experience.
講義概要	Teaching Program : Texts: The texts will form the core of the course. There are two types: the 'in-class text' and the 'outside readers.' The in-class text will be the main text of the class. There will be two outside readers: one for the first term, and one for the second term. How each instructor handles the actual week to week classroom instruction is up to the discretion of that instructor. This may include, but is not limited to, student reading, explanation of lexical or content points, supplementary reading, lectures, video, homework and in-class assignments, quizzes, etc. It is suggested that two class periods be spent on each main text selection, one class to cover the basics, such as reading, vocabulary, and comprehension, and the other on the reading skills related to the selection.
使用教材	テ キ ス ト <p>Issues for Today (U. S. edition). L. C. Smith & N. N. Mare (1990) Heinle and Heinle Publishers</p> <p>The Wonderful Story of Henry Sugar. Roald Dahl (1977) Shinozaki Shorin</p> <p>Island of the Blue Dolphins. Scott O'Dell (1987) Houghton Muffin Company</p>
評価方法	Scoring & Grading System : As the core of this program is based not just on vocabulary and comprehension, but also on developing good reading skills, the following guidelines are recommended in determining grades: committee-prepared midyear and final tests (40%); reading skills tests (40%); attendance & participation (20%).
受講者に対する要望など	

科目名	英語Ⅱ（講読）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	読解力を身につけるためには、出来るだけ量を多く読むことが必要とされる。英語Ⅱでは、英語Ⅰに引き続き、現代のさまざまな英文を読み、基礎的な読解力をさらに伸ばしていく。	
講義概要	授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。	
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。
	参考文献	
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅲ (Basic Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Students will make use of a listening program complemented by production (conversation) relevant to the material at hand.</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Listen for It</i> (new edition). J. C. Richards et. al. (1995). Oxford University Press.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>The following guidelines are recommended in determining grades: examinations (40%); quizzes and assignments (20%); attendance and participation (40%).</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅲ (Intermediate Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講義概要	<p>Two video courses have been approved for use with this program. They are the <i>Mystery Tour</i> course and the <i>Jericho Conspiracy</i> course. Instructors may use one of these, or use their own material, in accordance with course goals and guidelines. The two approved courses work around a three-part system that consists of <i>text</i>, <i>activity</i> and <i>topic</i>. The text consists of a video and student activity book of eight to ten episodes. The activity refers to those complementary exercises or activities relating to a linguistic or topical point being covered in a certain episode of the text. The topic is a weekly pre-lesson (homework) writing exercise related to a linguistic or topical point being covered in the lesson. It emphasizes the building of communication skills (speaking & listening), as well as cultural and affective targets (getting to know your classmates better and taking into account the opinions of others).</p>		
使用教材	テキスト	<p>The Jericho Conspiracy. V. Hollett & R. Baldwin. (1992). OUP. <i>Mystery Tour</i>. P. Viney & K. Viney. (1988). OUP</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Scoring & Grading System (esp. for <i>Mystery Tour</i> & <i>Jericho Conspiracy</i> Courses) : attendance & participation (40%) ; tests & quizzes (40%) ; topics (20%).</p> <p>For classes not using the available courses, grading will be up to the discretion of each individual instructor.</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅲ (Advanced Conversation) (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	--------------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>	
講義概要	<p>Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test would find themselves in the Advanced Conversation course. The great majority of students in this course will most likely be made up of returnees, and as such will already be competent in listening skills. More time should therefore be spent on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc.</p> <p>As the native English-speaking staff teaching here are considered to be professionals with expertise in teaching, particularly in the area of English conversation, it has been decided to give the instructors in this program the freedom to teach as they see best, but with regard to the course goals.</p>	
使用教材	テキスト	Up to the discretion of each individual instructor
	参考文献	
評価方法	Up to the discretion of each individual instructor	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<p>文法知識を単に知識としてではなく、生きた「ことば」を表現する手段として活用し、与えられた状況にふさわしい英文が書けるようにする。また、日本語と英語の表現や発想の違いにも注意を払い、より良い表現が出来るようにする。</p> <p>学科共通科目の「英作文」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講義概要	<p>実際に英文を多く書くことによって、表現法や文体を習得していくことになるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献		
評価方法	各担当教員が授業時に説明する。		
受講者に対する要望など	<p>原則として、受講希望者は全員受講できるが、英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）の最初の授業に出席して英作文のテストを受け、自分の英作文能力に合ったレベルの授業を受講することを希望する。</p>		

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）（94年度以降）	担当者名	各担当教員
-----	---------------------------	------	-------

講義の目標	<p>和文英訳ではなく、英語で考えて英語で書くことを目的とする。しかし、書くと言っても、ただ英文で書けばよいのではない。断片的な文を書くのではなく、いくつかの文を内容的に関連づけながら、論理性のある文章を書くことが求められる。</p> <p>その第一段階として、ある一つの中心となる考え（main idea）について、いくつかの英文で表現し、まとめてみることから始める。英語で文章を書く際に基本となるパラグラフの構成の仕方について学ぶ。</p> <p>学科共通科目の「エッセイ・ライティング」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講義概要	<p>実際にパラグラフを数多く書くことが要求されるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に説明がある。</p>		
使用教材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献	各担当教員が授業時に説明する。	
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>最初の授業で、簡単な英作文能力を測るテストを行い、その結果により受講許可を決定する。受講許可をもらえなかった場合は、英語Ⅳ（文法・作文）を受講すること。</p>		

科目名	英語学概論1	担当者名	神尾昭雄
-----	--------	------	------

講義の目標	現代の英語学とはどのようなものを学生に理解させ、特に言語学的な英語の分析がどのようにして行なわれるか、またその基礎がどのようなものであるかを詳しく教える。		
講義概要	現代の英語学についての言語学的入門。言語について、特に英語についての基礎知識を与え、言語学的に言語を分析する態度を養う。		
使用教材	テキスト	V. Fromkin and R. Rodman; <i>An Introduction to Language</i> (Fifth edition) Harcourt, Brace and Jovanovich	
	参考文献	・中島平三・外池滋生編『言語学への招待』大修館書店 なおテキストは第1回目の授業時に販売するので、各自¥2500程度を忘れずに持参すること。	
評価方法	前・後期各1回の定期試験および1年間に4回行なう平常試験の計6回の試験結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	英語の教科書をかなり早い進度で用いるので、英語を読みこなして予習・復習のできる語学力と熱意を必要とする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書の販売。授業のすすめ方。教科書の用い方。成績評価について。
2	教科書第1章の概説。言語とは何か。ある言語を身につけるとはどういうことか。文法とはどのようなものか。
3	教科書第2章の概説。単語とはどのようなものか。形態素とは何か。語形成の規則。文法的形態素とは何か。
4	教科書第3章前半の概説。統語論とは何か。文の構造。句構造規則について。
5	教科書第3章後半の概説。語い目録とは何か。変形規則について。文の構造再考。言語のタイプについて。
6	復習のためのテスト第1回。
7	教科書第4章前半について。単語の意味。同義性と言い替え。反意語について。
8	教科書第4章後半について。単語の意味と句および文の意味。意味論と統語論の関係。意義と指示。イデオロム。
9	教科書第5章前半について。音声学とはどのようなものか。単音とその性質について。調音音声学の基礎。
10	教科書第5章前半について(続き)。調音音声学概説。
11	教科書第5章後半について。韻律とは何か。英語の母音体系のまとめ。
12	復習のためのテスト第2回。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書第6章前半について。音韻論とは何か。音素について。音韻素性について。
2	教科書第6章前半について(続き)。音韻論の規則。自然類について。
3	教科書第6章後半について。音節の構造。イントネーションと強勢。超分節的特性について。
4	復習のためのテスト第3回。
5	教科書第7章について。社会言語学とはどのようなものか。英語の方言について。黒人英語について。スラングについて。
6	教科書第8章はじめについて。英語の歴史的变化。大母音推移について。
7	教科書第8章中頃～終り。言語変化について。比較言語学について。言語の系統分類。
8	教科書第8章終り。世界の諸言語と英語および日本語について。
9	復習のためのテスト第4回
10	教科書第9章の概説。書字言語について。アルファベットの発達。
11	まとめ
12	予備日(学会出張などに備えて)
備考	

科目名	英語学概論 2	担当者名	児玉仁士
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語がもっている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。</p>		
講義概要	<p>英語学は、英語を専攻する者が基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である。それには、英語が1つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになる。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。</p>		
使用教材	テキスト	E. M. Heatherington; <i>How Language Works</i> (英語学入門)、金星堂	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石黒昭博・他著『現代の英語学』 金星堂 ・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社 ・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館 ・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂 	
評価方法	<p>評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとり、それも総合評価に加味したい。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能をもっているのかを、概観したい。
2	第1章：言語および言語行為 1)伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2)言語の特性
3	3)言語記号の2面性・恣意性・線状性 4)言語研究の分野・方法
4	第2章：英語の音声 1)言語音声 2)言語音声の記述：音声学・音韻論
5	3)音声表記・音素表記：万国表音文字、精密表記・簡略表記 4)発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5)音声の分類：母音と子音、有声音・無声音
6	6)母音の分類と種類 7)子音の分類と種類
7	8)音節・強勢／弱勢・アクセント・音調 9)音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化
8	10)リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型
9	第3章：英語の意味 1)「意味」とは？ 2)意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論
10	3)言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4)意味の分析：Osgoodの「意味微分法」とKatz/Forderの「意義素性分析」
11	5)意味の同一性：外延的・内包の意味 6)意味の多義性：辞書の語義
12	7)意味の具象性と抽象性：Hayakawaの「抽象の過程」 8)意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第4章：英語の文法 1)「文法」の概念・その変遷 2)文法の研究の方法・その種類
2	3)文法の記述の対象：形態論・統語論 4)規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準
3	5)科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersenの文法
4	6)構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析
5	7)変形生成文法：Chomskyの理論とその変遷
6	第5章：英語の歴史 1)インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語派の位置：Grimmの音韻法則
7	2)西ゲルマン諸語（フリジア語、オランダ語・ドイツ語）と英語との比較：第2次子音推移 3)英語とフリジア語の類似性
8	4)英語史の時代区分とイギリスの歴史（特に、アングロ・サクソン期および中期）
9	5)英語の階級方言・社会方言 6)古期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）
10	7)中期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）：Chaucerの英語、大母音推移
11	8)近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeareの英語
12	9)アメリカ英語 10)英語の辞書：編纂とその歴史
備考	

科目名	英語学概論 3	担当者名	清水 由理子
-----	---------	------	--------

講義の目標	英語という言語の研究分野について紹介する。英語がどのような視点から研究されてきたか、また、現在研究されているのかを知ることによって、英語のみならず私たちが毎日使っている「ことば」に、より深い理解と関心を持ってほしいと願っている。		
講義概要	数ある言語の中の1つである英語とは、どのような特徴をもった「ことば」であるのか、さまざまな角度から概観する。具体的なテーマについては、年間講義予定表を参照のこと。		
使用教材	テキスト	石黒昭博他著『現代の英語学』 金星堂	
	参考文献	参考文献は、テーマごとに必要に応じて紹介するが、テキスト巻末の参考文献を活用してほしい。	
評価方法	平常時に行う quiz やレポートと前期・後期の定期試験により評価する。		
受講者に対する要望など	必ずテキストの関連した章を読んだ上で、講義に出席してほしい。 研究室：〔636〕		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語学とはどのようなことを研究する分野か。 (テキストの第1章参照)
2	「ことば」とはどのようなものか。人間のことばの特徴。
3	英語の音構造 音声学 (1) 音声学について (第3章の1) 英語音の特徴①
4	音声学 (2) 英語音の特徴② (")
5	音韻論 (1) 音素について (第3章の2)
6	音韻論 (2) 超文節音素について (")
7	英語の語構造 形態論 (1) 形態素について (第4章の1)
8	形態論 (2) 語の形成 (第4章の2)
9	英語の文構造 統語論 (1) 科学的伝統文法での考え方 (第5章の1)
10	統語論 (2) 構造主義文法での考え方 (第5章の2)
11	統語論 (3) 生成文法での考え方 (第6章)
12	統語論 (4) 格文法と意味 (第7章)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語の意味構造 意味論 (1) 意味とは。語の意味 (第8章の1と2)
2	意味論 (2) 文の意味 (第8章の3)
3	語用論 語用論について (第8章の4)
4	英語の歴史 (1) ブリテン島の歴史と言語 (第9章の1と2)
5	(2) 古期英語の文字と発音 (")
6	(3) 古期英語の語彙と文法 (")
7	(4) 中期英語の時代的背景 (第9章の3)
8	(5) 中期英語の綴りと発音 (")
9	(6) 中期英語の語彙と文法 (")
10	(7) 近代英語の特徴 (第10章)
11	(8) アメリカの英語 (第11章)
12	まとめ
備考	

科目名	英語学概論 4	担当者名	長谷川 欣 佑
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。</p>		
講義概要	<p>人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。</p>	
	参考文献	<p>Akmajian-Heny (1975), <i>An Introduction to the Principles of Transformational Syrtax</i> (MIT Press); Akmajian-Demers-Farmer-Harnish (1995), <i>Linguistics</i> (MIT Press); L.Haegeman (1994²), <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (Blackwell)</p>	
評価方法	<p>前・後期一回ずつのテストと授業への参加度</p>		
受講者に対する要望など	<p>連続した体系をなすので毎回出席すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は「序論」と「第1部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。
2	
3	
4	「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規制」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとりやや詳しく解説。
5	
6	「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り上げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上6-7週）、Tough構文移動変形（8週）、繰り上げ変形（Raising）（9週）、助動詞成分の分析（10-11週）、など。
7	
8	
9	
10	
11	
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期「第2部：英語統語構造の概要」 前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。
2	「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。
3	
4	「動詞+小辞」、「動詞+前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。
5	
6	
7	受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。
8	
9	名詞句の内部構造
10	Wh-句移動変形などへの「一般的制約」
11	
12	試験
備考	

科目名	英米文学概論 1 (93年度以降)	担当者名	島田啓一(前期) 林 節雄(後期)
-----	-------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』（増補版）（中京出版、1985）	
評価方法	定期試験90%、不定期に課す小テスト10%の予定。		
受講者に対する要望など			

前期

講義の目標	文学は言葉によって人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。「イギリス」文学はその言葉が英語になる。英国史と「イギリス文学」史の常識を講義し、その実態を明らかにし、ひいては英語がなぜ今のような形をしているかにつき理解を深める。		
講義概要	アメリカとともに英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを示す。ついでそれを背景として多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同様になるべく分かりやすいイメージを提供する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。	
評価方法	毎回の小クイズ（出席カードの裏に解答する）と、定期試験による。		
受講者に対する要望など	「ハムレット」や「若き日の芸術家の肖像」など名作を自分で読むこと。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	Multiculturalism (1) : 概説。〈以下、()内は授業で読む予定の作品名〉
2	Multiculturalism (2) : African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
3	Multiculturalism (3) : Jewish Writers ("The First Seven Years")
4	Modernism (1) : Post Modernism と Modernism の作家たち : John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.
5	Modernism (2) : William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")
6	Modernism (3) : William Faulkner と Yoknapatawpha County (<i>The Sound and the Fury</i>)
7	Realism と Naturalism (自然主義) : "gender/class/race" -- Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)
8	19世紀の詩 : E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編)
9	Hawthorne と Melville の時代(1) : Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
10	Hawthorne と Melville の時代(2) : Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
11	創世期のアメリカ文学 : Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.
12	予備
備考	

後期

週	主要テーマ
1	イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の流れを解説する。
2	イギリスの歴史のうち、王政復古から20世紀初めまでの流れを解説する。
3	イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを解説する。
4	イギリス文学史のうち、18世紀の批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを解説する。
5	20世紀初めの作家たちが主に何を考えていたかを説明し、具体的な例として H. G. Wells の古典的 SF である <i>The Time Machine</i> を解説する。
6	同じく H. G. Wells の SF である <i>The Island of Doctor Moreau</i> を解説する。
7	ポーランドに生まれイギリスに帰化した重要な作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> を解説する。
8	同じく <i>Lord Jim</i> の続きを解説する。
9	同じく J. Conrad の小説 "Heart of Darkness" を解説する。
10	劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の自伝的小説 <i>Of Human Bondage</i> を解説する。
11	同じく <i>Of Human Bondage</i> の解説。
12	同じく <i>Of Human Bondage</i> の解説。
備考	

科目名	英米文学概論 2 (93年度以降)	担当者名	林 節雄(前期) 島田啓一(後期)
-----	-------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	文学は言葉によって人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。「イギリス」文学はその言葉が英語になる。英国史と「イギリス文学」史の常識を講義し、その実態を明らかにし、ひいては英語がなぜ今のような形をしているかにつき理解を深める。		
講義概要	アメリカとともに英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを示す。ついでそれを背景として多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同様になるべく分かりやすいイメージを提供する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。	
評価方法	毎回の小クイズ（出席カードの裏に解答する）と、定期試験による。		
受講者に対する要望など	「ハムレット」や「若き日の芸術家の肖像」など名作を自分で読むこと。		

後期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』〈増補版〉（中京出版、1985）	
評価方法	定期試験90%、不定期に課す小テスト10%の予定。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の流れを解説する。
2	イギリスの歴史のうち、王政復古から20世紀初めまでの流れを解説する。
3	イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを解説する。
4	イギリス文学史のうち、18世紀の批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを解説する。
5	20世紀初めの作家たちが主に何を考えていたかを説明し、具体的な例として H. G. Wells の古典的 SF である <i>The Time Machine</i> を解説する。
6	同じく H. G. Wells の SF である <i>The Island of Doctor Moreau</i> を解説する。
7	ポーランドに生まれイギリスに帰化した重要な作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> を解説する。
8	同じく <i>Lord Jim</i> の続きを解説する。
9	同じく J. Conrad の小説 "Heart of Darkness" を解説する。
10	劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の自伝的小説 <i>Of Human Bondage</i> を解説する。
11	同じく <i>Of Human Bondage</i> の解説。
12	同じく <i>Of Human Bondage</i> の解説。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Multiculturalism (1) : 概説。〈以下、()内は授業で読む予定の作品名〉
2	Multiculturalism (2) : African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
3	Multiculturalism (3) : Jewish Writers ("The First Seven Years")
4	Modernism (1) : Post Modernism と Modernism の作家たち : John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc.
5	Modernism (2) : William Faulkner と Yoknapatawpha County ("That Evening Sun")
6	Modernism (3) : William Faulkner と Yoknapatawpha County (<i>The Sound and the Fury</i>)
7	Realism と Naturalism (自然主義) : "gender/class/race" -- Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)
8	19世紀の詩 : E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc. (詩を数編)
9	Hawthorne と Melville の時代(1) : Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
10	Hawthorne と Melville の時代(2) : Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
11	創世期のアメリカ文学 : Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.
12	予備
備考	

科目名	英米文学概論3 (93年度以降)	担当者名	原 成吉(前期) 富士川和男(後期)
-----	------------------	------	-----------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題を各テーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしている」の視点からアメリカの(異)文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝/高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> —『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> —『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		

後期

講義の目標	イギリスを知るためには、文化遺産としての文学作品は、頼りがいのあるガイドである。作家たちは自己のオリジナリティを賭けて現実と相対することで、作品を生むからである。まず初心者用に、イギリス文学の輪郭と特色を、ほのかに浮び上らせる。		
講義概要	毎回テーマにそって作品をえらび、それを解説しながら、より深い味わい方を考える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	講義形式をとる。必要に応じてプリントを配付する。	
評価方法	期末試験を行なう。		
受講者に対する要望など	自分にとって何か興味深いことはないかと、好奇心をもつこと。仕込んだ知識を自分でふくらますこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカ文学の特徴について (序論)
2	ネイティブ・アメリカンの文学
3	土地が作る文学
4	デモクラシーと文学
5	戦争と文学
6	マルチ・カルチャリズムと文学(1)
7	マルチ・カルチャリズムと文学(2)
8	マルチ・カルチャリズムと文学(3)
9	カウンター・カルチャと文学
10	フェミニズムと文学
11	現代詩を読む
12	作品研究の方法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論：イギリス文学の成り立ちと歴史的展開
2	文学と時代背景 1 マロリー：「アーサー王の死」
3	文学と時代背景 2 シェイクスピア：「リア王」
4	シェイクスピア劇の世界 1 喜劇「お気に召すまま」
5	シェイクスピア劇の世界 2 悲劇「マクベス」 史劇「リチャード3世」
6	イギリスの詩：理性と感情 詩型と想像力 ポップ、ワーズワース、シェリー
7	イギリスの小説 1 理性と感情 オーステン「マンスフィールド・パーク」 エミリー・ブロンテ「嵐ヶ丘」
8	イギリスの小説 2 社会と小説家 ディケンズ「ディヴィッド・コパーフィールド」 サッカレー「虚栄の市」
9	イギリス小説 3 思想と小説 ジョージ・エリオット「ミドルマーチ」 グレアム・グリーン「事物の核心」
10	イギリス小説 4 諷刺小説 スイフト「ガリバー旅行記」 キングスリー・エイミス「ラッキー・ジム」
11	イギリス文学と20世紀 ジョイス、ロレンス、ウルフ フォスター、ドラブル
12	総括：伝統と変革 マッシュウ・アーノルドと T. S. エリオット
備考	

科目名	英米文学概論4 (93年度以降)	担当者名	富士川和男(前期) 原 成吉(後期)
-----	------------------	------	-----------------------

前期

講義の目標	イギリスを知るためには、文化遺産としての文学作品は、頼りがいのあるガイドである。作家たちは自己のオリジナリティを賭けて現実と相対することで、作品を生むからである。まず初心者用に、イギリス文学の輪郭と特色を、ほのかに浮び上らせる。		
講義概要	毎回テーマにそって作品をえらび、それを解説しながら、より深い味わい方を考える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	講義形式をとる。必要に応じてプリントを配付する。	
評価方法	期末試験を行なう。		
受講者に対する要望など	自分にとって何か興味深いことはないかと、好奇心をもつこと。仕込んだ知識を自分でふくらますこと。		

後期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題を各テーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝/高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> —『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> —『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論：イギリス文学の成り立ちと歴史的展開
2	文学と時代背景1 マロリー：「アーサー王の死」
3	文学と時代背景2 シェイクスピア：「リア王」
4	シェイクスピア劇の世界1 喜劇「お気に召すまま」
5	シェイクスピア劇の世界2 悲劇「マクベス」 史劇「リチャード3世」
6	イギリスの詩：理性と感情 詩型と想像力 ポープ、ワーズワース、シェリー
7	イギリスの小説1 理性と感情 オースチン「マンズフィールド・パーク」 エミリー・ブロンテ「嵐ヶ丘」
8	イギリスの小説2 社会と小説家 ディケンズ「ディヴィッド・コパーフィールド」 サッカレー「虚栄の市」
9	イギリス小説3 思想と小説 ジョージ・エリオット「ミドルマーチ」 グレアム・グリーン「事物の核心」
10	イギリス小説4 諷刺小説 スウィフト「ガリバー旅行記」 キングスリー・エイミス「ラッキー・ジム」
11	イギリス文学と20世紀 ジョイス、ロレンス、ウルフ フォスター、ドラブル
12	総括：伝統と変革 マッシュウ・アーノルドとT.S. エリオット
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカ文学の特徴について（序論）
2	ネイティブ・アメリカンの文学
3	土地が作る文学
4	デモクラシーと文学
5	戦争と文学
6	マルチ・カルチャリズムと文学(1)
7	マルチ・カルチャリズムと文学(2)
8	マルチ・カルチャリズムと文学(3)
9	カウンター・カルチャと文学
10	フェミニズムと文学
11	現代詩を読む
12	作品研究の方法
備考	

科目名	国際コミュニケーション概論1(93年度以降)	担当者名	佐々木輝美(前期) 若林 広(後期)
-----	------------------------	------	-----------------------

前期

講義の目標	インターパーソナル・コミュニケーション、スピーチ・コミュニケーション、マス・コミュニケーション、そして異文化コミュニケーションに関する基本用語を説明することができ、かつ具体的なコミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。		
講義概要	先ず最初の数週間でコミュニケーションの初歩的なことについて説明する。その後、インターパーソナル・コミュニケーション、スピーチ・コミュニケーション、マス・コミュニケーションそして異文化コミュニケーションについて講義する。		
使用教材	テキスト	プリント配布予定	
	参考文献	橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』 桐原書店 1993	
評価方法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	自然科学のように実験を行うことのできない社会科学における唯一それに代わるものは歴史である。現在の国際関係を理解するうえでは、特に「現代」の歴史的素養を持ち合わせることは大変重要である。だが歴史家はしばしば「現代」は歴史ではないと言い続けて来ている。しかし第二次世界大戦以降の現代世界は、民主化の徹底、技術の進歩等により、政治と経済また社会が密接に結び付くようになっており、これ以前の時代に比べ同時代の歴史が描きやすくなりつつあると言える。国際関係論の入門科目と位置づけられる本講では、このような視点から今後の国際関係論学習への準備として、戦後世界の歴史を、その政治・経済権力の展開・国民国家の変容といった構造変動に焦点を当てて学んで行く。		
講義概要	1989年から1990年にかけての東欧諸国における社会主義体制の崩壊は、戦後国際政治における最大の変革と言って差し支えなく、その後、ポスト冷戦期を展望したり、冷戦期とポスト冷戦期を比較する研究などが、数々出版された。しかし今や、そのベルリンの壁の崩壊から既に8年が経とうとしており、受講生諸君にとってはポスト冷戦期が日常の世界であり、冷戦とはいかなるものであったかも明確には把握しにくいのではないかと思われる。よって、本講では、戦後世界の歴史を、まず政治と経済の(多極、二極、一極といった)構造の面から把握、分析し、さらには冷戦期とポスト冷戦期の対比を浮き彫りにする形で学んで行きたい。		
使用教材	テキスト	細谷千博監修『国際政治の21世紀像』有信堂	
	参考文献	坂本義和編『世界政治の構造変動 2 国家』岩波書店 1995年	
評価方法	出席及び学期末に行う筆記試験による。		
受講者に対する要望など	戦後史の流れは、現在世界で起こっている政治・経済的の事件・事項とも深く係わっており、授業ではそれらの事件・事項についても適宜言及したり、説明を求めないので、そのような事件・事項の理解のためにも、新聞の国際面、経済面を常に読んでおくこと。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	「何故言葉が使えても誤解が生じるのか？」という疑問に答えながら、コミュニケーション学の必要性について説明する。
2	コミュニケーションモデル①：基本的なコミュニケーション・モデルを引用しながら、モデルの落とし穴について説明を行う。
3	コミュニケーションモデル②：モデルから読み取れるコミュニケーションの要因について。
4	コミュニケーションに関する諸研究領域と相互の関係について。 ——ミクロレベルからマクロレベルまで——
5	インターパーソナル・コミュニケーションについての基本用語・理論について。(レポート課題発表：レポートは約千字程度にまとめる)
6	スピーチ・コミュニケーションについての基本用語・理論について。
7	ビデオ視聴(スピーチ・コミュニケーションについて) & 解説 (レポート提出締切り)
8	マスコミュニケーション① ——マスコミの影響について(送り手の視点から)——
9	マスコミュニケーション② ——マスコミの影響について(受け手の視点から)——
10	異文化コミュニケーション① ——カルチャーショック、ステレオタイプ、偏見、差別について——
11	異文化コミュニケーション② ——ノンバーバル・コミュニケーションについて——
12	まとめ
備考	

後期

週	主要テーマ
1	第二次世界大戦前の世界構造
2	第二次大戦後体制の成立
3	冷戦概念と現代国際政治史
4	アメリカと冷戦
5	ソ連・東欧圏の成立と冷戦
6	核抑止の論理的位相
7	戦後の国際経済体制
8	戦後経済体制の諸問題
9	国際経済構造の変容
10	冷戦構造の変容と崩壊
11	冷戦後の諸問題(1)エスニティーとナショナリズム
12	冷戦後の諸問題(2)地域主義の台頭
備考	

科目名	国際コミュニケーション概論2 (93年度以降)	担当者名	若林 広(前期) 町田喜義(後期)
-----	-------------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	自然科学のように実験を行うことのできない社会科学における唯一それに代わるものは歴史である。現在の国際関係を理解するうえでは、特に「現代」の歴史的素養を持ち合わせることは大変重要である。だが歴史家はしばしば「現代」は歴史ではないと言い続けて来ている。しかし第二次世界大戦以降の現代世界は、民主化の徹底、技術の進歩等により、政治と経済また社会が密接に結び付くようになっており、これ以前の時代に比べ同時代の歴史が描きやすくなりつつあると言える。国際関係論の入門科目と位置づけられる本講では、このような視点から今後の国際関係論学習への準備として、戦後世界の歴史を、その政治・経済権力の展開・国民国家の変容といった構造変動に焦点を当てて学んで行く。		
講義概要	1989年から1990年にかけての東欧諸国における社会主義体制の崩壊は、戦後国際政治における最大の変革と言って差し支えなく、その後、ポスト冷戦期を展望したり、冷戦期とポスト冷戦期を比較する研究などが、数々出版された。しかし今や、そのベルリンの壁の崩壊から既に8年が経とうとしており、受講生諸君にとってはポスト冷戦期が日常の世界であり、冷戦とはいかなるものであったかも明確には把握しにくいのではないかと思われる。よって、本講では、戦後世界の歴史を、まず政治と経済の(多極、二極、一極といった)構造の面から把握、分析し、さらには冷戦期とポスト冷戦期の対比を浮き彫りにする形で学んで行きたい。		
使用教材	テキスト	細谷千博監修『国際政治の21世紀像』有信堂	
	参考文献	坂本義和編『世界政治の構造変動 2 国家』岩波書店 1995年	
評価方法	出席及び学期末に行う筆記試験による。		
受講者に対する要望など	戦後史の流れは、現在世界で起こっている政治・経済的イベント・事項とも深く係わっており、授業ではそれらのイベント・事項についても適宜言及したり、説明を求めるので、そのようなイベント・事項の理解のためにも、新聞の国際面、経済面を常に読んでおくこと。		

後期

講義の目標	人々がいかにして相互間のコミュニケーションを行うかという点を明らかにする。		
講義概要	本講義は、'Introduction to Communication Study' とする。主な内容は、「コミュニケーションの領域と目的」、「コミュニケーション・プロセスに含まれる要因」、「人間行動における言語と非言語の役割」そして「異文化間コミュニケーションへの誘い」など。		
使用教材	テキスト	プリント、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	開講時に別紙配布する。	
評価方法	論述筆記試験 (5 題×20点)		
受講者に対する要望など	遅刻は認めない(担当者の入室と同時にドアの鍵をかける) 毎時限キーワードを挙げるので、それらをより広く・深く図書館で調べること		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第二次世界大戦前の世界構造
2	第二次大戦後体制の成立
3	冷戦概念と現代国際政治史
4	アメリカと冷戦
5	ソ連・東欧圏の成立と冷戦
6	核抑止の論理的位相
7	戦後の国際経済体制
8	戦後経済体制の諸問題
9	国際経済構造の変容
10	冷戦構造の変容と崩壊
11	冷戦後の諸問題(1)エスニシティとナショナリズム
12	冷戦後の諸問題(2)地域主義の台頭
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要の説明、「国際コミュニケーション」の概念について
2	コミュニケーション：日常語として、専門用語として
3	コミュニケーション：その領域と目的、送り手と受け手について
4	コミュニケーション・プロセスのモデル：プロセスの概念やコミュニケーションの構成要素について
5	コミュニケーションの精度：「効果」の概念、効果の決定要因
6	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション：「言語学」および「非言語学？」の知見から
7	学習：個人的状況におけるコミュニケーション
8	相互作用：対人コミュニケーションの目標
9	社会システム：コミュニケーションのマトリックス
10	意味とコミュニケーション：言語と意味
11	意味の次元：いろいろな種類の意味
12	エピローグ：異文化間コミュニケーションへの誘い
備考	※講義内容および順序は必要に応じて変更する場合がある。初回の講義でより詳細な時程を配布する。

科目名	英語音声学1,2,3,4,5(94年度以降)	担当者名	大西雅行
-----	------------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	英語の音声の生成と構造を講義する。		
講義概要	世界の英語、英米語の相違、英語の標準音、音成生成の仕組み、英語の音声特徴、母音、子音、リズム、ストレス、音長、イントネーションなどを講義する。テープも使う。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. C. Gimson ; <i>An introduction to the Pronunciation of English</i> ・ P. Ladefoged ; <i>Course in Phonetics</i> ・ A. J. Bronstein ; <i>The Pronunciation of American English</i> 	
評価方法	定期試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語音の研究方法、世界の英語 英語の標準音
2	発音器官
3	音の表記法
4	基準音と母音表記
5	単母音一①
6	単母音一②
7	二重母音
8	子音一覧
9	破裂音、破擦音
10	鼻音、側音、摩擦音、半母音
11	ストレス
12	イントネーション
備考	

科目名	スピーチ・クリニック1,2,4,5 (94年度以降)	担当者名	津田 望
-----	----------------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	<p>①アメリカ音の発話メカニズムを理解し、習得する。</p> <p>②dictation 課題により、聴取能力の改善を目指す。</p>		
講義概要	<p>本講義は、LLとVTRを使用し、視聴覚フィードバックを繰り返しながら、アメリカ音の調音について学習する。ここでは、音声学の理論的な説明はほとんどしないので、前期にこの授業をとる学生は、英語音声学の概要は知っておくこと。またその授業で目標にした調音の獲得が難しい学生で希望者には、時間がとれる限りtutorialをするつもりなので、その中で個別チェックを受けることを勧める。</p>		
使用教材	テキスト	授業開始時に配布。	
	参考文献		
評価方法	授業への参加・貢献度と、欠席と遅刻の頻度。		
受講者に対する要望など	授業はチャイムと同時に始める。遅刻は10分まで。毎授業、オーディオテープ2本と鏡を持参すること。		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	序—英語音を発音するために。breathing, intonation, pitch など。
2	子音(1) : [p][t][k][b][d][g]
3	母音(1) : [i][ɪ]
4	子音(2) : [s][z][ʃ][ʒ]
5	母音(2) : [æ][a][ʌ]
6	子音(3) : [f][v]
7	母音(3) : [e][e']
8	子音(4) : [θ][ð]
9	母音(4) : [ʊ][ə][ɜ]
10	子音(5) : [l][r]
11	母音(5) : [u][U]
12	音声分析 (パソコン使用)
備考	

科目名	スピーチ・クリニック3 (94年度以降)	担当者名	大西雅行
-----	----------------------	------	------

(半期完結)

講義の目標	正しい英語発音の習得のため、個人癖を矯正し、音の基礎訓練を行う。	
講義概要	正しい発音法の修得に多少の説明を加え、映像と実際音とを併用し、繰り返し練習する。教室は機器設備の備ったLL教室を使う。授業内容は英語のもつ母音、子音の各音を主に、連音やストレス、アクセントやイントネーションの訓練を行う。授業は少人数であるから、一人が一時間に20~30回はあたる。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	平常点	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語の発声法
2	前母音
3	後母音
4	中母音と r-coloring
5	破裂音
6	破擦音
7	鼻音
8	側音と “r”
9	摩擦音
10	半母音
11	ストレス
12	イントネーション
備考	

科目名	専門講読1 (英語学) (93年度以降) 英語講読1 (英語学) (92年度以前)	担当者名	川崎 潔
-----	--	------	------

講義の目標	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書であると言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集めて集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与えてきたのであり、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語原典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で Book of Job を読むことにしたい。</p>		
講義概要	<p>Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1885年出版) は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳1952) や New English Bible (新旧両訳・外典1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>齋藤 勇注釈 ; <i>The Book of Job (in the Revised Version)</i>, 研究社</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社 ・浅野順一『ヨブ記注解』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 創文社 ・浅野順一『ヨブ記——その今日への意義』(岩波新書) 	
評価方法	<p>前期と後期の2回の期末テストと平常点によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習と復習を行なうことを要望したい。</p>		

科目名	専門講読2 (英語学) (93年度以降) 英語講読2 (英語学) (92年度以前)	担当者名	清水 由理子
-----	--	------	--------

講義の目標	英語の文章構成について学び、効果的な読み方を身につけることを目指す。		
講義概要	<p>講読とはどのような言語活動を指すのか学びながら、それを実践していく。次のような内容で行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 散文における文章の構成について学ぶ。 2) 読んだ内容を自分のことばで要約する。 3) 前期には速読の訓練も行う。 4) 課外に易しめの本を読んでもらい、英文で本を読む楽しさを味わってもらう。 		
使用教材	テキスト	<p>テキストとして下記のことを予定しているが、変更する場合もある。 L.H. Hillman (1990) <i>Reading at the University</i>, Heinle & Heinle. このほかにプリントおよび指定した課外用の本。</p>	
	参考文献		
評価方法	平常点 (出席状況、レポートなど) と前期・後期の期末試験により評価する。		
受講者に対する要望など	<p>☆基本的には読書の好きな人向き。 ☆書籍代がかかるとしてほしい。 ☆第一回目の授業に必ず出席のこと。</p>		

科目名	専門講読3 (英語学) (93年度以降) 英語講読3 (英語学) (92年度以前)	担当者名	須賀川 誠 三
-----	--	------	---------

講義の目標	英語の歴史—特に言語的・文化史的背景—について、論文調の英文を読み、英文読解力を養うと同時に専門的・教養的知識の向上を図ることを目標とする。		
講義概要	<p>テキストは、BBCで放映した <i>The Story of English</i> (1986) から第2章 The Mother Tongue と第3章 A Muse of Fire を採ったものである。第2章は、印欧語・古英語・中英語までの変遷を扱い、第3章では、エリザベス朝で開花した英語の盛観について述べている。</p> <p>授業では、英語史上の言語変化の諸問題と文化史的背景について一通り扱う予定。また、BBCのビデオを随時放映し、視聴覚的な面からも理解の徹底を図りたい。</p>		
使用教材	テキスト	R. McCrum & others: <i>The Story of English</i> (英宝社)	
	参考文献	辞書は、特に『リーダーズ英和辞典』(研究社)をお薦めしたい。チャーサーの英語については、佐藤・須賀川編著『チャーサー その時代・文学・言語』(成美堂)を参考にしてほしい。	
評価方法	評価は、前期・後期の試験と平常点による。出席は、合否判定の重要な資料となるので、出席不良で不合格になることもあり得る。		
受講者に対する要望など	受講希望者は、第1回目の授業に出席し、必ず受講の承認を受けること。授業で発表に当たった人は責任をもって分担を果たすこと。辞書・辞典をよく引くこと。		

科目名	専門講読4(英語学)(93年度以降) 英語講読4(英語学)(92年度以前)	担当者名	府川 謹也
-----	--	------	-------

講義の目標	英語の語法について、「なぜこう言えてああ言えないのか？」と疑問に思っていることについて考察した論文をきちんと読めるようになること。	
講義概要	上記の目標を達成するような語法・文法研究に関する論文(未定)の輪読。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	2回の試験と平常点による。	
受講者に対する要望など		

科 目 名	専門講読 5 (英語学) (93年度以降) 英語講読 5 (英語学) (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-------	--	------	---------

講義の目標	To study conversational style and it's importance in communication and human relations.		
講義概要	The text explains that each person has his/her own individual conversational style. It points out that style is as important as the information we exchange. The author claims that the success or failure of any relationship depends on our ability to recognize other people's style. The text, with its real-life examples, will teach you how to hear what wasn't said, how to prevent small differences from sparking big arguments and how to adjust your conversational style to save a conversation—or a relationship.		
使用教材	テキスト	That's Not What I Meant. Deborah Tannen. Ballantine Books. New York	
	参考文献		
評価方法	This course will be assessed on attendance, the writing of a number of reports and first and second semester examinations.		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読6 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読6 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	北澤 滋久
-----	--	------	-------

講義の目標	この授業の目標を、文学作品をどう読み、いかに理解して、自己の感性に照らし、心の糧とするかという点に置く。言語芸術としての文学の表現の妙を味わい、象徴的意味を把握して、作者がそこに注ぎこんだテーマを吟味、解明、思考するのである。従って単に英文を日本語に読み替えて、それでこと足りるというわけにはゆかない。		
講義概要	テキストは今世紀最大の作家のひとり、James Joyce (1882-1941) の短編集である。往時のダブリン市民、強いてはアイルランド民族の衰退の根源をあらゆる階層のあらゆる種類の「麻痺 (paralysis)」に観て、その「精神史」を描いている、と作者自身は語っている。その軌跡を、精緻に編まれたこの短編集をできるだけ多く丹念に味読することによって、読み解こうとおもっている。とくに巻末の“The Dead”を再重要作品と位置づけて、内容のみならず、作者独特の Stream of consciousness の表現法の芽生えも分析して、この面からもジョイスの真髓の一端に触れてみたい。		
使用教材	テキスト	James Joyce, <i>Dubliners</i> (出版元未定)	
	参考文献	Don Gifford, <i>Joyce Annotated</i> . Second ed. Univ. of California Press. John W. Jackson & Bernard McGinley, <i>James Joyce's Dubliners: An Annotated Edition</i> . London: Sineclair-Stevenson. 北澤滋久、「話法から意識の流れへ：J. Joyce, “The Dead” に依る一考察」(『獨協大学外国語教育研究』創刊号所収) その他は随時授業中に紹介する	
評価方法	かなりハードな観点から、前・後期、計2回の試験、夏休み課題のレポート、および平常の、出席・勉学態度・成績に依って評価する。		
受講者に対する要望など	それ相応の英語読解力の備わっている者の弛まぬ予習を前提とした上の、文字通りの「講読」の授業である。単位移ぎのための用には不向きと思われるので、予め注意されたい。なお、開講初日に更なる詳細を説明するので、必ず出席のこと。無断登録は絶対に認めない。		

科目名	専門講読7 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読7 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	児嶋一男
-----	--	------	------

講義の目標	<p>「読書とは reread する創作行為である」という考えを実践しながら、現代文学について考えたいと思います。</p> <p>その基本として、わかったような気になってごまかしてしまうことなく、丹念に辞書をひいて、1回に40-50行の英文を読み続けます。</p> <p>また、意識の流れの手法を分析しながら、書かれていることについて議論したいと思います。</p>	
講義概要	<p>テキストは現代文学においてもっとも重要とされる作品のひとつです。今年度は、その第5・6挿話を読みます。読者に不親切なところの多々ある小説ですから、しつこく辞書をひく労をいとわず、高尚な想像から下品な邪推まで働かせて、その不親切を逆に楽しみながら読みたいと思います。</p> <p>「万能の文化人」と称される主人公レオポルド・ブルームは、世界文学の超有名人です。このダブリンの中年男性の滑稽きわまりない意識の中に、どのように「偉大な凡人」ぶりが描かれているのか、それを考えます。</p>	
使用教材	テキスト	James Joyce ; <i>Ulysses</i> (Garland 版)
	参考文献	<i>Ulysses</i> の注釈書 (プリント配布) など。
評価方法	<p>評価は、前期と後期の試験によります。</p> <p>これに授業中の発表内容や小レポートが加味されます。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 8 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 8 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>世界文学の最高傑作であり古典であるシェイクスピアの諸作品は、英語を専攻する者の必読書といえよう。言語が初期近代英語ということで一般には古い英語で書かれているとして敬遠され勝ちであるのに、現代でも生き続けている古典なのである。この授業ではシェイクスピアの劇作品をまず原文を理解し、その上で実際の舞台をビデオで鑑賞しようとしている。シェイクスピアを抜きにして英文学は語れないし、英語圏文化は語れない。その古典の素養を養うことを目的としている。</p>		
講義概要	<p>まず原文を精読する。そこには現代では廃れてしまった語義、しかもルネサンス期までの英国文化の一杯詰まった語義がある。何しろシェイクスピアの戯曲は「言葉が生命」だからである。さらに現代英語の文法の基礎的な事項がすべて出てくるので文法的に詳述する。その上で英国文化そのもののような背景—時代的・社会的・演劇的—を調べ、かくしてシェイクスピアの表現しなかったものに近づくことができる。シェイクスピアの作品は単なる古典としての知識ばかりでなく、人間としての生き方まで教えてくれるのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>William Shakespeare: <i>King Lear</i> (Arden 版) (プリント)</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ E. A. Abbott: <i>A Shakespearian Grammar</i> ・ Alexander Schmidt: <i>Shakespeare-Lexicon</i> ・ <i>The Oxford English Dictionary</i> ・ その他註釈書が多数出版されているので、註釈書がシェイクスピア研究の最良の手引書である。 	
評価方法	<p>前・後期の定期試験により評価する。出席は絶対条件とする。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読9 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読9 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	白鳥正孝
-----	--	------	------

講義の目標	<p>〈習うより慣れよ〉(Use makes perfect.) の観点から、面白くて、易しい英語を多読することを目標とする。昨年の実績は、夏の課題(53頁)も入れると、500頁ほどであった。今年度も質問は勿論、毎回諸君のコメントを求めることを目指す。</p>		
講義概要	<p>引き続き『色分昔話集』を読む。全12巻の内、本年は10冊目。Lang (Andrew 1844-1912) は、スコットランドの民俗学者、詩人、文学者で恐るべき多作家でほとんど彼の関係しない分野はなく60巻以上の著作があるが、本書は英語圏の児童文学の古典として必読のもの。さし絵も内容に適わしく幻想的であり、既に知っている話も昔話独特のやゝ古風な英語で読むと味わいがあり、新鮮味を帯びるから不思議だ。勿論未知の話が圧倒的に多い。出所はグリム等に代表される個人の収集から更にラングが再編集している。進め方は、一回20頁程を二人の共同責任でやってもらう。また夏の課題として同類のものを40頁余り読んでもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>The Red Fairy Book</i> ed. A. Lang N.Y.: Dover, 1966 (367頁) 但し、初めはプリント使用。登録後海外発注するため</p>	
	参考文献	<p>教室でそのつど示す。</p>	
評価方法	<p>夏の課題を含め、前後期のテスト、授業態度などを総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「美女と野獣」をはじめ「眠れる森の美女」など、デズニーのアニメやブロードウェイの芝居などにも、案外昔話に材をとっているものが多い。易しいなどといって馬鹿にする勿れ。</p>		

科目名	専門講読 10 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 10 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	長谷部 加寿子
-----	--	------	---------

講義の目標	シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。		
講義概要	<p>「オセロー」は、1604年シェイクスピアが40才の時の作品で、4大悲劇の1つである。エリザベス女王一世からジェームス一世へと時は移り、信ずる事が非常に難かしくなってきた時代であった。イアゴというマキャベリ的悪人は、奇妙に現代人を連想させる。</p> <p>授業の進め方は、グループ毎に短いシーンを演じて、原文の解釈・演技・研究を発表し、討論する。</p>		
使用教材	テキスト	William Shakespeare : <i>Othello</i>	
	参考文献	テキストは、どの版でも可。各自購入の事。辞典、参考書等は最初の授業の時に話す。	
評価方法	年2回原文での演技を行い、その演出論と批評論を提出する。及び年1回の「『オセロー』論」を発表し、その論文提出を評価の対象とする。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 11 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 11 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	林 節 雄
-----	--	------	-------

講義の目標	劇作家・ベストセラー作家 Maugham の1928年初演の劇をテキストに用いて、マナーの良いイギリス英語の話し言葉を研究し、われわれ自身の英語表現力を豊かにすることを目標とする。	
講義概要	毎回5頁程度を読むこととし、前もって指名された学生数名が発音、意味、表現の問題点を指摘し、質問に答え、私が解説する。特に夫婦間、親子の間の感情の表現の仕方に注意したい。	
使用教材	テキスト	W. Somerset Maugham : <i>The Sacred Flame</i> . 北星堂
	参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。
評価方法	前後期の定期試験と授業への参加度により評価する。	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 12 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 12 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	藤田永祐
-----	--	------	------

講義の目標	イギリスの代表的なエッセイストの古典的な名文を細かく鑑賞しつつ読解力を養うことに目標をおく。土曜の夜に「チューボーですよ!」というテレビ番組があります。見てると、素材の鮮度、組みあわせ、味つけ、作っていく過程での色々なタイミングなどなど、あれなら素人の作るものとは違うわけだと感心させられる。料理でもそうなのだから、優れた文章においてをやである。内容や文体のもつこく(酷)や工夫を味わい、単なる読解や分析を越えたものにしていきたいと思う。		
講義概要	形式は単なる講読。単語・語句・文章の把握の深さを要求する点が従来の講読と異なると思います。単語・文章のほかの表現による言い換え、文章の技巧の分析をとり入れて授業をすすめます。		
使用教材	テキスト	G. ギッシングの『ヘンリー・ライクロフトの私記』	
	参考文献	授業中に指摘する	
評価方法	平常点と二回のテスト		
受講者に対する要望など	授業の特色を認識して、積極的に授業を利用する姿勢が欲しい。		

科目名	専門講読 13 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 13 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	三好 健
-----	--	------	------

講義の目標	<p>昨年度に同じ作者の「月と六ペンス」を読んだら、なかなか評判がよかった(?)ので、それに力を得て今回もW. S. モーム (1874~1965) の小説を読むことにしました。モームの小説には人生の機微や人間の心理が巧みに表現されているので、人生の先輩としての作者の意見をきくつもりで、いわば人生勉強のテキストとして読んだらどうかとも思います。と同時にこの英語の名手によって書かれた文章を味読することによって、英語の本質に触れ、なお表現力養成にも役立てられたら、と考えています。</p>	
講義概要	<p>英語の表現に注意を払い、正確に読むことを心がけて精読し、途中味わうべき点や表現力養成に役立つような箇所を、指示します。</p> <p>1回に8ページぐらいのスピードで進みますが、随時学生諸君に発言を求めないので、下調べが必須となります。</p>	
使用教材	テキスト	W. S. Maugham: <i>The Kite and other stories</i> (英宝社)
	参考文献	
評価方法	平常の成績と前・後期の2回の試験による。	
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席の好きな学生はおことわり。</p> <p>受講希望者は1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	

科目名	専門講読 14 (イギリス文学) (93年度以降) 英語講読 14 (イギリス文学) (92年度以前)	担当者名	山田 修
-----	--	------	------

講義の目標	<p>普段読んだことのないスコットランド作家の作品を読み、何気なく手にした作品に思わずひきこまれて、つい終りまで読んでしまうような読書をエンジョイしてもらえればよい。</p>	
講義概要	<p>現代スコットランド作家の短篇を数篇読む。</p>	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	<p>前・後期の試験及び平常点にて評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の時間に出席して、受講許可を必ずとること。無断登録は一切認めません。プリントはその時配付する。</p>	

科目名	専門講読 15 (英・米文学) (93年度以降) 英語講読 15 (英・米文学) (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標	This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.	
講義概要	The stories are chosen for their active ingredients; thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.	
使用教材	テキスト	Short story prints of: Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.
	参考文献	Dahl's "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator", etc. King's "Quitters", "Mrs. Todd's Shortcut", "The Ledge", etc. Excerpts from Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.
評価方法	Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments' and doing some supplementary research.	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 16 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 16 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	秋山 武夫
-----	--	------	-------

講義の目標	アメリカを文学を通して比較文化の立場から現代のアメリカを概観してみたい。	
講義概要	移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じたい。原住民インディアンの現状、黒人の苦悩、日本、中国、ギリシア、ドイツなどさまざまな国から移民した人々の異文化体験、一世と二世の葛藤、日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難等の文章（短編小説、詩、エッセイ）を読んでいく。	
使用教材	テキスト	<i>Crossing Cultures</i> by Henry and Myma Knepler(ed.) のプリントを使用する。
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	出席、提出レポート、及びテスト	
受講者に対する要望など	文学、文化に関する本を数多く読んでほしい。	

科目名	専門講読 17 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 17 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	岡田 誠一
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>アメリカ黒人文学の背景となっている、黒人文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストとして使う予定。英文をじっくり読むことにより、将来役立つような英語力を培ってほしい。</p>		
講義概要	<p>黒人はどのようにしてアメリカに連れてこられたのか。南部の大農園主たちがどうしても解けなかった問題、綿の種をいかに効率的に取り除くか、を簡単に解決し、南部に奴隷制をしっかりと根付かせた男は誰だったのか。</p> <p>その他、アメリカ黒人の文化には、我々日本人に知られていないことがたくさんある。そして、これらを知らなければ、アメリカ黒人文学を十分に理解することはできない。昨年度に引き続き今年度も、このような文学の背景を学んでいく予定。</p> <p>なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間数本の米文学・文化に関する映画を鑑賞する計画である。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを使用する予定。	
	参考文献	最初の授業に教室にて指示。	
評価方法	<p>評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習をして授業に臨んだか、などによって決定される。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回当たるものと考え、予習を必ずして授業に出ること。</p> <p>前年度からの継続であるが、初めて聴講することも十分可能である。</p>		

科目名	専門講読 18 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 18 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	香 取 豊
-----	--	------	-------

講義の目標	小説の面白さは、意味するところを理解してほしいと思います。		
講義概要	適当に学生を指名し、訳読させ、内容を把握させる。 更に大事な個所の意味するところを考えさせながら進めてゆく。		
使用教材	テキスト	未定ですがアメリカの小説。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席状況及び授業が対する態度、更に後期のテスト等を総合的に判断して評価とする。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 19 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 19 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	島田 啓一
-----	--	------	-------

講義の目標	<p><i>The Assistant</i> (1957) は Bernard Malamud の処女長編小説で、このアメリカのユダヤ系作家の初期の代表作である。ニューヨークの貧しいユダヤ人食料店主 Morris Bober と人生に目標を見いだせないイタリア系青年 Frank Alpine との奇妙な交流を描いている。大恐慌の暗い影を背景に進行するこの小説の時代錯誤的ともいうべき理想主義は、拜金主義が引き起こしたバブル経済が破綻した現在の日本の若者が、一度原点に戻って人生を考える上で、参考になるかも知れない。この「暗い」小説の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていく。</p>		
講義概要	<p>本書は200ページ以上あるので、毎週10ページ弱のペースで読んでいきたい。授業は前の週までに配布する各章の内容に関する質問表をもとに進めていく。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられる。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていくが、積極的に討論に参加することが望まれる。作品に関するミニ・レポートを数回提出してもらってもいいかも知れない。</p>		
使用教材	テキスト	Bernard Malamud, <i>The Assistant</i> (Penguin Books, 1957)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩本巖、「マラマッド：芸術と生活を求めて」(冬樹社、1979) ・Leslie and Joyce Field, eds., <i>Bernard Malamud and the Critics</i> (New York Univ. Press, 1970) ・Jeffrey Helterman, <i>Understanding Bernard Malamud</i> (Univ. of South Carolina Press, 1985) 	
評価方法	前期・後期の定期試験 (80%)、ミニ・レポートや討論への貢献度 (20%) の予定。		
受講者に対する要望など	テキストは duo に30部程度発注するが、売り切れの場合は洋書店で各自が購入すること。		

科目名	専門講読 20 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 20 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	原 成 吉
-----	--	------	-------

講義の目標	William Carlos Williams (1883-1962) のアメリカの日常から生まれた詩を読みながら、「アメリカでは何か？」を考察する。アメリカのモダニズム運動の本質をさぐり、ポストモダンの詩人たちに多大な影響を与えたウイリアムズの詩論を、「ここそしていま」の視点から考える。このクラスの目標は、まず第一に詩を楽しむことにある。		
講義概要	授業の進め方は、2人1組のレポーターが、1つの詩を読み、解釈を示し、そのあとレポーターを中心に質疑応答のディスカッションを行う。レポーターはあらかじめ試訳をプリントし、担当するの前の週に受講生に配布する。		
使用教材	テキスト	Williams, <i>Selected Poems</i> (New York: New Directions, 1985)	
	参考文献	作品ごとに紹介する。なお、ウイリアムズの作品や評論・研究書は、ほとんどすべて大学の図書館にある。	
評価方法	前期・後期各1回のレポート(ワープロで4,000字程度の作品論)と授業への参加度によって決める。欠席は6回を限度とし、それ以上は評価の対象としない。		
受講者に対する要望など	これまでとはちがった「筋力」を使うので、英語学習のマッサージのつもりで受講してほしい。		

科目名	専門講読 21 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 21 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	升 水 一 三
-----	--	------	---------

講義の目標	1920年代、30年代のアメリカ文学を概観し、いわゆる「失われた世代」の作家たち、中でも「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」など数々の名作を残した Ernest Hemingway を学ぶ。		
講義概要	Hemingway の短篇の訳読を主に——長篇は抜粋で——勉強することになると思う。Hemingway と同じ時代を共有する Sherwood Anderson, F. Scott Fitzgerald, John Dos Passos などの作品にも触れたい。 下記テキストのみでは範囲が限定されるのでプリントを多用する予定。		
使用教材	テキスト	Ernest Hemingway の中篇、短篇集 (年度頭初に指示)	
	参考文献	HEMINGWAY: <i>The Writer as Artist</i> Carlos Baker ・ヘミングウェイ研究 石 一郎 南雲堂 ・ヘミングウェイ 高村勝治 研究社 ・ヘミングウェイ 佐伯彰一編 研究社	
評価方法	出席、学習態度など授業参加への積極性、提出物、前・後期テストなどによる。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 22 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 22 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	村松美映子
-----	--	------	-------

講義の目標	ミニマリズム文学は八十年代のアメリカ文学を語る上で忘れてはならない運動である。Ann BeattieはRaymond Carverとともにミニマリズム文学の中心的な存在であった。九十年代にはいるとミニマリズム文学は終焉したと一般に考えられているが、現在でも Ann Beattieはミニマリズムの長所を取り入れた作品を書き続けている。本講義では、Ann Beattieの短篇小説を扱いミニマリズム文学の読み方を論じることから始めたい。		
講義概要	講義と作品の精読に加え、グループ・ディスカッションによって授業を進行していく。作品を論じる姿勢とプレゼンテーションの技術を身につけてほしい。時間が許せば、他の作品集も読む予定である。		
使用教材	テキスト	Ann Beattie, <i>What Was Mine</i> (New York: Vintage Book, 1992)	
	参考文献	Christina Murphy, <i>Ann Beattie</i> (Boston: Twayne Publishers, 1986) その他論文等は授業中に配布する。	
評価方法	前・後期テスト、プレゼンテーション、授業への貢献度を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 23 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 23 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	吉元清彦
-----	--	------	------

講義の目標および概要	<p>今日、われわれは「戦術的」「戦略的」につくりだされるさまざまな音声や映像によるいわゆる「文化現象的風俗」の只なかにあつて、昼夜を問わず絶えずもろもろの情報伝達メディアを通して送り出されてくるおびただしい数・量の有益・無益・無害・有害なメッセージ群の洪水に対して明るく暗い、楽しく苦しい悪戦苦闘を強いられながら「退屈しない」一日一日を「生きている」(?) ののであろうか? そして一方で、たとえば、あいかわらずこの地球上から「戦争」という悲惨な悪行もなくなるということではなく、あいかわらずわれわれはいつでもどこでも殺しあい傷つけあふ。(——なぜ? ナゼって?)</p> <p>そういった苛酷な現代の状況からけっしてひとりまぬがれた例外的な存在として許されるはずのない「大学」というシステムの時間・空間の中で、われわれは人間の言葉による表現芸術としての「文学」作品に対する。文学テクストを読む(読み解く)のである。</p> <p>だが、「読む」とはどういうことなのか? 「作品」と、メッセージとしてのその作品の発し手たる作者と、そしてそれを受けとる側の読者であるわれわれの関係とは、それははたしてどのようなものであるのか。そしてまたどのような関係であるべきなのだろうか。</p> <p>文学テクストから何を読みとり、何を感じとり、そしてそれらをどのように受けとめるのか。そしてそれらの考察・検証の過程や結果を、発見や感動(喜怒哀楽)を、もしくは疑問なり問題なり反論なりを、言葉で表現(討論・論文)し、つまり「批評」行為というある域にまで高めていくことが当然のごとく求められてくるだろう。</p> <p>けっきょく、読み手の「読む」という行為がいかに意志的・主体的なものであり、どれだけの切実性を内包しているのかが問われるのであろう。</p> <p>すなわち、読む(もしくは、書く)ということの意味と「生きる」ということのそれとの関係性(表裏一体性)がきびしく問われることになる。したがって、ここまでの到達(認識)過程において、もしなんらかの不一致・欠落部分があるとすれば、そのときはお互いにただちに出発点に立ちかえり、もう一度最初から出なおすほかに方法はないのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>John Updike: <i>Rabbit at Rest</i> (1990)</p> <p>(どの edition でも可)</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ John Updike: <i>Rabbit, Run</i> (1960) ・ John Updike: <i>Rabbit Redux</i> (1971) ・ John Updike: <i>Rabbit is Rich</i> (1981) ・ Donald J. Greiner: <i>John Updike's Novels</i>, Ohio University Press, Athens, Ohio London, 1984. ・ Marcus Cunliffe: <i>The Literature of the United States</i>, Fourth Edition, Penguin Books, 1954, 1991. etc. 	
評価方法	<p>平常点(授業時間内の発表および前・後期各1、2回のテスト)と、前期はレポート提出(締切日夏休み明け)、後期は筆記試験、による総合評価方式。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1回目の授業でいろいろ説明したいとおもっています。また授業は毎回どんでん誰でも手を挙げてやってもらいます。(尚、毎時間冒頭にいろいろな名作のテープを聴く予定でいます。)</p>		

科目名	専門講読 24 (アメリカ文学) (93年度以降) 英語講読 24 (アメリカ文学) (92年度以前)	担当者名	M. A. Schible
-----	--	------	---------------

講義の目標	<p>The course is intended for students with a serious interest in American fiction.</p> <p>Its goals include improved reading skills and a deeper insight into the culture and literary traditions of the United States. The short story, a uniquely American form, is ideal for our purpose. Limited in length, it gives us the opportunity to explore a broad range of writers.</p>		
講義概要	<p>We will read at least one short of Melville, Mark Twain, Faulkner and J.D. Salinger during the year.</p>		
使用教材	テキスト	<p>Prints of the stories, essays, a glossary, suggestions for discussion and additional readings supplied by instructor.</p>	
	参考文献	<p>An English dictionary for native speakers of the language. Please choose from Oxford, The American Heritage College Dictionary, Webster's New Collegiate or Random House.</p>	
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, presentations and the mid-term and final reports.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Students are expected to actively take part in discussions based on study questions and critical essays on the stories. Members are welcome to suggest other works.</p>		

科目名	専門講読 25 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 25 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	阿部純一
-----	--	------	------

講義の目標	アメリカの対東アジア外交の現状分析をおこなう。		
講義概要	<p>1996年の大統領選挙でクリントン大統領が再選された。しかし、アメリカの東アジア政策は、過去四年間の外交成果として見るかぎり試行錯誤の連続であったといっても過言ではない。市場経済型民主主義国家のコミュニティー拡大をめざす「関与と拡大」政策というドクトリンを打ち出しながらも、事態対応型の場当たり外交という印象が強く、とくに中国との関係においては台湾問題をめぐって深刻な緊張関係に陥った。</p> <p>アメリカは太平洋国家として、引き続き「世界の成長センター」たる東アジアへのコミットメントを継続する意思を明確にしている。しかし、ポスト冷戦の東アジアで、秩序維持にアメリカの果たす役割は不可欠であるとはいえ、今年7月には香港を回収し、ますます存在感を強める中国との関係を筆頭に、アメリカの東アジア外交はクリントン政権二期目に正念場を迎えることになろう。かかる問題意識に関連した文献を選択し、アメリカの東アジア外交の課題について分析する。</p>		
使用教材	テキスト	アメリカの公式外交文書、外交問題専門誌などから文献を選択し、プリントを配付する。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生の発表（詳細なレジメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。		
受講者に対する要望など	国際関係とくに最近の東アジア情勢について基礎的な知識を持っていることが履修の最低条件。		

科目名	専門講読 26 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 26 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-----	--	------	-------

講義の目標	英文ジャーナルや短篇のエッセイ論文を通じて、現代の国際関係および通商・経済関係の動向を考察する。受講者に対して望むことは単に英文を直訳するのではなく、全体としての内容の流れを文脈中心に速読し、それをもとに議論に参加できるようになることである。		
講義概要	現代の国際関係・経済の動向は、アメリカやヨーロッパを中心とする環大西洋地域により規定された以前の状況とは異なり、アジア・太平洋地域を中心とする環太平洋地域により大きくリードされるようになった。この過程で、特にイギリスの影響力の凋落と EC への加盟による旧英連邦諸国の連携の崩壊、日本や NIES 諸国の工業化による高度経済成長の達成が大きな役割を担った。また後者への食料・資源輸出の拡大を通じてオセアニア地域の一次産品部門が競争力を拡大した。本講義では、こうした長期的傾向が今後どう展開するかについて、受講者との議論を通じて考察する。		
使用教材	テキスト	テキストは、講義中にコピーを配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席や発言を重視し、レポート提出により評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 27 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 27 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	佐藤唯行
-----	--	------	------

講義の目標	<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目標といたします。</p>		
講義概要	<p>使用するテキストは、ジャーナリスト、Pamela F. Jonesが執筆した英国ユダヤ人の概説書です。正確な和訳作業を各センテンス毎に行なうと同時に、パラグラフ毎の要旨をまとめる事を要求します。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>The Jews of Britain : A Thousand Years of History</i> (1990) テキストはコピーを配布します。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は試験結果60%、平常点40%、欠席が授業回数の1/3を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分に換算します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 28 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 28 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	佐藤 真千子
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、冷戦時代と冷戦後におけるアメリカの対外関係に焦点を当て、アメリカのリーダーシップと限界について考察することを目的とします。米ソ冷戦が終焉し、民族紛争や環境問題が顕著となり国連の見直しが叫ばれる世界で、アメリカは如何なる役割を模索し、果たしているのか。本講義では、第二次大戦後のアメリカ外交史と、冷戦後の世界に対するアメリカの取り組み方を概観していきます。</p>		
講義概要	<p>本講義ではビデオを適宜使用しながら、Foreign Policy Association で編集した <i>Great Decisions</i> の中から以下のような文献を精読していきます。前期は、“United Nations at Fifty: Reaching Out or Overreaching? A New Role for America?”, “Promoting Democracy: America’s Mission?”, “Failing Nations: What U.S. Response?” などを読みます。後期は受講生の関心分野を参考に、論文を取り上げていきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Foreign Policy Association, <i>Great Decisions</i>. の中から、上記の <i>Reprints</i> を使用します。</p>	
	参考文献	<p>随時、授業にて指摘します。</p>	
評価方法	<p>平常点、試験又はレポートにより、総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 29 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 29 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	杉山晴信
-----	--	------	------

講義の目標	<p>商業通信文 (Commercial Correspondence) のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書をも広く守備範囲として、国際取引に従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書 (契約書、定款等) と英文決算書の「実物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語の特徴を理解することを縦軸に、専門用語に習熟し当該文書の内容を理解することを横軸にして、言語的知識と実務的知識の同時修得を目標とします。</p>		
講義概要	<p>前期は英文契約書と英文の会社定款を扱います。法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。</p> <p>後期は英文決算書を扱います。貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ってから、実在の企業の直近の決算書を読み、履修者に業績の検討を行わせます。</p> <p>年間を通じ、上記のように、法律や簿記会計に関わる内容の学習が大きなウエイトを占めますので、予備知識のない学生は教室外でも積極的に知識を獲得するべく努力しなければなりません。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料 (和英対照勘定科目表など) も随時配布いたします。</p>	
	参考文献	<p>①阿部佳基・長谷川俊明『ビジネス法律英語辞典』(日経、1991) ②P. N. キング (坂本訳)『法律英語の基本』(ジャパンタイムズ、1988) ③長谷川俊明『法律英語のカギ』(正・統)(東京布井、1985、1988) ④浅田福一『国際取引契約』(東京布井、1987) ⑤渋谷道夫・飯田信夫『英文決算書入門』(日経、1991) ⑥小島義輝『英文簿記の手ほどき』(日経、1984) ⑦渡辺正直・寺坪修『英文簿記会計』(中央経済社、1984)</p>	
評価方法	<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

科目名	専門講読 30 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 30 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	中村 粲
-----	--	------	------

講義の目標	<p>英文を明確に音読し、正しく内容を把握する練習。 英米人の日本観及び日本人観を通して祖国日本の姿を見つめ直す。</p>		
講義概要	<p>予め数名を指名して音読・訳読させる。内容に沿って私の日本観や時局論を述べる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定 (但し比較文化論的な教材を選定したいと考えてゐる)。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>平素の勤怠・意欲と定期試験。</p>		
受講者に対する要望など	<p>初回授業出席者の中、最前列から60名に限り受講を認める。初回欠席者は、さほど強き希望なきものとしていかなる理由あるも受講を認めない。</p>		

科目名	専門講読 31 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 31 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	鍋倉健悦
-----	--	------	------

講義の目標	文頭から、単語の塊で出来る意味を情報としてつなぐようにしながら、英文の内容を理解できるようにすること。		
講義概要	異なる文化的背景の人々と相互理解を進めるにはどうしたらよいのか、ということが中心テーマとなる。		
使用教材	テキスト	『異文化との出会い』(研究社出版)。	
	参考文献	『異文化間コミュニケーション入門』(丸善ライブラリー)。	
評価方法	通常の授業に重点を置く。英語専攻の学生が対象なので、読み方も評価の基準となる。		
受講者に対する要望など	音読と意味解釈の予習をして授業にのぞまない限り、当授業にはついていけない。		

科目名	専門講読 32 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 32 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	福井嘉彦
-----	--	------	------

講義の目標	一定水準に達した内容の英文を読んで理解すること。		
講義概要	受講学生による輪読により進行する。		
使用教材	テキスト	T. S. Eliot: The Modern Mind and Other Essays (南雲堂)	
	参考文献		
評価方法	授業中での発表と、試験による。一定以上の欠席は不可の成績とする。最初の授業には必ず出席し、その際しめされたレポートを提出することで履修を認める。		
受講者に対する要望など	第一回目と第二回目の授業を欠席した学生は自動的に履修者名簿から名前を消されることになる。履修希望者多数の場合は試験・レポートにより履修者を定める。		

科目名	専門講読 33 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 33 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	町田喜義
-----	--	------	------

講義の目標	<p>著者がテキスト (MOSAIC MADNESS: THE POVERTY AND POTENTIAL OF LIFE IN CANADA) の中で伝えようとした色々な考え——カナダおよび多様性に対するカナダ人のいささか独特な努力——に関する理解を深める一助とすること。そして我々が自国 (日本) において理想的な個人生活と社会生活を追求するときに、カナダが試みてきたことから何かを学ぶこと。</p>		
講義概要	<p>本書の基本的メッセージは、「カナダで、文化の多様性を強調することは、すべての人に生活の向上をもたらすはずであったが、現実にはその反対に、多文化主義は、寛容や平等などのような命題と同義の月並みな目的そのものと化してしまっている。我々の多様性の素材は、個人的、国家的資産に変換されてない。我々がお互いに交流したり、批判しあったり、我々の多様な文化から最善の要素を引き出したりすることが出来なければ、この多様性はすべての人の生活を豊かにすることはつながらない。であるから、我々の多様性を祝福する理由はあまりない。これが、1990年代のカナダの現状である。」日本はその歴史の中で1500年もの間、非常に同質的であったと指摘されるが、このような文化的同質に対する挑戦が始まっていることを示す兆候も存在する。特に、アメリカ化——これに付帯する個人主義・自由・多元主義・相対主義——がもたらした顕著な命題に対しての適切な対応には意見の衝突が予想される。さあ、そこで「モザイクの狂気」に乗って、個人主義・自由・多元主義・相対主義の4つのキーワードと共に「カナダ大陸」横断鉄道の旅に出てみよう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Bibby Reginald W. (1990) <u>Mosaic Madness</u>, Toronto: Stoddart. (全体で207ページ、文章は速読すれば平易だが、精読には難解)</p>	
	参考文献	<p>フロイト, S. (1954)『幻想の未来』日本教文社 フリーダン, B. (1986)『新しい女性の創造』大和書房 ブルーム, A. (1988)『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房 ベック, S. (1987)『愛と心理療法』創元社 フレッチャー, J. (1971)『状況論理』実教出版 ウェバー, M. (1962)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店 マーシャル, C. (1954)『ピーターという男 妻の描いた夫の肖像』創元社 ホーダーン, W. (1969)『現代キリスト教神学入門』日本基督教団出版局 デュルケーム, E. (1979)『デュルケームの社会理論』創元社 デュルケーム, E. (1975)『宗教生活の原初形態』岩波書店 デューイ, J. (1950)『民主主義と教育』春秋社 ベラー, R. (1991)『心の習慣、アメリカ個人主義のゆくえ』みすず書房 ネイビッツ, J. と P. アバディーン (1990)『トウェンティハンドレッド 黄金世紀への予告』日本経済新聞社</p>	
評価方法	<p>レポート：各章 (全部で10章) の日本語約 80% 上記参考文献の中から1冊を選び、その読后感想文 20%</p>		
受講者に対する要望など	<p>歓迎：カナダ社会に関心のある学生、アメリカに飽きた学生、日本社会の近未来を憂える学生、とまかく原書を読み通したい学生、異文化間コミュニケーションに (本当に) 関心がある学生</p>		

科目名	専門講読 34 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 34 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	宮川 淑
-----	--	------	------

講義の目標	<p>“鉄の女性” (Iron Lady) とよばれる意志強固なイギリスの前首相マーガレット・サッチャーがどのような人生を送ったかについて、前年度はイギリスのジャーナリストが書いた伝記を読んだが、今年度は彼女自身が記した伝記を読む。</p>		
講義概要	<p>M. Thatcher, The Path to Power (1995) の A Provincial Childhood と同じく Thatcher, The Downing Street Years (1993) の Introduction を訳読する。</p>		
使用教材	テキスト	上記のテキストは当方で準備する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期の2度の定期試験に日常の授業における発表を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 35 (英米文化) (93年度以降) 英語講読 35 (英米文化) (92年度以前)	担当者名	森 永 京 一
-----	--	------	---------

講義の目標	<p>テキストは、新たなグローバル経済に相対する目的で、米国の教育・経済の現実を根底から問い直し、数々の提言を行ったもの。日本やドイツとの比較考察など興味深く、今の世界を理解する上で大いに有用とされます。</p> <p>475ページあり、かなり分厚い本なので、これを読破する喜びも味わえそう。</p>	
講義概要	<p>受講学生諸君が、担当部分について輪番制で発表を行ったのち、これに基づいて全員で話し合う形式をとります。</p>	
使用教材	テキスト	Hendrick Smith: RETHINKING AMERICA Avon Books 1996
	参考文献	
評価方法	<p>平常点およびテスト、レポート</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	英作文 1	担当者名	青 柳 明
-----	-------	------	-------

講義の目標	むだな表現のない、簡潔な英文を書く練習をする。このために練習問題をやりながら、基本的文法事項の再チェックをし、できるだけ自然な英語らしい表現を学ぶ。		
講義概要			
使用教材	テキスト	『英文構成法』成美堂	
	参考文献	授業時に指示する	
評価方法	前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスでの参加を重要視するので、積極的に参加すること。		
受講者に対する要望など	授業をスムーズに進めるため、必ず予習をしてこよう。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文
2	句および節
3	名詞
4	冠詞
5	形容詞
6	副詞
7	比較
8	代名詞
9	関係代名詞及び関係副詞
10	助動詞
11	他動詞と自動詞
12	時制(1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	時制(2)
2	態
3	仮定法
4	準動詞
5	話法
6	前置詞
7	接続詞
8	応用問題(1)
9	応用問題(2)
10	応用問題(3)
11	応用問題(4)
12	応用問題(5)
備考	

科目名	英作文 2	担当者名	青 柳 明
-----	-------	------	-------

講義の目標	日・英語の共通点と相違点を知り、できるだけ自然な英語らしい表現を学ぶ。日本人学生がよく犯す間違いに触れ、その原因を知る。		
講義概要			
使用教材	テキスト	『日・英語の比較による英作文』成美堂	
	参考文献	授業時に指示する。	
評価方法	前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスでの参加を重要視するので、積極的に参加すること。		
受講者に対する要望など	授業をスムーズに進めるため、必ず予習をしてくること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	主語の選び方
2	英語特有の言語構文
3	名詞と冠詞の生かし方
4	形容詞
5	動詞(1)
6	動詞(2)
7	自動詞と他動詞
8	使役動詞
9	日・英語の態
10	助動詞
11	日・英語の時制
12	仮定法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	話法
2	前置詞
3	副詞
4	比較
5	否定構文
6	接続詞
7	関係詞
8	口語表現の英訳
9	応用問題(1)
10	応用問題(2)
11	応用問題(3)
12	応用問題(4)
備考	

科目名	英作文3,4	担当者名	伊藤隆男
-----	--------	------	------

講義の目標	和文英訳のテクニックを修得すると共に、普遍性の有る談話を構築する能力を養う。普遍性の有る談話とは、英語が正確で、論旨が明瞭で、論理が一貫していて、且つ説得力の有る談話を指す。		
講義概要	日本語で書かれた文章を受講生に英訳して提出してもらい、それについて講評する。また、米国のジャーナリズムから取った記事を講読し、それを論評する英文を受講生に書いて提出してもらい、それについて、講評・討論を行う。		
使用教材	テキスト	和文英訳については未定。英作文の課題については、各週の「主要テーマ」欄に記載の記事を配布。	
	参考文献	<i>The New York Times, Weekly Review</i> (『朝日新聞』販売店で講読申込可)。	
評価方法	各学期末の試験結果に平常点を加減して成績を決める。平常点とは、宿題提出(+4.5)、同未提出(-0.1)、質問/発言(+0.1)、欠席(-1)の次第。		
受講者に対する要望など	積極的態度和粘り強さ。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	"Word for Word/On Trial in Germany: We Weren't Following Orders, But the Currents of the Cold War," <i>The New York Times</i> , 3/24/96: E7.
2	和文英訳
3	"Japan Votes for Clinton," <i>The New York Times</i> , 3/13/96: A19.
4	和文英訳
5	"Traditional Campaigning Boosts Japan's Onetime Ruling Party," <i>The Washington Post</i> , 11/20/96: A22.
6	和文英訳
7	"Tobacco on Trial: Making a Case for Death," <i>The New York Times, Weekly Review</i> , 5/5/96: p. 1, p. 4.
8	和文英訳
9	"A 3620 - Year Temperature Record from Fitzroya cupressoides Tree Rings in Southern South America," <i>Science</i> 260 (5/21/93).
10	和文英訳
11	"The FDA's War on Parents," <i>The Washington Times</i> , 10/15/96.
12	和文英訳
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	"How We Lost the Kurdish Game," <i>The Washington Post</i> , 9/15/96: C1.
2	和文英訳
3	"Taxpayer - Funded Death Squads," <i>The Washington Times</i> , 9/24/96.
4	和文英訳
5	"Bosnia: Now the Truth Can Be Told," <i>The Washington Times</i> , 11/18/96.
6	和文英訳
7	"The Media Shows Its Bias," <i>The Washington Times</i> , 11/3/96.
8	和文英訳
9	"Desperation in Zaire," <i>The Washington Times</i> , 11/12/96.
10	和文英訳
11	ロシア関連の記事
12	和文英訳
備考	

科目名	英作文 5	担当者名	四宮 満
-----	-------	------	------

講義の目標	この授業を通し、英語らしい表現はなにか、英語の文体はどうかなどについての理解を深め、英語表現能力をたかめることを目的とする。	
講義概要	英語の発想、日本語の発想の違いなどに留意しながら、英文を書く訓練をする。主とした日本の小説、童話、その他のジャンルのものを英訳する。勿論このために随時英文を読みこことが必要となる。	
使用教材	テキスト	日本の翻訳 EG サイデンステッカー、安西徹雄
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日英語の発想の違いなどについてテキストを読みながら解説する。
2	同上・英訳課題を出す
3	①課題の解答提出 ②課題の問題点、留意事項などについて解説 ③英訳課題を出す
4	①②③
5	①②③
6	①②③
7	①②③
8	①②③
9	①②③
10	①②③
11	①②③
12	①②③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語、日本語の表現、談話構造一般について解説
2	同上・英語課題を出す
3	①課題解答提出 ②課題の問題点、留意事項などについて解説
4	①②③
5	①②③
6	①②③
7	①②③
8	①②③
9	①②③
10	①②③
11	①②③
12	①②③
備考	

科目名	英作文 6	担当者名	島田 啓一
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>英語らしい英語を短期間で書けるようになる最も効果的な勉強方法は自然な英文（パラグラフ）をできるだけ多く暗記すること、そして、それを使って実際に英文をたくさん書いてみることである。この授業では単調な暗記作業をカセット・テープを使うことにより興味深いものにし、またコンピュータ教室を使いE-mailを利用してコミュニケーションの一環として英文を書いてもらう。ヒアリング能力を高めることも目指したい。</p>	
講義概要	<p>上記の目標を達成するため、徹底してディクテーションと英文のE-mailの交換・発表を行う。次のことを行う予定。</p> <p>(1)カセット・テープを使って短い読み物や会話文などを暗記すること。</p> <p>(2)宿題としてプリント教材のテープを活用したディクテーション。</p> <p>(3)毎週、ディクテーションまたは暗記のテストと宿題の提出。</p> <p>(4)TOEICのヒアリング問題の模擬試験。</p> <p>(5)英文のE-mailをクラスメート、教師、海外のメールフレンドなどと交換して、その記録を提出、発表し、英文を批評しあう。(パソコン操作はできなくても構わないが、<u>ブラインド・タッチのタイピングができることを受講要件とする。</u>)</p>	
使用教材	テキスト	毎週配布するプリント。サブテキストを指定するかも知れない。
	参考文献	パソコンも使用するので、パソコン操作に不慣れな者は Windows 95 や Eudora, Netscape Navigator, Word などの入門書などに目を通しておくことが望ましい。
評価方法	前期・後期の定期試験（60%）、毎週のテストと宿題・課題（40%）の予定。	
受講者に対する要望など	受講希望者は最初の授業に60分（片面30分）の生テープと赤鉛筆（ペン）、3.5インチ2HD フロッピー・ディスクを1枚持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方の説明と模擬授業。平易な英文のディクテーションと宿題あり。パソコンの基本操作説明（1）。
2	TOEIC のヒアリング問題の模擬試験。カセット・テープ教材のダビング。パソコンの基本操作説明（2）。
3	パソコンの基本操作説明（3）。様々なレベル（informal から formal）、分野（会話文、説明文、手紙、レポートなど）にわたるパラグラフのディクテーション。
4	パソコンの基本操作説明（4）。E-mail の交換。ディクテーション・テストなど。
5	ディクテーション・テスト、E-mail の交換と英文の批評など。（可能ならばブラウザーを使い海外のサイトを英作文と関係する範囲内で web surfing することも試みたい。）
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	予備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ディクテーション・テスト、E-mail の交換と英文の批評など。（可能ならばブラウザーを使い海外のサイトを英作文と関係する範囲内で web surfing することを試みたい。）
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	TOEIC のヒアリング問題の模擬試験。（ヒアリング能力の進歩を測定するため。）
11	TOEIC のヒアリング問題の模擬試験結果の発表など。
12	予備
備考	

科目名	英作文7,8	担当者名	中村 繁
-----	--------	------	------

講義の目標	既習文法事項の作文への応用力を養ふと共に、和文英訳のコツを会得してもらふ。		
講義概要	文法応用の和文英訳実作練習。問題は基本的なものと同程度のものの両方から構成されている。		
使用教材	テキスト	プリント。	
	参考文献		
評価方法	平素の勤怠・意欲と試験成績。		
受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から50名に限り受講を認める。初回欠席者は、さほど強き希望なきものとして受講を認めない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要説明。教材配布。
2	文・基本時制(1)。
3	同上(2)。
4	It の用法(1)。
5	同上(2)。
6	否定の用法(1)。
7	同上(2)。
8	完了。
9	不定詞(1)。
10	同上(2)。
11	動名詞。
12	分詞。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	比較。
2	仮定法。
3	物主構文。
4	和文英訳実作演習(1)。
5	同上(2)。
6	同上(3)。
7	同上(4)。
8	同上(5)。
9	同上(6)。
10	同上(7)。
11	同上(8)。
12	同上(9)。
備考	

科目名	英作文 9	担当者名	藤田永祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>英文をつづる能力は結局のところ総合的なものだと思います。適切な単語や語句や文章を場合場合に応じて使えるようになるには、それなりの蓄積が要求されます。文章の組み立て方、文章と文章のつなげ方には、文法の基本的な知識を確かに習得していることが不可欠です。日本文と同じく英文もなるべく創意をこらす方が面白く、実力も伸びると思います。自分の弱点と長所を自覚して、日頃努力する習慣を身につけることが大切。</p>	
講義概要	<p>テキストにそった実習が中心。時おり親しみのもてるエッセイに取りくんでもらい、生の自分の能力を別の角度からためすというかたちをとりいれます。</p>	
使用教材	テキスト	検討中。
	参考文献	授業中に指摘する。
評価方法	年二回のテストと平常点。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストとは独立した和文のエッセイを辞書を使用して英訳する。
2	テキストの実習。名詞構文が英文で多用される理由についての解説。
3	先々週のエッセイの英訳についてのコメント。テキストの実習。
4	テキストの実習。
5	テキストの実習。日本語と英文それぞれの柔軟性について。
6	テキストの実習。
7	テキストの実習。
8	テキストの実習。
9	テキストの実習。
10	テキストの実習。
11	テキストの実習。
12	テキストの実習。休み中の課題について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの実習。
2	テキストの実習。
3	ネイティブ・スピーカーの英文と日本人の英文に見うけがちな相違について。テキストの実習。
4	和文のエッセイを辞書を使って英訳する。
5	テキストの実習。
6	先々週のエッセイの英訳についてのコメント。テキストの実習。
7	テキストの実習。
8	テキストの実習。
9	テキストの実習。
10	テキストの実習。
11	テキストの実習。
12	テキストの実習。
備考	今までの総括。

科目名	英作文10	担当者名	三好 健
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>日本語と英語は表現の仕方が大きく違うので、英語を書く（話す時も同じですが）ときには、その違いを知っていることが、読むとき以上に大切です。一見して易しく思える英語も、自分がいざ書く（話す）となると容易ではありません。日英両語の表現形態の違いに目を向けて、英語を書く（話す）場合に知っておくべき基本的な表現形式の一そろいを、和文英訳の形で習得するのが、この授業のねらいとなります。</p>		
講義概要	<p>表現力養成の見地から例文を精読し（その際注意点を指示します）、テキスト各課にある練習問題（主として和文英訳）を口で言ったり書いたりすることにより勉強します。一回の授業で一課ずつ進みますが、毎回受講者の一人ひとりに発言を求めるので、下調べが必須となります。そのかわりマジメにやれば力がつくこと受けあいです。</p>		
使用教材	テキスト	<p>The New Current English Composition [senior course] (英潮社) (後期は受講者のレベルと趣味を考慮して別のテキストを使用)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>平常の成績と年2回の試験によります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻や欠席が好きで下調べが嫌いな学生には適しません。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストの紹介と、一年間の授業予定と勉強の仕方についての説明。
2	テキスト第1課——冠詞について。
3	テキスト第2課——主語について。
4	テキスト第3課——否定主語と疑問主語について。
5	テキスト第4課——無生物主語について。
6	テキスト第5課——時制について。
7	テキスト第6課——仮定法について。
8	テキスト第7課——態について。
9	テキスト第8課——目的語と補語について。
10	テキスト第9課——準動詞形について。
11	テキスト第10課——関係詞について。
12	テキスト第11課——接続詞について。
備考	

後 期

〔後期は、授業のマンネリ化を防ぎ、目先を変える意味から、受講者のレベルと好みを見はからってテキストを変えるつもりでいます。いづれにしても和文英訳の練習をやる予定で、たぶんプリントを使うことになるでしょう。従って具体的なテーマは今のところ未定です。〕

科目名	英作文 11	担当者名	渡邊 美代子
-----	--------	------	--------

講義の目標	<p>英語の文章構成は、日本語のそれと比べて大きく様相を異にする。それ故、日本語の論理で英作文を試みると、意味を成さないものになってしまう場合が少なくない。このコースでは、基本的な英作文の技法を習得し、きちんとしたパラグラフが書けるようになることを目標とする。パラグラフ構成演習を通して、理論をうちたてる能力が培われることを期待したい。</p>		
講義概要	<p>文の合成や接続の仕方など、基礎的な知識を得た後、英語の文章における情報の構成方法を習得する。パラグラフやエッセイの構成、トピックセンテンスの役割、内容整理のためのアウトラインについて学び、さらにより効果的な文章を書くために、強調、簡潔、説得方法などについても学習する。与えられたテーマで、実際にパラグラフをいくつか書いてもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Developing Writing Strategies</i> 〈ライティング・ストラテジー〉 北尾S. キャスリーン・北尾謙治 郁文堂</p>	
	参考文献	<p>・ <i>Common Errors in English Writing</i> 〈英作文の盲点200〉 木塚晴夫・Roger Northridge Macmillan LanguageHouse</p>	
評価方法	<p>前・後期試験の結果、提出物、平常点を考慮して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習して授業に臨むことが原則である。 提出物はなるべくワープロで作成するようお願いしたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Introduction and Outline.
2	Sentence Combining (1) & (2)
3	Sentence Combining (2), Making Referents Clear
4	Using Connectors (1)
5	Using Connectors (2)
6	Parts of Paragraphs and Essays
7	Types of Organization — Illustration, Classification, and Cause and Effect
8	Types of Organization — Comparison/Contrast and Opinion
9	Topic Sentences
10	Irrelevant Sentences
11	Outlining
12	Choosing the Right Word
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Readability
2	Parallel Constructions
3	Using Verb Tenses Correctly
4	Emphasis
5	Conciseness
6	Audience Analysis
7	Persuasion
8	Figures of Speech
9	Abstract and Concrete Writing
10	Writing about Time
11	Facts and Opinions
12	Avoiding Sexist Language
備考	

科目名	エッセイ・ライティング1 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング)12 (92年度以前)	担当者名	黒岩由子
-----	--	------	------

講義の目標	エッセイを書くに当たって守るべきいくつかの基礎的ルールを学ぶ。その上で3つの異なった種類、①Descriptive ②Narrative ③Abstract のエッセイを書いてみる。		
講義概要	<p>授業を'Workshop'として考え、各自が自分のテーマ、資料などを持ち込み、個別指導も受けながら作品を完成して行く。必要があれば何度でも書き直し磨きをかけ、満足のゆくものに仕上げる。</p> <p>生徒の作文に発生した間違や問題点はなるべく多く取り上げ全員に解説する。</p>		
使用教材	テキスト	プリント使用 (作品は未定)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Use of English by Randolph Quirk ・ Living English Structure by Stannard Allen <p style="text-align: center;">(LONGMAN)</p>	
評価方法	<p>提出された3つのエッセイを下記の点を重視して評価する</p> <p style="text-align: center;">①Grammar ②Use of words and expressions</p> <p style="text-align: center;">③Structure ④Style and originality</p>		
受講者に対する要望など	<p>提出期日を厳守すること。</p> <p>欠席する予定のある時は郵送するか期日以前に連絡し指示に従う。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	エッセイを書く時の心構え、エッセイの書き方を種類別に解説する。 Descriptive Essay の Introduction (導入部) の役割と内容の説明
2	Introduction (1~2 paragraphs) を書き、提出する。
3	添削した Introduction につき Comment 或は Suggestion により個別に指導する。又必要あれば全クラスで取り上げ説明する。 Body (発展部) の役割と内容の説明。
4	Body (1~2 paragraphs) を書き、提出する。
5	添削した Body につき上記に同じ。 Conclusion (結びの部) の役割と内容を説明する。 Conclusion (1 paragraph) を書き、提出する。
6	添削した Conclusion につき上記に同じ。 Descriptive Essay をまとめ再度改めたいところは直す。 Narrative Essay の Introduction の指導
7	Descriptive Essay の全文を提出する。 Narrative Essay の Introduction (1~2 paragraphs) を書き、提出する。
8	添削した Introduction につき上記に同じ。 Body の書き方を指導する。
9	Body (2~3 paragraphs) を書き、提出する。
10	添削した Body につき上記に同じ。 Conclusion の役割と内容を説明する。 Conclusion (1 paragraph) を書き、提出する。
11	添削した Conclusion につき上記に同じ。 Narrative Essay をまとめ改める必要のある所は書き直す。
12	Narrative Essay の全文を提出する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Abstract Essay のテーマを決める時に注意すること、どのような資料が必要かなどを指導する。 Introduction の書き方を説明する
2	各々自分のテーマを決め Introduction (2 paragraphs) を書き、提出する。
3	添削した Introduction につき comment 及び個別の指導をする。 Body の内容、書き方を指導する。
4	Body I (2~3 paragraphs) を書き、提出する。 The Applications
5	添削した Body I につき上記に同じ。
6	Body II (1~2 paragraphs) を書き、提出する。 The Limitations
7	添削した Body II につき上記に同じ。 Conclusion の内容と書き方を指導する。
8	Conclusion (1~2 paragraphs) を書き、提出する。
9	添削した Conclusion につき上記に同じ。
10	Abstract Essay をまとめ今一度吟味して完成させる。 個別指導も行う。
11	Abstract Essay の全文を提出する。
12	総評
備考	

科目名	エッセイ・ライティング2 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング)13 (92年度以前)	担当者名	篠田 愛理
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>学習者が、文法的に正確な単文から始め、重文や複文をつなぎ合わせて一つのまとまった中心的な考え (one central idea) を展開させて paragraph (パラグラフ、段落) にまとめあげ、更に本格的なエッセイが書けるよう基本的な英語の書き方を段階的に指導。下記の教科書以外に、学生にとって興味ある最近の出来事を適宜に活用し、それによって自分の考え、物の見方を意欲的に、十分に意味の通る英語で説明、説得できるよう指導する。</p>		
講義概要	<p>先ず、パラグラフの構造に関する基本的な事実の説明の後、パラグラフの構造の理解と認識。トピックセンテンスの理解と認識。次に、記述、物語、意見表明、説明、分類、原因と結果、比較対象、問題解決等、各種のパラグラフを取り上げて紹介。最後に、文章の最小単位のパラグラフをつないで、訂正、構成、編集作業を経て、本格的なエッセイにまとめあげることができるように指導する。英語を書くにあたり、基本的な常識——基礎文法、基本的語彙、イディオム、英語的な関連表現、syllabification, punctuation, capitalization の強化、習得にも力を入れる。</p>		
使用教材	テキスト	『パラグラフからエッセイへ (From Paragraphs to Essays—Improving Reading and Writing Skills)』北尾 S. キャスリーン、北尾謙治著 (英潮社、1993/95年)	
	参考文献	教室で指示。Handouts 配布も予定。	
評価方法	<p>①クラス毎の宿題、②前期・後期末に提出の規定のテーマに基づいたレポート、③夏期休暇の宿題、④平生の授業での貢献度、及び⑤出席状況に依って決定。⑥適宜に英文法小テストも施行する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。英和中辞典か英英辞典を毎クラス持参すること。和英辞典の持参は自由。タイプライター、ワープロかパソコンが使えることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Orientation: 授業内容、目標、予定の解説、紹介
2	Chapter 1: The English Paragraph
3	Chapter 2: Main Ideas and Topic Sentences
4	Chapters 1と2のまとめ
5	Chapter 3: Transitions in a Paragraph
6	Chapter 4: Description and Illustration
7	Chapter 5: Classification and Analysis
8	Chapters 3、4、と5のまとめ
9	Chapter 6: Cause and Effect
10	Chapter 7: Comparison and Contrast
11	Chapter 8: Personal Opinion and Problem-Solution
12	Chapters 6、7、と8のまとめ 前期の復習テスト、総まとめ、前期末提出のレポートの解説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期末提出のレポートの評価と検討
2	Chapter 9: From Paragraphs to Essays
3	Chapter 10: Comparison and Contrast
4	Chapters 9と10のまとめ
5	Chapter 11: Analysis
6	Chapter 12: Cause and Effect (1)
7	Chapter 13: Cause and Effect (2)
8	Chapters 11、12、と13のまとめ
9	Chapter 14: Classification
10	Chapter 15: Personal Opinion
11	Chapter 16: Problem-Solution
12	Chapters 14、15、と16のまとめ 後期の復習テスト、総まとめ、後期末提出のレポートの解説
備考	

科目名	エッセイ・ライティング3 (93年度以降) 英作文(エッセイ・ライティング)14(92年度以前)	担当者名	J. C. Allard
-----	---	------	--------------

(前期完結)

講義の目標	WE WILL BEGIN WITH THE SENTENCE AND ITS COMPLICATIONS THEN CONSIDER THE PARAGRAPH AND LONGER ESSAY ORGANISATION. CLARITY AND COHERENCE ARE CENTRAL CONCERNS		
講義概要	CLASSES WILL BE WORKSHOPS WHERE WE WILL TACKLE THE PROBLEMS OF WRITING WELL. THERE WILL BE WEEKLY WRITING ASSIGNMENTS		
使用教材	テキスト	PHOTOCOPIES AND VIDEOS	
	参考文献	ENGLISH-ENGLISH DICTIONARY	
評価方法	WEEKLY PAPERS ARE GRADED <i>AFTER</i> CAREFUL DISCUSSION AND REVISION		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	INTRODUCTION TO COURSE AIMS, WRITTEN EXERCISE FOR EVALUATION
2	THE SENTENCE-INTRODUCTION TO DESCRIPTION
3	PUNCTUATION AND THE SENTENCE, ILLUSTRATION
4	THE SHORT PARAGRAPH. IMAGERY, THE SENSES AND HOW TO EVOKE THEM
5	OUTLINE TECHNIQUES COMPARISON
6	THE SHORT ESSAY CONTRAST
7	COMPARISON AND CONTRAST. WRITING ABOUT TWO THINGS IN AN ORDERLY MANNER
8	HOW TO EXPLAIN CLEARLY DIVISION
9	MORE WORK ON OUTLINES CLASSIFICATION
10	CLASSIFICATION AND DIVISION, SOME PROFESSIONAL EXAMPLES
11	WHY ? HOW ? SO WHAT HAPPENED ? CAUSE AND EFFECT ANALYSIS
12	CONCLUSION. INDIVIDUAL ANALYSIS OF AREAS THAT NEED FURTHER WORK AND HOW BEST TO DO IT
備考	

科目名	エッセイ・ライティング4 (93年度以降) 英作文 (エッセイ・ライティング) 15 (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	This class will focus on the basics of writing essays in English, especially the pre-writing planning stages. Students need not have a high level of spoken English, however, should have a reasonable knowledge of English grammar and vocabulary and a desire to learn to better organise their writing.		
講義概要	<p>Planning and pre-writing is vital stage of any writing, particularly essay writing. While the class will look at a variety of essay styles (narrative, persuasive, etc.) the development of the concept to a concrete and usable plan will be the most important feature.</p> <p>Students will learn to organise and maximize their thoughts through the use of brainstorming techniques, strict planning techniques, the development of good topic sentences, introductions, and conclusions. Topics will be developed through some discussion and where possible, will be based on student interest.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ A text may be decided upon after the class' needs are assessed over the first few weeks. ・ Handouts will be provided by the teacher. 	
評価方法	Grades will be based on work produced in the class and as homework in the form of notes, formal essay plans and three completed essays. (All submitted work must be typed.) Attendance is very important and students will be expected to contribute to the best their ability. There will be no examinations as assessment will be ongoing over the year.		
受講者に対する要望など			

科目名	エッセイ・ライティング 5, 6 (93年度以降) 英作文 (エッセイ・ライティング) 16, 17 (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標	<p>This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.</p>		
講義概要	<p>Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write, And this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly. Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.</p>		
使用教材	テキスト	Prints and videos.	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Brit-think, Ameri-think. Jane Walmsley • Creative Writing • Mind the Stop G. V. Carey 	
評価方法	<p>All papers are graded (weekly assignments). Where necessary, students will be asked to write a final report. 1st Term report : July 7. 2nd Term report : December 12.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	a. introduction of methods and class practice b. written piece for evaluation ('think' item selection)
2	Basic errors in construction. . . adjective and noun control in relation to article use.
3	Punctuation. . . good comma use and bad of similar stops. . . the comma stressed as a communication tool.
4	Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.
5	Ambiguity, writing with awareness of meaning intended and meaning received.
6	Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one's own work.
7	1. the relative pronoun and the related pitfalls 2. some absurdities in singular and plural use.
8	Continuation of the 'plural' theme. . . difficulties with 'each' and the use of 'everyone' and 'his or hers'.
9	Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.
10	Introductions and endings. . . summaries and conclusions. . . the open ending.
11	Writing a short short story and including all the work we have covered so far.
12	Balanced writing. . . the sweeping statement and 'narrow-minded' attitudes in producing biased writing.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.
2	Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.
3	Letter writing. a) person to person, b) business, c) other letters, notes, job applications, forms, etc. .
4	Conciseness in documentary writing. A look at the range of meaning of the word, 'academic'.
5	The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.
6	Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.
7	Economy of expression; reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.
8	Criticism. Analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.
9	The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.
10	E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.
11	Creative expression. . . ranges and limitations. Creative writing and modern video.
12	Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.
備考	

科目名	エッセイ・ライティング7 (93年度以降) 英作文 (エッセイ・ライティング) 18 (92年度以前)	担当者名	F. Fearn
-----	--	------	----------

講義の目標	<p>The programme aims to improve the overall writing skills of participants. In particular it will focus upon the organisation of ideas and their expression to produce complete cohesive texts.</p>		
講義概要	<p>A workshop approach will be followed, students working in small groups to complete a range of tasks. Through these activities it is intended students will develop their awareness of the nature of a well-written text.</p> <p>Students will be required to complete weekly writing assignments.</p>		
使用教材	テキスト	Prints and videos.	
	参考文献	English-English dictionary	
評価方法	<p>All weekly papers are graded. Students will be able to discuss and revise their work before grading.</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	翻訳Ⅰ－Ⅰ（93年度以降） 英作文（翻訳Ⅰ）19（92年度以前）	担当者名	園部明彦
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>翻訳を単に、英語から日本語へ、日本語から英語へ置き換えるといった安易な考え方ではなく、翻訳とは、英語と日本語の発想の相違に注目することから始まるということ、まず認識していただきたい。</p> <p>前期は、推敲に推敲を重ねた簡潔で明快な英文の翻訳。後期は、その英文を手本に受講者自らが英文作成を試みていく。</p>		
講義概要	<p>Alexander Smith という作家は、今日では残念ながら全く忘れ去られてしまっているが、感興のわくままに筆を運び、心情と気分を読者に訴え、静かに自分の境地を觀照しようというかれのエッセイは、散文で書かれた詩というべきものである。従って、翻訳には非常に骨が折れよう。また、その意味では、翻訳のドリルには格好の教材と言える。</p> <p>前期は、一語一語疎かにすることなく厳密に読みすすめ、そのなかで特に翻訳には難しいと思われる箇所を選んで、毎時間、受講者全員に翻訳を試みてもらう。そのため、前もって、それらの箇所だけを示すことはできないので、この点は了解していただきたい。</p> <p>後期、新聞などから広く話題を求め、受講者全員に簡潔な英文の作成を試みてもらう。</p>		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献		
評価方法	<p>前期、後期とも、毎回受講者全員に課す翻訳の評価の合計から成績を出す。従って、欠席は極めて不利になる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻は認めないのは例年通り。各自、辞書だけは用意しておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	A. Smith: <i>On Dreams And Dreaming</i> から before の用法
2	挿入句を含む文
3	省略形について
4	一文が10行以上にわたる場合
5	完結されていない文の翻訳
6	完了形を含む文
7	省略形について
8	the + 最上級を訳出する場合
9	仮定法について
10	難解な省略形
11	" "
12	まとめ
備考	

後 期

題材を新聞コラムなどに求め、和文英訳の演習を行なう。なお、その程度のものを英訳するか、昨年の例をあげるのので、参考にされたい。

おそらく日本人は、自分が孤独であることに気づかない本当に孤独な人たちなのではないか、とよく思うようになった。

外見的には、世界における日本人の態度に孤独の影はない。大挙して外国へおしかけ、思う通りに振る舞って、さっと引き上げてゆく。残すのは騒音だけで、そこに人間がいたという痕跡すらないくらいだ。しかし、そうした外観にもかかわらず、いま日本人の内部に広がりつつあるのは、深い虚無の闇（やみ）であり、世界の中の、集団の中の、どうしようもない孤立感なのではないだろうか。

科目名	翻訳Ⅰ－Ⅱ（93年度以降） 英作文（翻訳Ⅰ）20（92年度以前）	担当者名	林 節 雄
-----	-------------------------------------	------	-------

講義の目標	英語原文を日本語に翻訳する仕事、および日本語原文を英語に翻訳する仕事に興味がある学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行うことによって、言葉のセンスと技術を磨くことを目標にする。		
講義概要	参考文献が論じているいくつかのトピックについて内容を紹介し、翻訳経験者としての私の考えを述べる。実習では主に <i>Newsweek</i> , <i>Time</i> , 英語の新聞などの興味ある記事を使って日本語を練習する。日本語原文の英訳については主として新聞や雑誌が掲載する広告文を材料に練習する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加島祥造、志村正雄『翻訳再入門』（1992）南雲堂 ・中村保男『翻訳の技術』（1989）中公新書 ・中村保男『現代翻訳考』（1992）ジャパンタイムズ 	
評価方法	実習で提出する各自の翻訳文の添削結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」というトピックについて話し、短い英語と日本語の原文の翻訳実習。
2	「後戻りしない文章」というトピックについて話し、実習。
3	「後戻りしない文章」(続)の話と実習。
4	「直喩の訳し方」についての話と実習。
5	「直喩の訳し方」(続)についてと、実習。
6	「直喩の訳し方」(続)についてと、実習。
7	「意味のストレス」についての話と、実習。
8	「意味のストレス」(続)についてと、実習。
9	「意味のストレス」(続)についてと、実習。
10	「辞書と翻訳」の話と、実習。
11	「辞書と翻訳」(続)についてと、実習。
12	「辞書と翻訳」(続)についてと、実習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「リズム、ひびき、そして辞書」について話し、実習。
2	「リズム、ひびき、そして辞書」(続)についてと、実習。
3	「リズム、ひびき、そして辞書」(続)についてと、実習。
4	「超訳は翻訳か」について話し、実習。
5	「超訳は翻訳か」(続)についてと、実習。
6	「超訳は翻訳か」(続)についてと、実習。
7	「誤訳だらけの本」について話し、実習。
8	「誤訳だらけの本」(続)についてと、実習。
9	「誤訳だらけの本」(続)についてと、実習。
10	「原文修正は許されるか」について話し、実習。
11	「原文修正は許されるか」(続)についてと実習。
12	「原文修正は許されるか」(続)についてと実習。
備考	

科目名	翻訳Ⅱ（93年度以降） 英作文（翻訳Ⅱ）21（92年度以前）	担当者名	藤田永祐
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>知的な仕事はなにごとにもそうですが、翻訳は実に奥の深い仕事です。よい翻訳をするには原文の十全な理解と、置きかえる方の言語を十分に使いこなせること、両方が不可欠です。英語の単語、語句は英語のシステムの中で十分に機能し、日本語についても同じことが言えるわけですから、字義通りの逐語訳はほとんどの場合、優れた訳とならないばかりか、しばしば、意味をなさないこととなります。英語と日本語の文章、語句の発想のちがいを深く認識すること、英語と日本語双方のセンスを磨くことが目標です。</p>	
講義概要	<p>講義の性格として、抽象的になることなく、実践的・具体的な方式をとります。最初は最近実際に試み世にだしたのものから、親しみ易く応用性に富むと思われるものを実習の題材にとり、工夫した点、苦勞した点を解説しながら、授業をすすめます。その後実習の題材は、エッセイ、英字新聞、現代ものの小説から自由に採ってきて日本語訳の練習をします。</p> <p>日本語の英訳は、参考文献にあげた本が指摘している点を考慮して、短かい文を択んで試みてもらいます。</p>	
使用教材	テキスト	とくに使用しない。プリントを使用します。
	参考文献	ジェイムズ・H・M・ウェブ『日本人に共通する英語のミス121』
評価方法	毎回行なり実習の添削を中心に総合的に評価を出す。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語と英語の発想のちがい、翻訳に当たっての難しい点について (その1) 実習
2	日本語と英語の発想のちがい、翻訳に当たっての難しい点について (その2)
3	(その3) 実習
4	(その4) 実習
5	(その5) 実習
6	(その6) 実習
7	(その7) 実習
8	(その8) 実習
9	(その9) 実習
10	(その10) 実習
11	(その11) 実習
12	総括 実習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	複数形に関するまちがいについて 実習
2	冠詞に関するまちがいについて 実習
3	動詞に関するまちがいについて 実習
4	形容詞に関するまちがいについて 実習
5	副詞に関するまちがいについて 実習
6	名詞に関するまちがいについて 実習
7	前置詞に関するまちがいについて 実習
8	接続詞に関するまちがいについて 実習
9	その他のまちがいについて 実習
10	総括 実習
11	総括 実習
12	総括 実習
備考	

科目名	Conversation I - 1 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 1 (92年度以前)	担当者名	P. Apps
-----	--	------	---------

講義の目標	<i>Theme: Talking is easy if you try !!</i>		
講義概要	<i>Aim: 1) To improve students confidence in communicating in English. 2) To revise and use grammar previously studied.</i>		
使用教材	テキスト	<i>Textbook & Materials: To be announced (TBA) at the beginning of the second class after a level test has been given.</i>	
	参考文献	<i>Course outline: There will twenty-classes in the course. The syllabus will be advised after the class level test.</i>	
評価方法	<i>Advise to the student Try your hardest and try to communicate in the classroom.</i>		
受講者に対する要望など	<i>Evaluation: 1) There will be a written test on what has been studied at the end of every semester 2) There will be an interview test focusing on specific structures and content studied at the end of every term. 3) Attendance and class participation will be evaluated. 4) Written assignments and productive exercises will be evaluated.</i>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ	
1	Introduction	Class Level check
2	TBA	
3	"	
4	"	
5	"	
6	"	
7	Class Assignment	Production of a Commercial for TV
8	"	"
9	"	"
10	Test	A small test on the semesters study
11		
12		
備考		

後期

週	主 要 テ ー マ	
1	Revision	Revision of the first term's work/Holiday discussion
2	TBA	
3	"	
4	"	
5	Class Assignment	Interview of a foreigner living in Japan
6	"	"
7	"	"
8	Presentations	Formal Instruction on giving a presentation
9	"	"
10	"	"
11	"	"
12	Test	A course test on what was studied during semester
備考		

科目名	Conversation I - 2 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 2 (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	<p><i>This class will try to get away from the use of traditional language textbooks by using short letters written by native speakers to look at real language, idioms and cultural situations.</i></p>		
講義概要	<p><i>Through the use of letters written to an advice column in the United States students will be introduced to language written for communication that also can be used for discussion of interesting cultural differences and adapted for situational role-plays. Vocabulary and idiom building will also be an important feature. Participation to the best of their abilities is the key.</i></p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p><i>Materials will be provided by the teacher.</i></p>	
評価方法	<p><i>Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, periodic tests and oral testing. Good attendance is paramount. MOST IMPORTANT is a willingness to try and contribute and learn.</i></p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

Class One

Course Introduction in the first class will outline the general aims and methodology. This will also include outline of class grading policies & setting up of on-going activities.

Each class will follow a similar pattern :

- scene setting and short general discussion of the situation

- reading and analysis of the short letter
highlighting of key vocabulary and idioms

- concept checks through comprehension questions
discussion of key communication points of the letter
discussion of key culture-specific points of the letter

- language practice using one or more language forms found in the letter

- discussion of the 'reply' to the letter
discussion of suggestions and advice from the students

The actual emphasis in each of the above steps may change lesson to lesson and also depend greatly on student interest.

科目名	Conversation I - 3 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 3 (92年度以前)	担当者名	P. Beland
-----	--	------	-----------

講義の目標	日常英会話の上達と様々な題材 (社会問題、一般教養等) を通しての英会話又、英単語を身に付ける。		
講義概要	授業の50%は、日常会話の習得、残りの50%は、英語で様々な興味深いトピックス、幅広い知識を学ぶ。大半の生徒にとっては、初めてと思われるトピックスを紹介する為、生徒にはどんなことにでも偏見のない態度で興味をもって授業に挑むことを期待する。日常生活に必要なことを多く学ぶでしょう。		
使用教材	テキスト	; <i>LIVELY ENGLISH</i>	
	参考文献	プリント その他	
評価方法	出席率重視		
受講者に対する要望など			

科目名	Conversation I-4 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 4 (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	--	------	----------------

講義の目標	The aim of the course is to develop general fluency through discussion and presentation of a variety of topics. We will also focus particularly on the expansion of vocabulary and range of expression.	
講義概要	Each topic will cover two classes. In the first class we will use texts and/or video to outline the main points. Students will do further research for homework and in the second class the topic will be discussed at greater length. Topics listed may change depending on the interests of the class.	
使用教材	テキスト	
	参考文献	Print and video
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	Introduction to the course; student selection.
2	Topic 1: Changing Japan.
3	Topic 1 contd.
4	Topic 2: The environmental crisis.
5	Topic 2 contd.
6	Topic 3: The Communication revolution—computers and the Internet.
7	Topic 3 contd.
8	Topic 4: Story telling.
9	Topic 4 contd.
10	Topic 5: the problem of AIDS.
11	Topic 5 contd.
12	Mid-term examination
備考	

後期

週	主要テーマ
1	Review of first term's work
2	Topic 6: Work—are any jobs permanent?
3	Topic 6 contd.
4	Topic 7: Crime and punishment.
5	Topic 7 contd.
6	Topic 8: Language—comparing communication in Japanese and English
7	Topic 8 contd.
8	Topic 9: The drug problem.
9	Topic 9 contd.
10	Topic 10: The origin of Christmas and other festivals.
11	Topic 10 contd.
12	Final examination
備考	

科目名	Conversation I - 5 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 5 (92年度以前)	担当者名	D. Bradley
-----	--	------	------------

講義の目標	This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.		
講義概要	The text is made up of a collection of listening exercises and fluency practice activities. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, actual radio commercials, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions.		
使用教材	テキスト	GREAT IDEAS, Leo Jones and Victoria Kimbrough. CUP.	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course.
2	Consolidation activities.
3	"
4	Unit 1-Personal information
5	" 2-Strange phenomena
6	" 3-Shopping
7	" 4-Weather and climate
8	" 5-Communication
9	" 6-The past
10	" 7-Home entertainment
11	Review
12	Test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Consolidation
2	Unit 8-Nighttime entertainment
3	" 9-The future
4	" 10-Health
5	" 11-Work and the work world
6	Review
7	Unit 12-Vacation
8	" 13-Current events
9	" 14-Controversy
10	" 15-Advertising
11	Review
12	Test
備考	

科目名	Conversation I — 6 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 6 (92年度以前)	担当者名	R. J. Burrows
-----	--	------	---------------

講義の目標	To advance listening and conversation skills, knowledge of idioms and breadth of vocabulary through 15 thematic in units.	
講義概要	Each unit will comprise of extensive listening and conversation practice however, there will also be opportunities to practice reading and writing. There will be two reviews during each term to consolidate units previously studied.	
使用教材	テキスト	GREAT IDEAS by leo Jones and Victoria Kimbrough.
	参考文献	IDIOMS FOR EVERYDAY USE by Milada Broukal + Photocopied Handouts.
評価方法	30% : Attendance / Punctuality 40% : Classroom Performance 40% : 2 Written tests (July + January)	
受講者に対する要望など	Be prepared to come to class, study and work hard to improve Oral and Aural skills on this course.	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	INTRODUCTORY LESSON : An introduction of the course contents, aims and methods of evaluation.
2	UNIT 1 : YOU AND ME. Personal information. Idioms from Colours
3	UNIT 2 : STRANGER THAN FICTION Strange phenomena.
4	UNIT 3 : CAN I HELP YOU? Shopping.
5	UNIT 4 : WHAT A NICE DAY! Weather and Climate Idioms from Weather.
6	REVIEW : Summary and Review of first 4 units. Follow up exercises and role-plays.
7	UNIT 5 : KEEP IN TOUCH. Communication.
8	UNIT 6 : ONCE UPON A TIME. The Past/History. Idioms from Time
9	UNIT 7 : STAYING HOME. Home Entertainment.
10	UNIT 8 : GOING OUT : Nighttime Entertainment.
11	REVIEW. End of term summary and review. Follow-up exercises and role-plays
12	SPRING TERM EVALUATION
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	SUMMER VACATION REVIEW.
2	UNIT 9 : ONE OF THESE DAYS. The Future Idioms from Parts of the Body.
3	UNIT 10 : STAYING HEALTHY. Health and fitness.
4	UNIT 11 : ALL IN A DAY'S WORK. Work and the World of Work.
5	UNIT 11 : (Continued). Work. Idioms from Numbers.
6	REVIEW : Summary and Review of first 3 units. Follow-up exercises and role-plays.
7	UNIT 12 : GETTING AWAY FROM IT ALL. Vacations.
8	UNIT 13 : IN THE NEWS. Current Events. Idioms from Food.
9	UNIT 14 : I DONT AGREE. Controversy.
10	UNIT 15 : THE PERSUADERS. Advertising.
11	REVIEW : End of Term Review and Summary. Follow-up exercises and role-plays.
12	AUTUMN TERM EVALUATION
備考	

科目名	Conversation I - 7 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 7 (92年度以前)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標			
講義概要			
使用教材	テキスト	Text to be announced. Some supplementary prints.	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Prints for description work, conditional, and polite dialogue. ・Printed maps and real city outlays for direction work. 	
評価方法	<p>Grading will be done on a class participation basis in the first assessment, so not only attendance but, also, classwork will be considered.</p> <p>In the second assessment there will be a final conversation test for each term.</p> <p>1st term test : last class before summer.</p> <p>2nd term test : last class of the school year.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Class 1. Introduction of class and classroom methods. Some examples of practice routines and some general advice.
2	Class 2. Groups and pairs check. What are individual student's problems in simple communication?
3	Class 3. Reaction conversation. Short form dialogue with both known and unknown focus point. Introduction of pressure practice.
4	Class 4. Negative question and some simple ways of mastering its use and surviving its pressures.
5	Class 5. A practice session on negative question through a wide range of formulas. Advice on practice methods at home.
6	Class 6. Useful practices for improvement including hearing and expressing. Some vocabulary lists for idiomatic work.
7	Class 7. One-minute and two-minute speeches. A check on speeches to locate particular difficulties in expression.
8	Class 8. Fives. A practice of linked questions that focus on one subject. Time limits in practices.
9	Class 9. Pronunciation difficulties for Japanese. Exercises and advice. Some telephone practice to emphasize these problems.
10	Class 10. Hearing practices : emphasizing repeated hearings, reinforcing learned material.
11	Class 11. Anecdotes : recounting, questioning, explaining.
12	Class 12. Survey of Spring program. Casual conversation vs specific. Outline of Autumn schedule.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Class 1. Established dialogues. Famous scenes from movies. Acting and mimicking. Speaking to or for an audience.
2	Class 2. Write and act out a conversation. Group and pair work.
3	Class 3. Politeness and situation, and telephoning various people of different status, talking 'up' and 'across'.
4	Class 4. Interview practice. coverage of main items. parts and groups.
5	Class 5. Continuation of interviews using prepared resume. Handling direct questions and keeping up with your interviewer.
6	Class 6. Conditional. A guide for use in conversation that tends to avoid grammar consciousness. Abbreviated forms and success formula.
7	Class 7. Small descriptions in conversation. How to describe simple actions. A vocabulary for describing action.
8	Class 8. Presenting a teaching piece. Teach the class your favourite thing using some prop or gimmick.
9	Class 9. Discussion. Establishing a useful vocabulary and communicating contrary ideas safely.
10	Class 10. Practice in balancing ideas and stating one's opinion. Group and class practice.
11	Class 11. Four minute speeches open to questions. Handling questions and making your point.
12	Class 12. Summary of year's work, reinforcements. Some advice. Testing.
備考	

科目名	Conversation I - 9 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 9 (92年度以前)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	TO HELP STUDENTS SEE COMMUNICATION IN THE TOTAL CONTEXT AND PERCEIVE MANY FACTORS	
講義概要		
使用教材	テキスト	VIDEO TEACHING MATERIALS AND UNCLE BUCK PLANES, TRAINS AND AUTOMOBILES
	参考文献	SCRIPT OF BOTH VIDEOS
評価方法	CLASS ATTENDANCE, PARTICIPATION RESULT OF TWO EXAMS -50 QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTION AND CONTENT COMPREHENSION	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	COURSE INTRODUCTION TEACHER EXPECTATIONS GRADING CRITERIA ATTENDANCE
2	GUIDED SELECTION-COMPREHENSION WITH VIEWING GUIDE
3	COLLECTION/PERCEPTION OF VERBAL CLUES I. E. DOUBT, ANGER, HAPPINESS, ETC
4	COLLECTION OF VISUAL CLUES-EXPLOIT CULTURAL INFORMATION-CONTRASTIVELY
5	NOTE TAKING TECHNIQUES-CATEGORIZE, PRIORITIZE AND ANALYZE INFORMATION
6	SIMPLE REPETITION OF BASIC PHRASES AND ESSENTIAL STRUCTURES
7	VOCABULARY COMPREHENSION IN CONTEXT USING NON VERBAL CLUES
8	PRACTICE IN CONTEXT OF COMMUNICATIVE FUNCTIONS IN EXPRESSING EMOTIONS
9	FOCUS ON COPYING GESTURES-GUESSING WHAT IS BEING TALKED ABOUT-NO SOUND
10	SUPRASEGMENTAL FEATURES-INTONATION PATTERNS-VOICE TONE. PAUSE, ETC.
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF WEEKS TWO THROUGH TEN TOPICS DISCUSSED
12	TERM END EXAMINATION ON VIDEO WITH 50 QUESTIONS ON RESPONSE, DESCRIPTION, CONTENT
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION-INTRODUCTION OF SECOND TERM VIDEO
2	GUIDED SELECTION WITH ADVANCED COMPREHENSION TECHNIQUES
3	COLLECTION OF PERCEPTION OF VERBAL CLUES OF VARIOUS EMOTIONS
4	FOCUS ON VISUAL CLUES-EXPLOITATION OF CROSS-CULTURAL DIFFERENCES
5	GUIDED NOTE TAKING OF UNSCRIPTED MATERIAL OF SPECIFIC LANGUAGE FEATURES
6	REPETITION OF MORE ADVANCED COMMUNICATIVE LANGUAGE STRUCTURES
7	FOCUS ON NONVERBAL CLUES FOR LEXICAL COMPREHENSION
8	COMMUNICATIVE LANGUAGE FUNCTIONS PRACTICE WITH VISUAL CLUES.
9	GESTURE REPETITION AND PRODUCTION USING NON VERBAL CLUES
10	FOCUS ON INTONATIONAL FEATURES-VOICE
11	REVIEW FOR TERM EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGH THE TERM
12	TERM END EXAMINATION WITH VIDEO-50 QUESTIONS. CONTENT, DESCRIPTION ETC.
備考	

科目名	Conversation I —10 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 10 (92年度以前)	担当者名	F. Fearn
-----	---	------	----------

講義の目標	<p>OBJECTIVES :</p> <p>to improve student</p> <ul style="list-style-type: none"> - listening skills - conversational ability - command of vocabulary - confidence in using English 	
講義概要	<p>The course will be student centred with an emphasis on active participation. Students will take part in pair, group and whole class activities, discussions and presentations. Materials will be drawn from a wide variety of sources.</p>	
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. Materials—to be decided 2. Students are invited to suggest materials
	参考文献	
評価方法	<p>GRADING :</p> <p>Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, presentations and tests.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of the course and course requirements.
2	GETTING TO KNOW EACH OTHER-student/student interviews. Selection of discussion topics.
3	Group discussions-topics to be decided.
4	Orientation for presentations
5	Group activities-the traffic accident.
6	Student presentations
7	Student presentations
8	Group discussions-topics to be decided.
9	Viewing and discussion of UK documentary
10	Listening to music : a look at some lyrics and discussion.
11	Student presentations
12	Student presentations
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Group preparation- for whole class debate.
2	Whole class discussion-our future course of action
3	Group preparations for whole class debate.
4	Whole class discussion-the power station
5	Group discussions-topics to be decided.
6	Individual presentations
7	Individual presentations
8	Viewing and discussion of film.
9	Viewing and discussion of film (continued).
10	Group preparation for presentations.
11	Group presentations
12	Group presentations
備考	

科目名	Conversation I—II (93年度以降) 英会話 (Intermediate) II (92年度以前)	担当者名	T. J. Fotos
-----	--	------	-------------

講義の目標	The main objectives and aims of this upper level English elective course for non-English majors are to increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers using English. All four skills of reading, speaking, and hearing of English will be covered. The main emphasis will be on speaking and listening.		
講義概要	Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. There will also be America movies which that will be viewed.		
使用教材	テキスト	Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Jappness-English, English-Japanese dictionaries, but also use of a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good.	
	参考文献	There will be hand-outs or copies of various current or topical business related newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase students' vocabulary of business and economics terms. Various American movies, with short written movie explanations will watched. These movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. The main topics of the movies will be related to business, although additional cultural aspects of the U.S.A. will be studied, thereby improving inter-cultural understanding and listening comprehension, and speaking.	
評価方法	(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (30 %); first semester test (35 %); and final examination (35 %).		
受講者に対する要望など	Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, so not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but colser to 80 % attendance would better assure that the students get something useful out of the course.		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction and organization and interview evaluation
2	Topic and discussion
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	"
12	Examination
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Topic and discussion
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	Summation of topic covered and final review.
12	Final examination.
備考	

科目名	Conversation I—12, 13 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 12, 13 (92年度以前)	担当者名	K. Harris
-----	--	------	-----------

講義の目標	<p>This course aims to introduce various themes and topics concerning the US. and world community. There will be daily discussion and numerous role-playing (acting) activities.</p> <p>The objective will be to improve listening and discussion skills through cultural activities</p>	
講義概要	<p>Students should be prepared to discuss course topics every lesson. Homework will be given often, and group projects must be completed twice a year.</p>	
使用教材	テキスト	To be determined.
	参考文献	
評価方法	<p>Students will be graded on their participation, discussion, attendance and group skills. Participation through English discussion will be most important.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Students are expected to discuss in English every week.</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction. Go over course goals. Student introductions.
2	Begin theme 1. Go over vocabulary and introduce discussion topics.
3	Video. Content questions, followed by discussion.
4	Video. Content questions, followed by discussion.
5	Video. Content questions, followed by discussion.
6	Video. Content questions, followed by discussion.
7	Video. Content questions, followed by discussion.
8	Video. Content questions, followed by discussion.
9	Role-playing.
10	Role-playing.
11	Discussion.
12	Group skits.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduce Theme 2.
2	Video. Content questions, discussion.
3	Video. Content questions, discussion.
4	Video. Content questions, discussion.
5	Video. Content questions, discussion.
6	Video. Content questions, discussion.
7	Video. Content questions, discussion.
8	Role-playing
9	Role-playing
10	Discussion
11	Discussion
12	Group skits
備考	

科目名	Conversation I—14 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 14 (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To introduce the necessary vocabulary and teach interaction skills for discussion of issues of concern to young adults.	
講義概要	The text consists of 30 contemporary discussion topics. Introductory material (dialogs, letters, cartoons, charts, newspaper articles and photographs) and exercises to guide students from highly controlled discussion to open-ended debate appear on facing pages. Students will be expected to develop and express their own opinions.	
使用教材	テキスト	Talk it Over Longman Inc. New York. Alexander. Vincent. Chapman.
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course.
2	Going for an interview : how to portray yourself in a good light.
3	Sport and its role in our modern society.
4	Crime and Punishment : how to get the balance right.
5	Water : its importance, and what should be done about pollution.
6	Famous stories of Japan—what is their moral significance ?
7	Age : how old is too old ?
8	Time : how it should be divided between study and leisure.
9	Children today have too much—at least in the Advanced Nations.
10	Electronic equipment : the problems and the benefits.
11	Success : what is it and how can it be achieved ?
12	Test—A speech (10 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Should students take part-time jobs ?
2	Honesty : is it always desirable ?
3	Smoking : should it be prohibited in all work areas ?
4	Scientific experiments : good or bad ?
5	What should schools teach ?
6	The family : should all members have equal rights ?
7	Motor vehicles : a blessing or curse ?
8	The generation gap and how the problem should be solved.
9	The importance of work, both physically and mentally.
10	School vacations and their purpose.
11	Examinations : their role in education.
12	Final test—A speech (10 mins)
備考	

科目名	Conversation I—15, 16 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 15, 16 (92年度以前)	担当者名	R. M. Homan
-----	--	------	-------------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to introduce students to the language necessary to be successful in their academic and business lives. Activities are designed to introduce students to expressions which will be useful to them in the future, analyze how the expressions are used through dialogs, and use the expressions interactively through the use of role plays, interviews, discussion, etc.</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	<p>Students, will be expected to attend class regularly, as well as write a 100 word summary of the previous week's lesson. Grades will be based on participation in class, attendance, and summary scores.</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1. Welcome to Class FOCUS OF LESSON: Class policies, organization, etc.
2	2. Introductions FOCUS OF LESSON: Introducing self and others.
3	3. Leading a Discussion FOCUS OF LESSON: How to be a small group discussion leader.
4	4. Visiting a Teacher/boss FOCUS OF LESSON: Active listening skills, opening a conversation, closing a conversation.
5	5. Survival FOCUS OF LESSON: Negotiating; making suggestions; forming a group consensus.
6	6. But What if I Don't Agree FOCUS OF LESSON: Negotiating; making suggestions; forming a group consensus; ranking or setting priorities through negotiation.
7	7. Personality Test FOCUS OF LESSON: Wh-Question formation, asking for clarification, asking for/ stating opinions.
8	8. What Should I Do? FOCUS OF LESSON: Asking for and giving advice.
9	9. Barlow Mystery FOCUS OF LESSON: Sharing information, agreeing and disagreeing, speculating, asking for and offering opinions, making suggestions, inferring.
10	10. Analyzing a Short Story (The Open Window by H. H. Monroe) FOCUS OF LESSON: Discussion of literature using literary terms, vocabulary analysis, expressing likes/dislikes.
11	11. Reported Speech FOCUS OF LESSON: Interviewer/Interviewee discourse, Reporting the results of an interview.
12	12. Export/Import FOCUS OF LESSON: Negotiating, persuading, practicing 6-7 digit numbers.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13. Making a Budget FOCUS OF LESSON: Expressing needs and wants; justifying opinions; agreeing and disagreeing (review).
2	14. The Great Debate FOCUS OF LESSON: Persuading, stating disagreement, giving reasons, requesting clarification, analyzing an argument, expressing a logical conclusion.
3	15. Committee Work FOCUS OF LESSON: Requests and refusals, offers, and volunteering/ negotiating tasks fairly.
4	16. Your World View FOCUS OF LESSON: Review asking questions and giving reasons; Reinforce group discussion skills; Observe cultural perceptions.
5	17. Gossip Game FOCUS OF LESSON: Starting conversations, closing conversations, review of reported speech.
6	18. How to Make a Presentation FOCUS OF LESSON: Presentation skills, presentation to small group, notetaking skills, preparation skills, etc.
7	19. Presentation and Discussion FOCUS OF LESSON: Utilizing skills taught in the previous lesson.
8	20. The Auction Review: Negotiating; making suggestions; forming a group consensus; agreeing & disagreeing; expressing opinions; supporting and justifying opinions.
9	21. Who Gets the Heart? FOCUS OF LESSON: Agreement/disagreement; Soliciting opinions; Supporting opinions.
10	22. Poll and Present FOCUS OF LESSON: Making questionnaires, getting information through polling, note-taking, organizing and analyzing data, summarizing, presenting.
11	23. Logic Problems FOCUS OF LESSON: Formulating and recognizing "yes/ no" questions; Ordering questions logically (general to particular); Marking deductions ("Then it must be..."); Dropping hints.
12	24. Final Class Exam; Closing Remarks, Questions, etc.
備考	

科目名	Conversation I -17 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 17 (92年度以前)	担当者名	C. B. 池口
-----	---	------	----------

講義の目標	This course is designed to improve students' speaking fluency by providing training in a lot of critical listening tasks and exposure to model conversations.	
講義概要	Topics in the class will hopefully provide students the opportunity to learn to express their feelings and ideas in a non-threatening context. Less controlled pair-work conversations, and more open-ended small group discussions provide challenge to build self-confidence as well as to improve language skills. Finally students will give short speech presentation according to their level/s.	
使用教材	テキスト	Everybody's Talking by D. Fuller and Grimm
	参考文献	
評価方法	Student evaluation will be based on class performance and a term-end oral examination. Class performance means participation in class work, assignment and other tasks that may be assigned.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Orientation : Course description and objectives, class requirements, evaluation method, and other details.
2	Meeting New People : Language Tasks and activities Pair-work and presentation
3	Where's the Party ? : Language Tasks and activities Small group discussions
4	Adventures in eating : Language tasks and activities Pair-work and presentation
5	Job Hunting in Tokyo : Language tasks and activities Small group discussions
6	Studying English Abroad : Language tasks and activities Pair-work and presentation
7	Panel discussion : Foreign Students in Japan
8	A Home Away from Home : Language tasks and activities Small group discussions
9	Video Film 1 : looking for information
10	Video Film 2 : analyzing for relevant issues Panel discussion : an expansion activity on the movie (Graded)
11	Summary and course evaluation
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Re-orientation to the Course : objectives, requirements and other details
2	Speaking of Sports : language tasks and activities Pair-work and presentation
3	The Real You : language tasks and activities Small group discussions
4	Everybody's Got a Story : language tasks and activities Pair-work and presentation
5	Shopping for bargains : language tasks and activities Small group discussions
6	Don't let the future pass you by : language tasks and activities Panel discussions
7	An Introduction to Public Speaking : Fundamental guidelines Preparing for a speech presentation
8	Individual Graded Speech Presentations (1) Teacher and classmates' evaluation
9	Persuasive Speaking : Fundamental Considerations Preparing for a speech presentation
10	Individual Graded Speech Presentations (2) GRADED
11	Course Summary and Evaluation
12	
備考	

科目名	Conversation I —18 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 18 (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>The objective for this class is to provide students with an opportunity to further develop their language skills. Most students have a good understanding of grammar and a basic understanding of English, yet lack the skills needed to speak English with confidence and lack fluency in their speech. This class will help students develop speaking and general communicating skills.</p>	
講義概要	<p>Students who have a good understanding of English still often have difficulty in speaking and expressing their opinions. To help students gain in ability to speak with confidence, students in this class will be given opportunities to have group discussions, to work on projects, to solve tasks, and to give informal presentations to the class. This class is designed for students who have a desire to speak and develop interesting speaking habits.</p>	
使用教材	テキスト	Materials provided by instructor.
	参考文献	<p>Materials for this class will include handouts from the instructor, video clips, newspaper articles, and other media.</p> <p>There may be a text for this class, though it has not been decided yet.</p>
評価方法	<p>Evaluation for this class will be based on classroom participation, attendance, and improvement in speaking abilities. Tests for this class will be based on a kind of oral/spoken evaluation.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Learning to speak a second language is a formidable task, yet it does not have to be painful. Combining language practice with interesting communication projects should provide us with an enjoyable and rewarding academic year.</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of course and course requirements.
2	Student introductions.
3	Course lecture on speaking techniques and guidelines for group discussions.
4	Starting first projects.
5	Continuing first projects.
6	Group presentations.
7	Group presentations.
8	Introduction to task work, and first assignments for tasks.
9	Group work on tasks.
10	Group work on tasks.
11	Task-based presentation of assignments.
12	Final day of first semester with group evaluations.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of second semester course work and summer projects.
2	Discussion of second semester projects. Group work.
3	Individual presentations with group discussion.
4	Individual presentations with group discussion.
5	Start on class projects.
6	Continue with class projects.
7	Give class projects.
8	Open discussion on video material.
9	Explanation of final exam.
10	Preparation for final exam.
11	Final examinations.
12	
備考	

科目名	Conversation I -19 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 19 (92年度以前)	担当者名	D. R. Kogge
-----	---	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and confidence in speaking English.	
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered discussion format. A wide range of topics are examined, including global issues, current events, and contemporary trends.	
使用教材	テキスト	Printed materials
	参考文献	
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework assignments, and oral presentations. These requirements apply to every student enrolled in the course, with no exceptions.	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductions
2	Mutual misperceptions between Japanese and westerners
3	Current news topics
4	Religious fundamentalism
5	Extraterrestrial life
6	Current news topics
7	Lifestyle choices
8	Foreigners and the right to vote
9	Current news topics
10	Oral presentations
11	Oral presentations
12	Oral presentations
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	The use and abuse of leisure time
2	The perfect spouse
3	Current news topics
4	Royal families
5	Future life
6	Current news topics
7	Royal families
8	Litigation and justice in America
9	Current news topics
10	Oral presentations
11	Oral presentations
12	Oral presentations
備考	

科目名	Conversation I - 20, 21 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 20, 21 (92年度以前)	担当者名	R. M. Payne
-----	--	------	-------------

講義の目標	<p><i>Course Objectives :</i></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to give students practice in building conversational and communicative skills 2. to improve students' listening skills 3. to expose students to the culture of the language 		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Text : Everyday Situations for Communicating in English</i>, (National Textbook Co.) 2. Complementary/supplemental listening materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome. 	
	参考文献		
評価方法	<p><i>Grading System :</i> Grades in this class will be based on the following :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. attendance and participation ; 60 % 2. tests and quizzes ; 15 % 3. assignments/<i>homework</i> 		
受講者に対する要望など			

科目名	Conversation I — 22 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 22 (92年度以前)	担当者名	C. J. Poel
-----	--	------	------------

講義の目標	The goals of this course are to improve students' knowledge and use of socially appropriate language and to develop cooperative group skills.	
講義概要	This course will integrate the four skills—reading, writing, listening, and speaking. The focus will be on developing social-language abilities. Homework will be an important component of the course, and attendance will be strictly required.	
使用教材	テキスト	Handouts, newspapers, and student-generated materials.
	参考文献	All students will be required to have an English-English dictionary.
評価方法		
受講者に対する要望など	The final grade for this course will be determined by attendance (25%), homework (25%), and participation in class (50%).	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course and self-introductions.
2	Module A: Social Graces
3	New Friends, Old Faces
4	You Say Hello
5	I Say Goodbye
6	Review of Module A
7	Module B: Work-a-Day
8	Pounding the Pavement
9	Do I Get the Job?
10	On the Job
11	Review of Module B
12	Final Project: Role-plays and Speeches
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of First Semester & Module C: T. G. I. F. (Thank Goodness It's Friday)
2	How About a Cookout?
3	You're Invited!
4	What Can I Get You?
5	Review of Module C
6	Module D: A Special Day
7	The Holiday Spirit
8	Wow! What a Great Gift
9	I Had a Wonderful Time
10	Review of Module D
11	Final Project: Role-plays and Speeches
12	Dear Me...
備考	

科目名	Conversation I - 23 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 23 (92年度以前)	担当者名	M. A. Schible
-----	--	------	---------------

講義の目標	<p>The goal of the course is to help students communicate effectively in English. The focus will be on oral comprehension and the speaking skills necessary for study at academic institutions where English is used, in the professions and business.</p>		
講義概要	<p>Class time will be spent in exercises to improve listening comprehension utilizing audio and video tape from a wide range of materials including news broadcasts, segments from drama, comedy and documentaries. Students are expected to actively take part in discussions based on the above programs and articles from British and American newspapers and magazines.</p>		
使用教材	テキスト	<p>Prints and tapes supplied by instructor. Students will be encouraged to suggest material for study.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, presentations and the mid-term and final tests.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Orientation covering the goals, methods and standards for course evaluation. Interviews and selection of students; introduction of first topic for discussion.
2	Discussion: American life style. Text: to be announced.
3	Viewing and discussion of news broadcast. "Swing Fever," ABC. Quizz.
4	Discussion: Environment. Text: to be announced.
5	Viewing and discussion based on U. S. documentary.
6	Viewing and discussion on documentary (continued).
7	Orientation for student presentations.
8	Student presentations.
9	Studnet presentations.
10	Student presentations.
11	Student presentations.
12	Discussion and evaluation of presentations.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope," KCOP San Francisco, December 1995.
2	Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope" (cont.)
3	Discussion: Entertainment. Text: to be announced.
4	Discussion: The Economy. "Taxpayers Are Angry. Taxpayers Are Expensive, Too," <i>New York Times</i> November 20, 1994. Quizz.
5	Discussion: Science and Technology. Text: to be announced.
6	Discussion: Education. "Big Chill on Campus," <i>Time Magazine</i> . Quizz.
7	Orientation for student presentations.
8	Student presentations.
9	Student presentations.
10	Student presentations.
11	Student presentations.
12	Discussion and evaluation of presentations.
備考	

科 目 名	Conversation I —24 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 24 (92年度以前)	担当者名	L. Villeneuve
-------	---	------	---------------

講 義 の 目 標	<p>Through the study of HUMANISM, this course will give the students the chance to practice their spoken English in a context of learning about a system of thought based on the nature, dignity, interests, and ideals of a person.</p>		
講 義 概 要	<p>Each lecture will deal with a different topic. At the beginning of the class, key words will be explained. Then, a short lecture will be given followed by the students' participation in an exchange of ideas and opinions.</p> <p>There will be opportunities for the students to better understand themselves and realize that dreams are not always at the end of the rainbow.</p> <p>096 is for students who believe they are able to express their ideas in English-</p>		
使 用 教 材	テキスト	No textbook ; only a note book will be required.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks because there will be no final examination. Senior students, who think they might not attend the majority of the classes, should look for another course or be prepared to read a book approved by the teacher and write a final report at the end of the second semester.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>The limit number of participants will be 40.</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	What Is Humanism ?
2	Theory of Animal Nature
3	Theory of Human Nature I
4	Analysis of The Mind
5	Theory of Human Nature II
6	Definition of Love
7	Public Enemy #1
8	Human Relationship I Mental Attitude
9	Human Relationship II Conditions
10	Relationship Between Students & Teachers
11	Relationship Between Different Orientations
12	International Relationship (Non-Governmental)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Painting A Self-Portrait
2	Happiness
3	Why Do We Ought To Succeed ?
4	Success Is Your Choice
5	Success Goes On And On
6	Dream And Succeed
7	Conditions for Success
8	Pearls of Wisdom
9	The One Not Number One
10	Not Bitterness But Nectar
11	Who And What Are You ?
12	Personal Impressions
備考	

科目名	Conversation I —25 (93年度以降) 英会話 (Intermediate) 25 (92年度以前)	担当者名	J. J. Waldman
-----	---	------	---------------

講義の目標	The goal of this class will be to help students raise their level of fluency, improve communicative skills and deepen their understanding of cultural differences.		
講義概要	Class time will be divided between whole class activities from the text, group discussions based on student generated topics and handouts from the teacher.		
使用教材	テキスト	The text used in this course will be <i>The Electric Elephant</i> , by Carolyn Graham.	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, daily homework and monthly tests.		
受講者に対する要望など	The teacher will expect all students to adhere to the grade requirements, listed above.		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction with students and teacher. An explanation of the grading system and student requirements.
2	Unit One will center around the importance of learning a second language.
3	Unit Two will consist of discussions based on differences or similarities between Japanese and American family values.
4	Unit Three is going to evaluate shopping patterns among young Japanese adults.
5	Unit Four will discuss dating and marriage customs in Japan and United States.
6	A review of the previous four lessons for test preparation.
7	Test on lessons one through four.
8	This unit will focus on travel experiences to broaden cultural understanding.
9	In this lessons discussions will center around endangered animals.
10	The differences and similarities between American and Japanese universities will be the main topic of discussion.
11	A review of previous lessons for test preparation.
12	Test on previous lessons.
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	This unit will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
2	Topics in this lesson will center on longevity patterns in the United States and Japan.
3	In this unit discussion will be about diets from different countries and holiday festivals.
4	Living conditions in the United States and Japan will be the main topic of conversation in this lesson.
5	A review of the previous lessons for test preparation.
6	Test on previous four lessons.
7	This unit will look at important historical events and famous figures.
8	Communication practice using music to facilitate speaking will be the objective of this lesson.
9	The changing roles of men and women in the U. S. will be the main topic of this unit.
10	Review of previous lessons for test preparation.
11	Test on previous three lessons.
12	Course and student evaluation.
備考	

科目名	Conversation II - 1 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 26 (92年度以前)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	This class will try to get away from the use of traditional language textbooks by using short letters written by native speakers to look at real language, idioms and cultural situations.		
講義概要	Through the use of letters written to a device column in the United States students will be introduced to language written for communication that also can be used for discussion of interesting cultural differences and adapted for situational role-plays. Vocabulary and idiom building will also be an important feature. Participation to the best of their abilities the key.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	Materials will be provided by the teacher.	
評価方法	Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, periodic tests and oral testing. Good attendance is paramount. Most IMPORTANT is a willingness to try and contribute and learn.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

Class One

Course Introduction in the first class will outline the general aims and methodology. This will also include outline of class grading policies & setting up of on-going activities.

Each lass will follow a similar pattern :

- scene setting and short general discussion of the situation
- reading and analysis of the short letter highlighting of key vocabulary and idioms
- concept checks through comprehension questions discussion of key communication points of the letter discussion of key culture-specific points of the letter
- language practice using one of more language forms found in the letter
- discussion of the 'reply' to the letter discussion of suggestions and advice from the students

The actual emphasis on each of the above steps may change lesson to lesson and also depend greatly on student interest.

科目名	Conversation II - 2 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 27 (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	--	------	----------------

講義の目標	The aim of the course is to develop general fluency through discussion and presentation of a variety of topics. We will also focus particularly on the expansion of vocabulary and range of expression.		
講義概要	Each topic will cover two classes. In the first class we will use texts and/or video to outline the main points. Students will do further research for homework and in the second class the topic will be discussed at greater length. Topics listed may change depending on the interests of the class.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	Print and video.	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course ; student selection.
2	Topic 1 : Changing Japan.
3	Topic 1 contd.
4	Topic 2 : The environmental crisis.
5	Topic 2 contd.
6	Topic 3 : The communications revoution—computers and the Internet.
7	Topic 3 contd.
8	Topic 4 : Story telling.
9	Topic 4 contd.
10	Topic 5 : the problem of AIDS.
11	Topic 5 contd.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term's work.
2	Topic 6 : Work—are any jobs permanent?
3	Topic 6 contd.
4	Topic 7 : Crime and punishment.
5	Topic 7 contd.
6	Topic 8 : Language—comparing communication in Japanese and English.
7	Topic 8 contd.
8	Topic 9 : The drug problem.
9	Topic 9 contd.
10	Topic 10 : The origin of Christmas and other festivals.
11	Topic 10 contd.
12	Final examination.
備考	

科目名	Conversation II - 3 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 28 (92年度以前)	担当者名	D. Bradley
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>1. To use the text as a basis for discussion.</p> <p>2. To think about the idea of culture.</p> <p>3. In the simulation games, to create feelings which are similar to those you might encounter when you travel to a different culture.</p>		
講義概要	<p>This is a conversation class. Students will be expected to read a chapter of the textbook before each class so that they can join in the discussion. There will be handouts to supplement the textbook, all with the aim of encouraging speaking.</p>		
使用教材	テキスト	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka; <i>Polite Fictions</i> , Kinseido	
	参考文献		
評価方法	<p>Assessment will be based on attendance, class participation, homework assignments and tests.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	General Discussion Topics - Giving Opinions
3	"
4	" - Newspaper Articles
5	"
6	Simulation Game on Cultural Clashes
7	Chapter 1 - You and I are Equals: greetings and how they reflect social assumptions.
8	Chapter 2 - You and I are Close Friends: names and being friendly.
9	Chapter 3 - You and I are Relaxed: a look at different styles of entertaining.
10	Chapter 4 - You and I are Independant: social structure and how it is reflected in the way people ask favors.
11	Chapter 5 - People as Individuals: how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say.
12	Test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Film on cross-cultural exchange
2	"
3	Chapter 6 - Being Original: emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy.
4	Chapter 7 - Questions, Questions!: "aisatsu" questions don't need to be answered.
5	Chapter 8 - Answer to the Point!: straight line versus circular logic.
6	Chapter 9 - Conversational Ballgames: conversation as a sport, tennis versus bowling.
7	Chapter 10 - Don't Apologize!: when not to apologize.
8	Chapter 11 - Nobody Told Me!: when to apologize.
9	Culture Simulation - Game
10	" - Discussion
11	Review
12	Test
備考	

科目名	Conversation II-4 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 29 (92年度以前)	担当者名	J. J. Duggan
-----	--	------	--------------

講義の目標	The purpose of this course is to give students the chance to use English discussion skills at a higher level. The secondary goal is to introduce the content-based material of American values.		
講義概要	This class will present and explain the values, attitudes, and cultural patterns underlying American behavior patterns and institutions. This will be used as the basis of class discussion.		
使用教材	テキスト	Kearny, M. A., et. al.; The American Way, Prentice-Hall Regents	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, in-class participation, bi-weekly assignments, and a midyear and final exam.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation (text pp.vii-ix).
2	Chapter 1— Introduction to American Culture (pp.1-17). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on Chapter 1.
4	Chapter 2— Basic American Values and Beliefs (pp.18-37). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on Chapter 2.
6	Chapter 3— The Protestant Heritage (pp.38-57). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on Chapter 3.
8	Chapter 4—The Frontier Heritage (pp.58-77). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on Chapter 4.
10	Chapter 5—The Heritage of Abundance (pp.78-99). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on Chapter 5.
12	Midyear Examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term material.
2	Chapter 6— The World of American Business (pp.100-119). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on Chapter 6.
4	Chapter 7— Government and Politics in the United States (pp.120-139). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on Chapter 7.
6	Chapter 8— Ethnic and Racial Assimilation in the United States (pp.140-159). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on Chapter 8.
8	Chapter 9— Education in the United States (pp.160-181). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on Chapter 9.
10	Chapter 10— Organized Sports and Recreation (pp.182-199). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on Chapter 10.
12	Final Examination.
備考	

科目名	Conversation II - 6 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 31 (92年度以前)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	TO FOCUS ON INFERENCE AND PREDICTION THROUGH THE USE OF VISUAL MATERIAL		
講義概要			
使用教材	テキスト	<i>FIRST TERM UNCLE BUCK SECOND TERM PLANES, TRAINS AND AUTOMOBILES</i>	
	参考文献	SCRIPT OF BOTH VIDEOS	
評価方法	CLASS ATTENDANCE. PARTICIPATION AND RESULT OF TWO EXAMS-50 QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTIONS AND CONTENT AS DETERMINED THROUGH INFERENCE TYPE QUESTIONS		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	COURSE INTRODUCTION-EXPECTATIONS GRADING CRITERIA AND STANDARDS
2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATIONS
3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTERS IN DIFFERENT COMMUNICATIVE SITUATIONS
7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL-DIRECT AND INDIRECT SPEECH
8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
10	INFERENTIAL LEARNING AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIAL WITH 50 QUESTIONS CONTENT, INFERENCE
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	VIDEO REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION MATERIAL
2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATION
3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTERS IN DIFFERENT SITUATIONS
7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL-DIRECT AND INDIRECT SPEECH
8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
10	INFERENTIAL LEARNING AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIALS WITH 50 QUESTIONS-CONTENT, INFERENCE
備考	

科目名	Conversation II—7 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 32 (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	Each week students will read an article on a designated topic. In class they will present their article and give their own opinions. This will lead to a general discussion on the designated topic and all students will be expected to actively participate.		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance. This course is for students of the <i>advanced</i> level.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2	Article 9 : should Japan create a modern army?
3	The International Community : what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6	Aids : what can be done about the problem?
7	Mass Media : the good points and the bad points.
8	The Northern Territories : do we need them?
9	Japan : what can we be proud of and ashamed of, in our culture?
10	The Death Penalty : should it be abolished?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	The Courts : do we need a Jury system?
2	America : What should Japan's relationship be?
3	Japanese education : its strengths and weaknesses.
4	God : is religion important in the modern world?
5	The Monarchy : do we need them?
6	Smoking : should it be banned in all public places?
7	English education in Japan : its strengths and weaknesses.
8	Abortion : who has the right?
9	A multicultural society : what is it? do we want it?
10	University : what is its role in modern society?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

科目名	Conversation II-8 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 33 (92年度以前)	担当者名	R. M. Homan
-----	--	------	-------------

講義の目標概要	<p>The syllabus for this course is quite a bit different from the Conversation I syllabus. Conversation II assumes that the student has already taken Conversation I or has displayed, through an interview with the instructor, the ability to carry on discussion in the target language.</p> <p>This course will provide readings from a variety of literary sources on current issues in education, cultural affairs, bioethics, literature, etc. The readings will provide background knowledge and vocabulary for the discussion following. Before being presented with a reading, one class hour will be devoted to pre-reading discussion in order to invoke students' schemata of the subject. Each topic will comprise 3-4 class hours; the final class being devoted to a quiz on the reading which encompasses knowledge of the reading as well as knowledge of the vocabulary. Students will be expected to hand in, weekly, a 100 word (approximately) summary of the discussion of the previous week's class.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>Students will be expected to participate in small group discussion as well as full class discussion. They will be required, at times, to give a presentation in small groups on a subject related to the main topic. Films, lectures, and other materials will be employed in order to give the students a well rounded experience of a Western style classroom.</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductions, class organization
2	Topic: Western Education vs Japanese Education Pre-reading, discussion
3	Topic: Western Education vs Japanese Education Discussion of reading
4	Topic: Western Education vs Japanese Education Discussion of reading
5	Topic: Western Education vs Japanese Education Quiz on vocabulary and content of reading; pre-reading discussion of next topic
6	Topic: Literature-Short stories "The Open Window"
7	Topic: Literature-Short stories "Senior Payroll"
8	Topic: Public Speaking Lecture and exercises
9	Topic: Public Speaking Presentation and Discussion
10	Topic: Public Speaking Lecture and exercises
11	Topic: Public Speaking Small group presentation preparation
12	Topic: Public Speaking Small group presentations
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Topic: Cross Cultural Communication Pre-reading Discussion
2	Topic: Cross Cultural Communication Reading Discussion
3	Topic: Cross Cultural Communication Guest Lecture
4	Topic: Cross Cultural Communication Discussion of previous week's lecture
5	Topic: Cross Cultural Communication Quiz on Readings
6	Topic: Environment Pre-reading Discussion
7	Topic: Environment Reading Discussion
8	Topic: Environment Presentation and Discussion
9	Topic: Environment Film and Discussion
10	Topic: Environment Quiz on Readings
11	Topic: Bioethics Film and Discussion
12	Topic: Bioethics Lecture and Discussion
備考	

科目名	Conversation II-9 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 34 (92年度以前)	担当者名	C. B. 池口
-----	--	------	----------

講義の目標	The goals of this course are two-fold: to develop students' critical listening and thinking, and polish their ability to express personal ideas in a coherent and logical manner.		
講義概要	Issues of international appeal, particularly to EFL students, will be presented to encourage target language use and generate active discussions. Small group discussions in the first term will prepare class members for more organized form of public speaking in the second term.		
使用教材	テキスト	Consider the issues by Carol Numrich Speech Communication for International Students	
	参考文献		
評価方法	Student evaluation will be based on class performance and a mid-year and a final oral test. Class performance includes participation in class discussions and individual speech presentations. Attendance is obligatory.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Orientation : Course description and objectives, class requirements, evaluation method, and other details
2	Text : "Give My Place to Smoke" Language Tasks
3	Expansion Activities geared towards interactive communication.
4	Text : "Drive-in Shopping" Language Tasks
5	Expansion Activities for creative communication.
6	Text : "The Mail-Order Bride" Language Tasks
7	Expansion Activities geared towards interactive communication.
8	Text : "The Wrong End of a Pistol" Language Tasks
9	Expansion Activities for creative communication.
10	Summary and course evaluation
11	First term test
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Re-orientation/Brainstorming on Public Speaking
2	Informative Speech : Principles and guidelines Preparing for Informative Speeches
3	Informative Speech Presentation (Graded)
4	Handout on a relevant issue/small group discussions
5	Panel discussion on the previous discussion topic
6	Persuasive Speech : Principles and guidelines Preparing for Persuasive Speech
7	Persuasive Speech Presentation (Graded)
8	Debating : Guidelines/Format and Procedures Watching sample debate/s on video
9	Practice Debate 1 : Inter-year level
10	Practice Debate 2 : Inter-year level
11	Final debate
12	
備考	

科目名	Conversation II —10 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 35 (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>Being able to tell a simple story or to retell a past event is an important aspect of communicating. This course aims to provide students with an opportunity to learn how to tell simple stories, and to improve on their narrative skills, their narrative competence. Throughout history story telling and oral traditions in literature have been an important part of almost every society. This course will allow students to learn how to tell stories, and discuss those stories in a friendly atmosphere.</p>		
講義概要	<p>Story telling is not only fun and interesting, but also an important aspect of life. Through story telling students will be able to better understand their classmates, be able to understand foreign culture and be able to talk about their culture. So this course will be based on the many aspects of story telling--listening, reading, and speaking. Conversation skills will be improved through the weekly discussions we have based on our stories.</p>		
使用教材	テキスト	Materials provided by instructor.	
	参考文献	Materials will be provided by the instructor.	
評価方法	<p>Evaluation for this class will be based on classroom participation, attendance, and final projects.</p>		
受講者に対する要望など	<p>It is hoped that students entering this class will have a sincere desire to share with their classmates interesting stories, and to have meaningful discussions based on those stories. It is also hoped that students will gain an appreciation for oral traditions in literature.</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of course and course requirements.
2	Student practice stories.
3	Ineroduction into story telling.
4	A look at oral traditions in literature.
5	Student stories and discussions.
6	Listening to authentic stories and discussions.
7	Student stories and discussions.
8	Listening to authentic stories and discussions.
9	Student stories and discussions.
10	Preparation for midterm projects.
11	Midterm pjects.
12	Midterm pjects.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of the second semester.
2	Student stories based on summer experiences.
3	A student try at rakugo in English.
4	Minimicing stories from <i>Lake Wobegon</i>
5	Group stories.
6	A Story telling game based on Japanese story telling.
7	True and false stories : why they are told.
8	Listen to authentic stories and discussions.
9	Review session.
10	Start of second semester story projects.
11	Final projects.
12	Final projects.
備考	

科目名	Conversation II -11 (93年度以降) 英会話 (Advanced) 36 (92年度以前)	担当者名	D. R. Kogge
-----	--	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and confidence in speaking English.		
講義概要	The course is organized around a small group, student-centered format. Discussions will focus on topics of international significance. As such, students are expected to keep themselves well-informed of current global events.		
使用教材	テキスト	Printed materials	
	参考文献		
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework assignments, and oral presentations. These requirements apply to every student enrolled in the course, with no exceptions.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	The world's policeman
3	Current news topics
4	China, Taiwan, and Hong Kong
5	Germany: Ossis and Wessis
6	Current news topics
7	Palestine and Israel
8	The Koreas and Japan
9	Current news topics
10	Oral presentations
11	Oral presentations
12	Oral presentations
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	What is freedom?
2	Japan and the U. S.
3	Current news topics
4	Linguistic imperialism
5	Airline travel and security
6	Current news topics
7	Nationalism in Canada and the former Soviet Union
8	Foreign borrowings in the Japanese lexis and their origins
9	Current news topics
10	Oral presentations
11	Oral presentations
12	Oral presentations
備考	

科目名	Discussion 1 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 38 (92年度以前)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	<p>The course will be essentially content-based with a focus on the theme of cultural comparison. The main aim will be to increase awareness of a variety of cultural factors that determine people's view of themselves and others, and hence have a crucial bearing on communication. On a linguistic level the aim of the course is to develop fluency in discussing such topics and provide the opportunity for a considerable expansion in vocabulary and range of expression.</p>		
講義概要	<p>We will explore a number of thematic areas linked to the subject of culture. The word 'culture' here does not refer only to high culture such as literature and painting, etc. but to the broader meaning of culture, i. e. the traditions, beliefs and practices by which people define themselves. Some of the themes covered in the course will be language, the family, social relationships, different attitudes toward space and time, and popular culture. There will be no set text and material will be drawn from a variety of publications. Video clips may also be used where appropriate. Students will undertake research projects in groups and present their results orally to the class.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>We will use mainly material photocopied from books and articles and occasionally video. A lot of the material will be based on the work of the American anthropologist Edward T. Hall.</p>	
評価方法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course outline ; student selection.
2	Discussion : What do we mean by culture ?
3	Students present what they think are some distinguishing features of Japanese culture and explain how these might differ from those of other countries with which they are familiar.
4	Western views of Japan.
5	Japanese views of the West.
6	Group presentations.
7	How different cultures deal with space.
8	Continuation of week 7 theme.
9	How different cultures deal with time.
10	Continuation of week 9 theme.
11	Review of areas covered so far.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Language and culture : how social structures are reflected in language.
2	Continuation of week 1 theme.
3	Continuation of week 1 theme.
4	Group presentations.
5	Nature or nurture : are we influenced more by environment or heredity?.
6	Continuation of week 5 theme.
7	Group presentations.
8	The melting pot : what does multiculturalism mean for a society?.
9	Continuation of week 8 theme.
10	The origins and meanings of Christmas and other festivals.
11	Continuation of week 10 theme.
12	Final examination.
備考	

科目名	Discussion 2 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 39 (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	---	------	---------

講義の目標	To help advanced students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	<p>Students will be expected to do in-depth reading on the designated topic, and to come to class with some knowledge of the pros and cons of each issue.</p> <p>The class will be a general discussion, and students will be expected to enthusiastically join in and to express and back-up their own opinions.</p>		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	<p>Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.</p> <p>This course is for students at the <i>highly advanced</i> level of English proficiency.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2	Article 9 : should Japan create a modern army?
3	The International Community : what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6	Aids : what can be done about the problem?
7	Mass Media : the good points and the bad points.
8	The Northern Territories : do we need them?
9	Japan : what can we be proud of and ashamed of in our culture?
10	The Death Penalty : should it be abolished?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	The Courts : do we need a Jury system?
2	America : what should Japan's relationship be?
3	Japanese education : its strengths and weaknesses.
4	God : is religion important in the modern world?
5	The Monarchy : do we need them?
6	Smoking : should it be banned in all public places?
7	English education in Japan : its strengths and weaknesses.
8	Abortion : who has the right?
9	A multicultural society : what is it? do we want it?
10	University : what is it for?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

科目名	Discussion 3 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 40 (92年度以前)	担当者名	N. H. Jost
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>This course is for students whose English is at a highly advanced level. This class will be a discussion class which requires students to be prepared and to actively participate in each classroom discussion. Topics for discussion in this course will include issues related to culture, topics associated with current events, and topics that require thought and consideration. The sole objective for this class is to use English at a highly advanced level. Students interested in class should keep in mind that each class will require full participation from each member of the class.</p>		
講義概要	<p>Class time will be spent primarily discussing different topics. Students will be engaged in group discussions and will be required to report on their progress. If possible students will be instructed on how to use the internet for communication with the instructor outside of class, and to find information related to the course topics. This will be a demanding class, and will require outside preparation.</p>		
使用教材	テキスト	Materials provided by instructor.	
	参考文献	Materials for this class will include handouts from the instructor, video clips, newspaper articles, and other media.	
評価方法	<p>Evaluation will be based solely on classroom participation. Students failing to give 100 percent will not be able to pass this course.</p>		
受講者に対する要望など	<p>It is hoped that this class will be stimulating and challenging with an emphasis on using English rather than on learning it. Students considering this class should consider what their contribution will be to keep other students mentally active.</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of course and course requirements.
2	Student introductions.
3	Course lecture on speaking techniques and guidelines for group discussions.
4	Class discussions.
5	Class discussions.
6	Class discussions.
7	Class discussions.
8	Class discussions.
9	Class discussions.
10	Class discussions.
11	Class discussions.
12	Final day of semester. Course summations.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Description of second semester course work and summer projects.
2	Discussion of second semester projects. Group work.
3	Class discussions.
4	Class discussions.
5	Class discussions.
6	Class discussions.
7	Class discussions.
8	Class discussions.
9	Class discussions.
10	Class discussions.
11	Class discussions.
12	Final lesson for the year. Self evaluations.
備考	

科目名	スピーチ1 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced: スピーチ) 41 (92年度以前)	担当者名	大川道代
-----	---	------	------

講義の目標	<p>1) To introduce fundamental principles of public speaking</p> <p>2) To develop skills in self expression and presentational speaking</p> <p>3) To discover your own potentials and capacities as a performer</p> <p>4) To improve your communication skills through the presentations</p>	
講義概要	<p>本講座では様々なスピーチ活動 (Self-introduction with visual aids, demonstration and informative speeches, impromptu and extemporaneous speeches, oral interpretation, writing as performance) の理論と実践を通して、総合的なプレゼンテーションスキルの向上をはかる。①高等学校でオーラル・コミュニケーションCを指導したい、②英語圏の大学・大学院に長期留学を希望する、③国際社会で英語を駆使したい、④表現力の増強を旨とする、学生の受講が望まれる。英検1級程度の英語力を必要とするが、そのレベルを旨として人の数倍努力する Guts のある学生も歓迎する。初講時に授業内容の説明およびスピーキングテストを実施するので、履修希望者は必ず出席すること。</p>	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	<p>・ Payne, James, and Diana Prentice; <i>Getting Started in Public Speaking</i>, 2nd Ed., IL: Natinal Textbook Company, 1994.</p>
評価方法	<p>1) Speech Performance 40%</p> <p>2) Written Works* 40%</p> <p>3) Class Participation** 20%</p> <p>* Written works may include any of the following: outline, homework assignment, papers, speech critiques, original manuscripts.</p> <p>All papers must follow the <u>MLA Handbook for Writers of Research Papers: Second Edition 1984</u> for format of references.</p> <p>** Participation in the interpretation festival is required.</p>	
受講者に対する要望など	<p>完全出席を旨として、2・3年次に履修することが望ましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course. Syllabus. A selective speaking test. Explanation of homework: Self introduction with visual aids.
2	Self introduction with visual aids.
3	Self introduction with visual aids.
4	Demonstration speech.
5	Demonstration speech.
6	Videotaping self introduction with visual aids and demonstration speech in the studio.
7	Explanation of persuasive speech. Impromptu speech.
8	Impromptu speech.
9	Videotaping impromptu speech.
10	Informative speech.
11	Informative speech.
12	Videotaping Informative speech. Term paper due.
備考	前期試験は行なわず、レポートを課す。内容は授業時に指示する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to performance studies. Literary selection for solo and group performances.
2	Composing and presenting the introduction.
3	In-class rehearsal.
4	In-class rehearsal.
5	Solo and group performances.
6	Introduction to writing as performance.
7	Topic selections and composing manuscripts orally.
8	In-class rehearsal.
9	In-class rehearsal.
10	Preparation for interpretation festival. Dress rehearsal.
11	Discussion on interpretation festival.
12	Summary of the course. Term paper due.
備考	後期試験は行なわず、レポートを課す。内容は授業時に指示する。

科目名	スピーチ2 (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced: スピーチ) 42 (92年度以前)	担当者名	J. J. Duggan
-----	---	------	--------------

講義の目標	This is a course that introduces the student step-by-step to speech communication in an informal yet practical way, while at the same time helping the student to develop self-confidence.		
講義概要	In this course students will not only learn the mechanics of speech communication, but also be given ample chances to put these mechanics into use. The styles of speech communication will include impromptu, informative and persuasive.		
使用教材	テキスト	P. Dale & J. C. Wolf; Speech Communication for International Students	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on in-class participation (especially speech presentations), a paper midyear exam, and a final exam oral presentation.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation (text pp.v-viii).
2	Speaking to develop self-confidence (pp.1-5). Presentation of Confidence Building Speech #1 (Speech to Introduce Yourself).
3	Brainstorming, Suggestions for delivering your speeches (pp.5-4).
4	Preparing the personal experience speech (pp.11-14). Presentation of Confidence Buidings Speech #2 (Speech Describing a Per. Exper.).
5	Presentation of Confidence Building Speech #3 (Speech About Something Meaningful, pp.15-16).
6	Presentation of Confidence Building Speech #4 (Speech to Present a Personal Opinion, pp.17-18).
7	Impromptu speaking (Talking On Your Feet, pp.23-36).
8	Impromptu Speech Presentation #1.
9	Impromptu Speech Presentation #2.
10	Impromptu Speech Presentation #3.
11	How to be a good listener (Listening, pp.39-53).
12	Midyear Examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term material.
2	Organizing your speech (Putting your Speech Together, pp.55-63).
3	Putting your Speech Together, Exercises pp.63-68.
4	Informative speaking (Speaking to Inform, pp71-82).
5	Organizing your Informative speech, pp.83-91).
6	Informative Speech Presentation #1 (pp.91-95).
7	Informative Speech Presentation #2.
8	Persuasive speaking (Speaking to Persuade, pp.117-132).
9	Organizing your Persuasive Speech (pp.113-144).
10	Persuasive Speech Presentation #1 (pp.145-149).
11	Persuasive Speech Presentation #2.
12	Final Examination.
備考	

科目名	ディベート (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced: ディベート) 43 (92年度以前)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help advanced level students develop the skills they need to participate in debate and in a modern democratic society.		
講義概要	<p>1. Students will study the definitions of basic debate terms and concepts and come to an understanding of how debate works</p> <p>2. Videos of actual debates in American and British universities will be studied and discussed</p> <p>3. Students will research for and take part in actual debate in class on topics of national and international significance.</p>		
使用教材	テキスト	Getting Started in Debate (1993) Lynn Goodnight NTC	
	参考文献		
評価方法	<p>The course will be assessed on attendance, participation, and the writing of a number of papers.</p> <p>The course is at the highly advanced level and is for advanced students eager to improve critical thinking and constructive argumentive skills.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	What debate can do for you : critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet
2	What exactly is debate : the basics, the players, the propositions
3	Actual debate : Part 1
4	Actual debate : Part 2
5	Video debate evaluation
6	Speaker strategies : affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal
7	Propositions : what is a proposition? types of propositions.
8	Actual debate : Part 1
9	Actual debate : Part 2
10	Developing research skills
11	Video debate evaluation
12	Mid-term test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Research sources, writing briefs, taking notes in debate
2	Actual debate : Part 1
3	Actual debate : Part 2
4	Video debate
5	Video debate
6	The Affirmative position : burden of proof, presumption, the prima facie case
7	The Negative position : The negative strategy, refutation of stock issues, denying the problem
8	Actual debate : Part 1
9	Actual debate : Part 2
10	Actual debate : Part 3
11	Course review
12	Final test
備考	

科目名	通訳 I (93年度以降) 英会話 (Highly Advanced: 通訳) 44 (92年度以前)	担当者名	鍋倉健悦
-----	--	------	------

講義の目標	通訳の基礎的なことができるようになること。		
講義概要	シャドウイング、サイト・トランスレーション、ノート・テイキングの仕方を学んでいく。		
使用教材	テキスト	鍋倉健悦『コミュニケーションの英語』(丸善ライブラリー)。 鍋倉健悦『英語の聴き方・話し方』(雄山閣・竹内書店新社)。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋倉健悦『英語メディアを使いこなす』(講談社現代新書)。 ・鍋倉健悦『タイム・ニューズウィーク・キーワード5500』(ジャパン・タイムズ社)。 	
評価方法	平常の授業で決定する。		
受講者に対する要望など	予習と復習のできる学生でない限り、当授業にはついていけない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	通訳と会話の違いについて説明。
2	プリントを使つてのサイトラの練習。
3	同上。
4	同上。
5	テープとプリントを使つてのシャドウイングの練習。
6	同上。
7	同上。
8	テープとプリントを使つてのサイトラの練習。
9	同上。
10	同上。
11	テープとプリントを使つてのノート・テイキングの練習。
12	同上。
備考	使用するテープは実際の講演や国際会議での発言を録音したもの。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	プリントを使つての音読サイトラによるリテンションの練習。
2	同上。
3	同上。
4	プリントを使つての音読サイトラによるノート・テイキングの練習。
5	同上。
6	同上。
7	テープを使つての逐次通訳と同時通訳の練習。
8	同上。
9	同上。
10	同上。
11	同上。
12	同上。
備考	

科目名	英文法 1	担当者名	児玉仁士
-----	-------	------	------

講義の目標	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。		
講義概要	テキストの内容は、Section 1では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、またSection 2では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュ・アップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。		
使用教材	テキスト	A. Waldhorn, A. Zeiger; <i>A Practical English Grammar for College Students.</i> 金星堂	
	参考文献		
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英文法の子備知識としての概要を説明する。
2	文の構成（第1章）：品詞およびその分類について（第2章）
3	名詞の形態（数・性・格）について（第3章）
4	代名詞およびその用法について（第4章）
5	動詞および文中におけるその機能について（第5章）
6	時制・法・態について（第5章）
7	形容詞とその機能について（第6章）
8	副詞およびその位置について（第7章）
9	接続詞（等位接続詞・従位接続詞）について（第8章）
10	前置詞およびその機能について（第9章）
11	準動詞（動名詞・分詞・不定詞）について（第10章）
12	句（名詞句・形容詞句・副詞句）と（名詞節・形容詞節・副詞節）について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	一致（agreement）（Section-第1章）：主語と動詞（数）、代名詞と先行詞（数・人称・性）について
2	代名詞の格（主格・目的格・所有格；同格）について（第2章）
3	代名詞の照応について（第3章）
4	時制の一致について（第4章）
5	助動詞の用法（特に法助動詞）について（第4章）
6	形容詞・副詞の機能上の相違について（第5章）
7	副詞の配列について（第5章）
8	修飾語・句の問題点（1：懸垂分詞・懸垂不定詞）について（第6章）
9	修飾語・句の問題点（2：懸垂動名詞）について（第6章）
10	語・句・節の配列の一貫性について（第7章）
11	並列に関する問題点について（第8章）
12	文における省略（特に文体上）の問題について（第9章）
備考	

科目名	英文法 2	担当者名	近藤 ヒカル
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>この授業の目的は現代英語の文章（特に文学作品）を読む上での、および中学・高校の英語教師になった場合の文法的な素養を養うことにあるので、イギリス英語で書かれた実際の作品を読みながら、年間スケジュールに従って文法事項を履修するものである。</p>		
講義概要	<p>本学に入学するほどの学生は受験勉強の過程で英文法の教科書や参考書に詳述されている文法知識は周知しているのだが、実際のすぐれた英文に接してその知識が活用できない。したがってこの授業では学生諸君が辞書を引き文法書を調べ、その事項を更に深く習熟すべく応用例にまで目を通すような習慣を身につけるように指導するのである。しかも文学作品の文章であるから無味乾燥な授業とちがった興味と感動をあわせて味わえると確信している。</p>		
使用教材	テキスト	現代英語（イギリス）で書かれた短篇をプリントする。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『高等英文法』、小川芳男、上野伊栄太、有精堂 ・『新英文法辞典』、大塚高信、三省堂 ・<i>Collins Cobuild English Language Dictionary</i> ・<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> 	
評価方法	<p>各文法事項につき受講者に分担を決めてレポート形式で発表してもらおう。成績評価は前・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文の種類（平叙—疑問、肯定—否定、叙実—叙想、命令—感嘆、5文型、単文—複文—重文）
2	名詞の種類（可算—不可算、集合—群集、物質名詞の個別化、抽象名詞の語形成と助数詞、固有名詞の普通名詞化）
3	名詞の数（規則—不規則複数、複合名詞の複数、動詞との呼応、複数名詞の形容詞用法）
4	名詞の性と格（性の表し方、通性、副詞的属格・与格・対格、性状の対格、所有格の作り方、群属格、所有格の意味、二重所有格）
5	人称代名詞と不定代名詞（特殊用法のwe、総称複数、特殊用法のit、/any, one, none, each, every, all, both）
6	疑問代名詞と関係代名詞（従属節中での役割と文中での役割、関係代名詞の諸用法：限定—継続、反復、二重限定、省略、as, than, but、複合関係代名詞）
7	前週の続き
8	形容詞の種類と用法（限定用法—前位修飾と後位修飾、叙述用法）
9	形容詞の比較変化（語としての規則・不規則変化の諸形式、文としての比較の諸形式）
10	数詞（基数・序数・倍数によるさまざまな単位の表し方）
11	冠詞（定冠詞と固有名詞、冠詞の省略と語順、冠詞と2個以上の名詞）
12	副詞（単純・疑問・関係副詞、副詞の機能と他品詞との関係、動詞修飾副詞の文中での位置—様態・程度・期間・時・場所・助動詞修飾・動詞副詞結合・文修飾）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の種類と5文型（完全・不完全自動詞、完全・授与・不完全他動詞）
2	動詞の活用と主語・述語の一致
3	能動態と受動態
4	動詞の時制（現在・過去・未来時制の意義、完了時制の諸形式）
5	法（仮定法の諸時制と諸形式、および条件節の省略）
6	助動詞（種類、will, shall の用法）
7	準動詞（不定詞）
8	準動詞（分詞）
9	準動詞（動名詞）
10	接続詞（等位接続詞、従位接続詞と従節の機能）
11	話法（話法の種類、話法の転換）
12	間投詞、句と節
備考	

科目名	英文法 3	担当者名	須賀川 誠 三
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>本講義では、伝統文法を基調とし、新しい言語理論を取り入れた「新文法」を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組は、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義で扱うのは、統語論が中心であり、形態論は特に扱うことはない。</p> <p>なお、毎時間の初め10分位、小テストによるワンポイント・レッスンをを行い、盲点となっている事項について理解の徹底を図る。</p>		
使用教材	テキスト	水島喜喬他共著『大学英文法入門』 英宝社 / 『ワンポイント英語表現文法』 NCI	
	参考文献	新津米造 『新英文法総覧』 北星堂 / 大塚高信編『新英文法辞典』 三省堂 (その他、必要に応じて教室で紹介の予定)	
評価方法	前期レポート、後期筆記試験による。出席・平常点も評価の重要な判定資料となる。		
受講者に対する要望など	受講希望者は、第1回目の授業に出席して、必ず受講の承認を受けること。無断登録は無効となるので注意。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要について説明。また、授業の進め方、学習法などについてのガイダンスをする。
2	1. 文 (Sentence) 1.1 文の種類(1) Exercise 1.2文の種類(2) 1.3 文の形態と表現内容
3	1.4 文の構成要素と品詞 Exercise
4	2. 動詞と時制 (Verbs & Tenses) 2.2 時と時制 2.3 単純現在形 2.4 単純過去形
5	2.5 完了時制 (現在完了形・過去完了形・その他の用法)
6	2.6 進行形 2.7 動詞の種類と進行形 Exercise
7	3. 法助動詞 (Modal Auxiliaries) 3.1 法助動詞の法性 3.2 許可を表す may, can…など 3.3 可能性を表す may, might, can, could
8	3.4 可能を表す can, could 3.5 能力を表す can, be able to 3.6 may, might, can, could のその他の用法
9	3.7 義務や必要性を表す must, have (got) to, need, be bound to
10	3.8 論理的な必然性を表す must, have (got) to, need, be bound to 3.9 must と have to のその他の用法 3.10 should と ought to. 前期課題の発表。
11	3.11 その他の助動詞 Exercise (1)~(3)
12	前期の授業のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	4. 未来表現 4.1 単純現在形 4.2 現在進行形 4.3 Be going to 4.4 will/shall+原形不定詞 (1) 1人称主語と共に使用
2	4.4 will/shall+原形不定詞 (2) 2,3人称と共に使用 4.5 will/shall be~ing 4.6 Be+to+不定詞 4.7 未来を表す他の表現 4.8 過去時における未来 Exercise (1)~(2)
3	6. 受動態 (Passive Voice) 6.1 受動文型 6.2 目的語が1つの能動文の受動態 6.3 二重目的語をとる動詞の受動態
4	6.4 過去分詞の形容詞的性質 6.5 能動形で受動の意味を表す場合 6.6 Get の受動形 6.7 経験受動態 Exercise(1)~(2)
5	7. 条件文と仮定法 (The Subjunctive) 7.1 直説法の条件文、 7.2 If 条件節と仮定法
6	7.3 仮定法の用法上の注意点 7.4 前提節がかくされている場合 7.5 As if, as though 節
7	7.9 主語+wish (+that) +仮定法 7.7 祈願文 7.8 should の仮定法的用法 7.9 その他注意すべき語法 法 Exercise(1)~(3)
8	9. 関係詞 (Relatives) 9.1 関係代名詞 9.2 関係形容詞
9	9.3 関係副詞 9.4 不定関係詞 9.5 強調構文 Exercise(1)~(3)
10	10. 比較 (Comparison) 10.1 比較の種類 10.2 原級による比較 10.3 比較級による比較
11	10.4 最上級による比較 10.5 絶対比較 10.6 特殊な比較 Exercise(1)~(2)
12	☆学年末試験 (1年間学んだことの総括として行う。)
備考	

科目名	英文法 4	担当者名	府川 謹也
-----	-------	------	-------

講義の目標	英語教師として恥ずかしくない文法知識を身に付けること。		
講義概要	教室で英語を教授したり、テキストを正確に読んだりする際に役立つような英文法のエッセンシャルズを解説。		
使用教材	テキスト	安藤貞雄『英語教師の文法研究』大修館書店	
	参考文献		
評価方法	2回の試験ならびに平常点による。		
受講者に対する要望など	毎回予め当てておいた人に質問を提出してもらうので、能動的な受講態度が望まれる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本文型
2	” ”
3	” ”
4	時制と相
5	現在時制
6	過去時制
7	未来を示す表現形式
8	進行相
9	” ”
10	完了相
11	”
12	法助動詞（現在時制形式）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	法助動詞（過去時制形式）
2	法助動詞（認識的用法と非認識的用法）
3	能動態と受動態及びそれらの用法
4	受動態にならない能動態
5	擬似受動態（This bed has been slept in. など）
6	時制の照応
7	some/any の用法 good の意義素
8	冠詞の意義素
9	英語の情報構造
10	” ”
11	” ”
12	残された問題
備考	

科目名	英文法 5	担当者名	三好 健
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることのない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p>		
講義概要	<p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めるので、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは受けあいである。</p>		
使用教材	テキスト	M. M. Bryant & C. Momozawa : <i>Modern English Syntax</i> (成美堂)	
	参考文献		
評価方法	<p>平常の成績と年2回の試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
2	品詞について。(テキスト第1章)
3	文の構造について。(テキスト第2章)
4	文の機能について。(テキスト第3章)
5	節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章)
6	節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章)
7	節について。(その3. 副詞節)(テキスト第6章)
8	主語について。(テキスト第8章)
9	代名詞の照合について。(テキスト第9章)
10	動詞について。(テキスト第11章)
11	目的語について。(テキスト第12章)
12	補語について。(テキスト第13章)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞句について。(テキスト第14章)
2	助動詞について。(その1. shall と will)(テキスト第15章)
3	助動詞について。(その2. shall, will 以外と擬似助動詞)(テキスト第16章)
4	形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
5	副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
6	否定について。(テキスト第19章)
7	比較について。(テキスト第20章)
8	態について。(テキスト第21章)
9	仮定法について。(テキスト第24章)
10	不定詞について。(テキスト第25章)
11	分詞について。(テキスト第26章)
12	話法について。(テキスト第27章)
備考	

科目名	ビジネス英語 I-1 (93年度以降) 商業英語 I-1 (92年度以前)	担当者名	海老沢 達郎
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</p>		
講義概要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、<u>基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</u>また、<u>英字新聞のビジネス欄の読み方をあわせて指導していきたい。</u>英語学科の学生として Business English の基本ぐらいは学んで卒業してもらいたい。受験希望者には、商業検定試験 C クラス、B クラスの受験指導を行う。1 年間の授業計画等については、最初の授業で詳しく説明する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i> 石田貞夫『貿易の実務』他。</p>	
	参考文献	<p>教室で指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。<u>上記の内容等については必要に応じて変更する場合がある。</u></p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。
2	第2回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する
3	第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。
4	第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。
5	第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方（後半）と取引の申し込み」について講義する。
6	第6回目の授業では「取引の申込み（後半）と取引の申込みに対する応答」について講義する。
7	第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答（後半）」について講義する。
8	第8回目の授業では「引合い」について講義する。
9	第9回目の授業では「引合い（後半）」について講義する。
10	第10回目の授業では練習問題2を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。
11	第11回目の授業では前期授業のまとめを行う。
12	第12回目の授業では平常試験を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では前期平常試験問題の返却・解答と練習問題2の解答と諸注意などを行う。
2	第2回目の授業では「オファー」について講義する。
3	第3回目の授業では「オファー（後半）とオファーに対する応答」について講義する。
4	第4回目の授業では「オファーに対する応答（後半）と海上保険証券」について講義する。
5	第5回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題3を第3回レポートとする。
6	第6回目の授業では「信用状（後半）」について講義する。
7	第7回目の授業では練習問題3の解答と諸注意などを行う。更に「積出しに関する通信」について講義する。
8	第8回目の授業では「積出しに関する通信（後半）」について講義する。
9	第9回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。
10	第10回目の授業では「クレームと問題の解決（後半）」について講義し、後期のまとめを行う。
11	第11回目の授業では平常試験を行う。
12	第12回目の授業では後期平常試験の返却と解答を行う。
備考	

科目名	ビジネス英語 I-2 (93年度以降) 商業英語 I-2 (92年度以前)	担当者名	海老沢 達 郎
-----	--	------	---------

講義の目標	<p>Business Englishとは何も貿易通信文のみを指すものではない。売買契約書、保険証券、船荷証券等の関連文書の書類や貿易実務に現われる英語、さらには法律や経済等も含まれてくる。従って、Business Englishを、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では国際ビジネスに必要な基本的な事柄である「経済英語」と「やさしい国際経済学」を講義し、指導する。</p>		
講義概要	<p>通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、英字新聞のビジネス欄を読み、国際経済情勢を理解するという能力も Business English にとって大変重要なものとなってきている。従って、本講義では「英字新聞のビジネス欄の読み方」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。英字新聞の見出しの原則と常用語、記事の中に類出する用語、ニュース記事の構成及びその特徴を講義し、英文経済記事の読み方を指導すると同時に、「経済用語の解説」と「国際経済学」を講義する。なお、積極的な学生諸君の受講を希望するが、経済についての予備知識は必要としない。また、ビジネス英語 I-1 をあわせて履修すれば、ビジネス・コミュニケーションを体系的に学習することになる。</p>		
使用教材	テキスト	海老沢達郎『英字新聞の読み方ハンドブック』他。	
	参考文献	教室で指示する。	
評価方法	評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。		
受講者に対する要望など	授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。 <u>上記の内容については必要に応じて変更する場合がある。</u>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。
2	第2回目の授業では「景気の上昇と景気の後退」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
3	第3回目の授業では「物価と経済指標」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
4	第4回目の授業では「消費と市場」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
5	第5回目の授業では「株」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
6	第6回目の授業では「貿易と関税」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
7	第7回目の授業では「取引・交渉と貿易・禁止」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
8	第8回目の授業では「貿易・報復と貿易摩擦」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
9	第9回目の授業では「銀行と通貨」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
10	第10回目の授業では「金利」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
11	第11回目の授業では前期のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では前期の平常試験問題の返却・解答と諸注意などを行う。
2	第2回目の授業では「外国為替」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
3	第3回目の授業では「投資と海外資金援助」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
4	第4回目の授業では「EU通貨統合」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
5	第5回目の授業では「累積債務」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
6	第6回目の授業では「インサイダー取引」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
7	第7回目の授業では「雇用と人事」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
8	第8回目の授業では「M&A 1」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
9	第9回目の授業では「M&A 2」について講義し、英文経済記事を読み、経済用語の解説を行う。
10	第10回目の授業では、英文ビジネスレターの作成をレポート提出とし、これについて詳しく説明し、質問を受け、後期のまとめを行う。
11	第11回目の授業では平常試験を行う。
12	第12回目の授業では後期の平常試験の返却と解答を行う。
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅰ－3（93年度以降） 商業英語Ⅰ－3（92年度以前）	担当者名	杉山晴信
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における商業通信文（Commercial Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を修得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験Bクラスの英語部門に合格できるレベルの実力を養成することを具体的な目標とします。</p> <p>なお、私の担当する「ビジネス英語Ⅰ－4」とは内容が異なりますので、注意して下さい。</p>				
講義概要	<p>下記テキストの单元ごとに、当該单元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の“Skeleton Plan”について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各单元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、講義4回に1回の割合で、補充問題という形の宿題を課し、より高度な商業通信文を自宅で作成していただきます。その成果はレポートとして提出することを義務づけます。</p> <p>テキスト終了後は、時間の許す限り、現物のビジネスレターを教材に用いて読解力を増強し、アドリブで通信文を作成するという形の演習を行うことによって応用力を高めます。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』（北星堂、1988） ②配布プリント </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』（研究社、1955） ②加藤正主幹『新・実用英語ハンドブック』（大修館、1995） ③藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房、1997） ④藤田栄一『貿易取引の実務』（勁草書房、1996） ⑤中村巳喜人・則定隆男『入門商業英語』（英宝社、1982） ⑥日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』（日本商工出版、各年） ⑦小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』（南雲堂、1987） </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ①小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』（北星堂、1988） ②配布プリント 	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ①藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』（研究社、1955） ②加藤正主幹『新・実用英語ハンドブック』（大修館、1995） ③藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房、1997） ④藤田栄一『貿易取引の実務』（勁草書房、1996） ⑤中村巳喜人・則定隆男『入門商業英語』（英宝社、1982） ⑥日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』（日本商工出版、各年） ⑦小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』（南雲堂、1987）
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ①小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』（北星堂、1988） ②配布プリント 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ①藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』（研究社、1955） ②加藤正主幹『新・実用英語ハンドブック』（大修館、1995） ③藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房、1997） ④藤田栄一『貿易取引の実務』（勁草書房、1996） ⑤中村巳喜人・則定隆男『入門商業英語』（英宝社、1982） ⑥日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』（日本商工出版、各年） ⑦小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』（南雲堂、1987） 				
評価方法	<p>平常点（出席状況・課題提出状況・授業貢献度等）を第一の尺度として、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>				
受講者に対する要望など	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、命じられたレポートを必ず提出することを履習の条件とします。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 2~3)
2	第2回目の授業では、ビジネスレターの構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 4~15)
3	第3回目の授業では、ビジネスレターの文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 16~18)
4	第4回目の授業では、「取引先の発見」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit1, p. p. 20~22)
5	第5回目の授業では、「取引の申込み」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit2~3, p. p. 23~28)
6	第6回目の授業では、「信用照会」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit4, p. p. 29~31)
7	第7回目の授業では、「引合い」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit5~6, p. p. 32~37)
8	第8回目の授業では、「引合いに対する返事」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit7~8, p. p. 38~43)
9	第9回目の授業では、「オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9, p. p. 44~46)
10	第10回目の授業では、「カウンター・オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit10, p. p. 47~49)
11	第11回目の授業では、「注文」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11, p. p. 50~52)
12	第12回目の授業では、「注文の受諾」および「注文の謝絶」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit12~13, p. p. 53~85)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、「成約」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit14, p. p. 59~61)
2	第2回目の授業では、「信用状督促」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit15, p. p. 62~64)
3	第3回目の授業では、「船積通知」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit16, p. p. 65~67)
4	第4回目の授業では、「船積遅延と信用状訂正」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit17, p. p. 68~70)
5	第5回目の授業では、「クレーム」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit18~19, p. p. 71~76)
6	第6回目の授業では、「クレーム調整」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit20, p. p. 77~80)
7	第7回目の授業では、テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」の読解と作成の訓練を行います。
8	第8回目の授業では、「人物照会への返信」および「人物推薦状」について読解と作成の訓練を行います。
9	第9回目以降の授業では、現物のビジネスレターを教材に用いて読解力を増強し、アドリブで通信文を作成するという形で演習を行います。
10	上記参照
11	上記参照
12	上記参照
備考	

科目名	ビジネス英語 I-4 (93年度以降) 商業英語 I-4 (92年度以前)	担当者名	杉山晴信
-----	--	------	------

講義の目標	<p>ビジネス英語の中核である商業通信文を駆使する実力を身につけるためには、実践的なトレーニングを積むとともに理論的な研究を行うことによって、読解力、表現力、および語彙力を量的にも質的にも向上させなければなりません。本講義では、まず、商業通信文を読解し作成するハードな訓練を行って当該領域独特の英語に慣れてもらい、さらに、英語学諸分野の知識を援用して商業通信文を効果あらしめる研究を行います。前述した量と質の両面から商業通信文の実力養成を目指します。なお、「ビジネス英語 I-3」とは内容が異なりますので注意して下さい。</p>				
講義概要	<p>下記のテキスト①を用いて、貿易取引の時系列的な流れに沿って各取引段階における商業通信文を読解し作成するトレーニング(実践編)を行うとともに、当方で用意するプリント教材を用いて、意味、構文、文体、連語関係といった英語学の関連分野から、効果的な商業通信文のあり方(理論編)について考究します。実践編と理論編を1週間おきに交互に授業で扱うことに加え、1年を通じて、毎月の初回授業時に、下記のテキスト②を出題範囲とする Vocabulary Check(語彙力診断テスト)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。また、頻繁にレポートを提出していただき、知識の定着をはかるとともに講義内容からさらに発展した学習を義務づけます。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> ①杉山晴信『ビジネス英語21アプローチ』(北星堂、1993) ②小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987) </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> ①亀田・山本『最新ビジネス英語を書くコツ』(研究社、1991) ②則定隆男『ビジネス英語を学ぶ・考える』(英宝社、1990) ③長野ほか『商業英語クエスチョン・ボックス』(大修館、1983) ④長野・野口『商業英語文法教本』(大修館、1981) ⑤M. Hauser『現代ビジネスレターの技術』(研究社、1980) ⑥中村・羽田『最新標準商業英語』(英宝社、1980) ⑦中村巳喜人『基本商業英語』(英宝社、1977) </td> </tr> </table>	テキスト	①杉山晴信『ビジネス英語21アプローチ』(北星堂、1993) ②小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987)	参考文献	①亀田・山本『最新ビジネス英語を書くコツ』(研究社、1991) ②則定隆男『ビジネス英語を学ぶ・考える』(英宝社、1990) ③長野ほか『商業英語クエスチョン・ボックス』(大修館、1983) ④長野・野口『商業英語文法教本』(大修館、1981) ⑤M. Hauser『現代ビジネスレターの技術』(研究社、1980) ⑥中村・羽田『最新標準商業英語』(英宝社、1980) ⑦中村巳喜人『基本商業英語』(英宝社、1977)
テキスト	①杉山晴信『ビジネス英語21アプローチ』(北星堂、1993) ②小池・杉山『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987)				
参考文献	①亀田・山本『最新ビジネス英語を書くコツ』(研究社、1991) ②則定隆男『ビジネス英語を学ぶ・考える』(英宝社、1990) ③長野ほか『商業英語クエスチョン・ボックス』(大修館、1983) ④長野・野口『商業英語文法教本』(大修館、1981) ⑤M. Hauser『現代ビジネスレターの技術』(研究社、1980) ⑥中村・羽田『最新標準商業英語』(英宝社、1980) ⑦中村巳喜人『基本商業英語』(英宝社、1977)				
評価方法	<p>出席状況、レポートの提出、Vocabulary Checkの累積得点、授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>				
受講者に対する要望など	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、命じられたレポートを必ず提出することを履修の条件とします。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意してください。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義計画を説明し、ビジネス英語の概念について講義します。次いで、商業通信文を効果あらしめるための英語学諸分野からのアプローチについて鳥瞰します。
2	「市況」および「取引先の発見」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 1～2、p.p. 1～6)
3	商業通信文をめぐる意味論的な問題として、“ambiguity” (曖昧さ) と “vagueness” (不確かさ) の危険性を摘示し、それらの原因を究明するとともに対処法を検討します。(テキスト：配布プリント)
4	第1回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「取引の申込み」および「信用照会」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 3～4、p.p. 7～12)
5	商業通信文をめぐる意味論的な問題として、日英両言語の意味の構造を比較検討しながら、“hyponym” (包摂関係) と “overlapping” (重複関係) について学習します。(テキスト：配布プリント)
6	「引合い」および「引合いに対する返事」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 5～6、p.p. 13～18)
7	商業通信文をめぐる意味論的な問題として、類義語 (synonyms) の使用に伴う危険性を法制度、商慣習、文化的事情などと関連づけて考察します (テキスト：配布プリント)
8	第2回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「オファー」および「カウンター・オファー」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 7～8、p.p. 19～26)
9	商業通信文を成り立たせているスケルトン・プラン (skeleton plan) を各貿易取引段階ごとに分析し、そこから範例構文 (sentence pattern) を抽出する作業を行います。(テキスト：配布プリント)
10	「注文」および「注文の受諾」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 9～10、p.p. 27～32)
11	商業通信文に使用できる範例構文を用いて、各貿易取引段階において頻用される語彙の範疇 (category) を区分する作業を行います。(テキスト：配布プリント)
12	第3回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「注文の謝絶」および「成約」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 11～12、p.p. 33～39)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業通信文の表現効果を高める文体の問題として、「文の長さ」の基準をパラグラフ、ストローク、行数、語数、音節数などのデータに基づいて科学的に分析します。(テキスト：配布プリント)
2	第4回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「信用状の開設と訂正」および「海上保険」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 13～14、p.p. 40～47)
3	商業通信文の表現効果を高める文体の問題として、「文の形態」に着目し、平叙文、疑問文、命令文および感嘆文が生じる表現効果を各々比較検討します。(テキスト：配布プリント)
4	「輸出手配」および「船積み」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 15～16、p.p. 48～55)
5	商業通信文の表現効果を高める文体の問題として、「文の構造」に着目し、単文、重文、複文および混文による各々のパラグラフ構成法の特徴を比較検討します。(テキスト：配布プリント)
6	第5回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「輸入手配」および「決済」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 17～18、p.p. 56～63)
7	商業通信文に登場する特有な連語関係に関して、文法的連語関係 (grammatical collocation) と語彙的連語関係 (lexical collocation) に大別して概説します。(テキスト：配布プリント)
8	「クレーム」および「クレーム調整」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit: 19～20、p.p. 64～71)
9	商業通信文に頻用される基本語彙 (名詞) と当該名詞を目的語にとる動詞群との連語関係 (Verb-Object Collocation) の特徴を科学的に分析します。(テキスト：配布プリント)
10	第6回 Vocabulary Checkを実施するとともに、「紹介・推薦・社交文」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。(テキスト：Unit 21、p.p. 72～75)
11	商業通信文に頻用される基本語彙 (名詞) と当該名詞を修飾する形容詞群との連語関係 (Adjective-Noun Collocation) の特徴を科学的に分析します。(テキスト：配布プリント)
12	1年間の授業の総括を行い、疑問点や不明な点について質疑応答を予定しています。
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅰ－５，６（93年度以降） 商業英語Ⅰ－５，６（92年度以前）	担当者名	信 達 郎
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力をのばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取りあげる科目である。ビジネスと言っても、いろいろな業種があり、また、オフィス環境も経理から営業、それに秘書業務まで様々であるが、とにかくビジネス環境に即した実際的な授業にしていきたい。</p>		
講義概要	<p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。また、発表や黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだ経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの700点、英検の準1級、日本商工会議所主催の商業英語検定のBクラス受験可能程度を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『貿易の英語』羽田、島編著、森北出版 『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス 『ビジネス英会話』信、井編著、三修社</p>	
	参考文献	<p>授業を通じ、適宜指示する。</p>	
評価方法	<p>受講姿勢50%、ペーパーテスト50%</p>		
受講者に対する要望など	<p>成績にこだわるのではなく、実力を少しでも上げることに興味を持つ学生に参加してもらいたい。受講態度が悪い者は、退場を命ずる。当然のことながら、私語厳禁。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ビジネス英語の特徴
2	プリント 1 (英文ビジネスコラム)
3	取引概略 I
4	プリント 2
5	取引概略 II
6	プリント 3
7	引合 (inquiry)
8	プリント 4
9	オファー I (offer)
10	プリント 5
11	オファー II
12	プリント 6
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	契約 I (contract)
2	プリント 7
3	契約 II
4	プリント 8
5	クレーム I (claim)
6	プリント 9
7	クレーム II
8	プリント 10
9	コンピュータ英語 I
10	プリント 11
11	コンピュータ英語 II
12	プリント 12
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅰ－Ⅶ(93年度以降) 商業英語Ⅰ－Ⅶ(92年度以前)	担当者名	山本孝夫
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>外国の企業とのビジネスでは、英語のコミュニケーションの力と契約知識が不可欠です。これは広くビジネス英語と呼ばれます。何故、英語力と契約知識が必要だと思いませんか。第一にビジネスを推進し、契約するためでしょう。その為にはビジネスの内容・条件を正確に理解し、交渉しあとで紛争がおきないよう、契約条件を確認しあうことが大切です。ポーターレスの現代では、ビジネスの世界の標準語は英語です。クラスでは、CIF、FOB など「貿易取引」、マクドナルドなど「フランチャイズ」、ベルサーチなど「ブランドライセンス」と「映画」・「ベンチャー」も取上げます。</p>		
講義概要	<p>「国際売買条件」「国際取引の特色とリスク」「国際ブランド・技術ライセンス」「海外進出・合併事業」「国際取引紛争と解決方法」「エンターテイメントビジネス(ミュージカル・映画・音楽)」「ベンチャービジネス」を具体的な例(ケース)を通じて、紹介します。現実に次々とおきる事件・事象を取り上げて、国際的な通商・文化摩擦、環境、経済法(証券取引法・反トラスト法等)、国際紛争・訴訟を学んでいきます。ミシガン大 English Language Institute, Law School やロンドン・サンフランシスコ・東京(三井物産)で国際取引・合併事業・プロジェクト・知的財産取引契約に携わってきた経験をもとに、仮想のケースメソッドや英文教材(プリント)を使います。『英文契約書の書き方』(日経文庫)も使います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>1、プリント(毎回配布) 2、山本孝夫『英文契約書の書き方』(日本経済新聞社日経文庫) 3、『国際取引法』(山田・佐野、有斐閣)</p>	
	参考文献	<p>1、Folsom Gordon『<i>International Business Transactions</i>』(West社、コースブックとNutshell版) 2、山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方』(『国際商事法務94年1月～97年3月(39回)連載中) 3、山本孝夫共編著『ベンチャーマネジメントの変革』(日本経済新聞社) 4、新堀聡『貿易取引入門』(日本経済新聞社) 5、澤田寿夫『新国際取引ハンドブック』(有斐閣) 6、山本孝夫共編著『知的財産権Ⅲ研究開発・ライセンス』(三省堂) 7、『<i>Business Opportunities</i>』『<i>Business Objectives</i>』(Oxford Univ Press) 8、大田原房子『ビジネス英文手紙の書き方』(日経文庫)</p>	
評価方法	<p>前後期2回のレポートとクラスへの参加を重視します。これ迄4期は、梶山ゼミ、竹田ゼミ独語学科、仏語学科はじめ受講生が意欲的だったのでレポートとしました。新年度も前期レポート期限を9月末(テーマ自由2千字以上)とします。これ迄は力のこもったレポートが多く、A・B中心の評価でした。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私は授業は人数にかかわらず、受講生と教師が各1対1で意見交換し、協力して作りあげるものだと考えています。93年は学生アドバイザー起用、最近3年は出席票代りに毎回「質問・意見・希望・メッセージメモ」(B5版)を提出願ひ、授業に反映させました。質問・意見のメモは、必ず2度読み、次回以降のクラスや、内容により、本人に直接答えるようにしています。(ミシガン大のAdvisor制をヒントにしました。)夢を追う仲間の楽しいゼミナールにしたいと思ひます。授業に参加し、意見をきかせて下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(質問) あなたは初めて海外の客先へ商品の有利な売込みに成功、大筋商談がまとまりました。契約書の交渉に移ろうとすると相手が言います。「約束した通りの商品を送って下さい。契約書はいらない。」どうしますか。
2	第1週の Business Writing の役割の議論に続き具体的なケースで国際的な取引の特色とリスクを取上げます。セリヌ・ディオン、マライアキャリーをキャンパスに呼ぶとしたらどんな契約書を作りますか。安室奈美恵ならどうですか。
3	具体的なケースを取り上げ「国際取引の種類」を学びます。94年は名古屋空港エアバス事故。95年はロックミュージカル上演とブランド・ビジネス。96年は Virgin (レコードショップと航空) と Body Shop (フランチャイズ)。
4	Athen の Alpha Company が New York の Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社からの Letter (照会)、Purchase Order を読み、価格の決め方、運送・支払条件、信用状・保険を学びます。[『国際取引法』 pp. 69-113]
5	Santa Claus (2回)。国際売買の仕組み、FOB、CIF 条件を学びます。Free on Board とはどう意味でしょうか。CIF とは何の略でしょうか。[『英文契約書の書き方』 pp. 16-137、『貿易取引入門』 pp. 98-173]
6	米 Georgia 州の Sam Silver が英 Bath の Bill Bones から「Desire under the Thornbush」(本) を FOB Savannah (Georgia) 条件で、そして、Hunt から CIF Bath 条件で100冊注文を受けます。一緒に送ることができますか。
7	Silver ケース (2回)。コースブックの pp. 82-87 です。船積港が Savannah, Destination (仕向先) が Bath という点では同じです。「FOB サバナナ」と「CIF バス」が同金額ならどちらの条件で買いますか。Bath は風呂の語源です。
8	これまでの授業をふり返り、いただいた質問にお答えします。ケースの内容のこと、前期レポート(テーマ)のこと、前期のクラスで取り上げる希望の多いテーマ(例えば95年は「英文履歴書」「英文手紙(実例)」)など自由な時間です。
9	Aurora Borealis 社〔日本〕と Karen Kiew 社〔S.F.〕間の契約をめぐってレター形式の契約のし方、フォーマルな契約書のドラフティングを学びます。世界共通の国際取引法はあるのでしょうか。[『英文契約書の書き方』 pp. 20-112]
10	国際取引の世界では、Business Writing、契約書、紛争処理のいずれをとってもアメリカの法制度とプラクティスの影響が大きいのです。U. C. C. (米国統一商法典) の Warranties (保証)、裁判制度や法律の特色は何でしょうか。
11	国際取引の舞台に登場する「Actors」(事業展開の主な Forms (売買、ライセンス、投資))についてふり返ります。Delaware Corporation, Tax Haven, Multinational Enterprise とは何でしょうか。[「コースブック」 pp. 10-30]
12	前期レポートは、英文ビジネスライティング、国際取引、ライセンス、国際貿易条件、エンターテインメント(国際展開)、航空産業、国際情報産業、M & A など自由課題(期限: 9月末)です。参考テーマ(20課題)と翻訳用カバを用意します。(96年の「テーマのヒント」は10頁にわたりました。「映画の字幕制作」「英文履歴書カバ」と想定外にもテーマとして認めます。)
備考	クラスの終りに毎回、自由な質問・意見メモ (B5版) を受取り、その次のクラスなどの初めや後半に、5~10人分ずつ紹介し、お答えして行きます。学生参加による講義をつくり上げて行きます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	レポートの提出を今週・次週と受けます(教室)。後期の学び方・指針について紹介します。あなたの夏休みの成果・感想を聞いたり、私のすごし方をお話します。94年は北大集中講義コペンハーゲン国際会議(「AIPPI」94.9-95.3月号)
2	ビジネス英語、契約英語の基本を紹介します。『英文契約書の書き方』(V. 契約英語のポイント、pp. 191-209)の基礎的表現(May Shall, Will, 時刻、数字、期間)も紹介します。「three and five-tenths percent」は分りますか。
3	「国際技術移転・知的財産取引(1)」として、ブランドやキャラクター・マーチャンダイジング、ソフトウェアライセンスを取り上げます。Copyrights, Patents, Trademark, Trade Secret とは何でしょうか。[『国際取引法』 pp. 146-171]
4	「国際技術移転・知的財産取引(2)」として、具体的なライセンス契約や契約条件を学びます。[「コースブック」 pp. 706-725, Patent and Knowhow Licensing; 『英文契約書の書き方』 pp. 146-171; 『知的財産契約の常識』CIPIC ジャーナル94.3-11月号]
5	マクドナルドのフランチャイズ契約を見たことがありますか。マクドナルドや Colonel Chicken のフランチャイズを見ながら、フランチャイズビジネスの利点・リスクを考えてみませんか。[「コースブック」 pp. 675-691]
6	映画やミュージカルは好きですか。カーペンターズの「Super Star」を聞いたことがありますか。「Cats」を見たことがありますか。「Evita」や蜷川幸雄演出の「王女メディア」「マクベス」はいかがですか。芸術は国境と言語を超えます。「Bee Gees 事件」「Feelings 事件」を紹介します。
7	「エンターテインメント(2週)」として、国際的なエンターテインメントビジネスを制作、上演、輸入、ビデオ化、放送、翻訳版など、著作権、契約ビジネスの実際から取り上げて行きます。著作権隣接権・フェアユースとは何でしょうか。
8	セーラムーン、バットマン、スーパーマン、…。キャラクターマーチャンダイジング・ビジネスでは Counterfeiter (ニセモノ製造業者)とも戦わなければなりません。「スーパーマンの判例」「バットマンの戦い」を紹介します。
9	「海外への進出・合併事業(1)」を紹介します。1980年代半ばから、ソニーによるコロンビア映画の買収、ベネッセによるベルリッツの買収など M & A が盛んです。近年はフォードのマツダ株式買増やマードックの進出など外資攻勢も目立ちますね。
10	「海外への進出・合併事業(2)」として、「合併契約書」を取り上げます。契約条項を通して、各国の会社法・文化・雇用・取引慣行・財産制度・Tax のちがいを学びます。[『国際取引法』 pp. 211-220; 『新国際取引ハンドブック』 pp. 104-164]
11	国際取引に伴う重要問題を取上げます。①国際的な製造物責任(航空機、車、薬品)、②Anti-Trust 法③国際タックス問題(Tax Haven; 租税条約、Withholding Tax、移転価格税制)④国際環境問題を学びます。
12	国際取引紛争と解決方法、予防策を取上げます。近年の紛争(住友商事・大和銀行の先物取引、航空機事故…)の解決をあなたはどうみますか。ビジネス英語はあなたと共に成長を続けます。あなたが国際舞台で若い鷹のようにはばたく翼となるように祈ります。その日はもう遠くはありません。
備考	「国際取引」はあなたの身近です。たとえば①個人輸入(海外通販)②海外への留学・旅行③外資への応募(Personel History)④海外での買物、レンタカー、ホテル予約⑤インターネット⑥インカレ……。

科目名	ビジネス英語 I-8 (93年度以降) 商業英語 I-8 (92年度以前)	担当者名	山本孝夫
-----	--	------	------

講義の目標	<p>ボーダレスの現代では、英語は国際ビジネスの標準語です。国際的な舞台や現代のビジネスの世界で活躍をめざす人々は、「標準語」と「ビジネス・契約知識」をマスターするのが、資質の条件と考えてみてはどうでしょうか。国際ビジネスの分野は、貿易取引に加えて、知的財産取引・ライセンス・合併事業・サービス取引・エンターテイメント・情報通信など国際化が進展しています。国内でも、コンピュータソフト、インターネット、フランチャイズ、金融取引、旅行（航空）、就職など、成長分野で国際化が進んでいます。ケースを取上げてビジネス英語、契約英語、国際取引と法を学びます。</p>
-------	--

講義概要	<p>CIF・FOB など「国際売買条件」、「国際取引の特色とリスク」、「国際的取引の紛争と解決方法（裁判と仲裁）」「エンターテイメントビジネス（音楽・ミュージカル・映画）」、ベルサーチ、ヴァレンチノなど「ブランドライセンス」、「海外進出・合併事業」「ベンチャービジネス」などを具体的な例（ケース）を通じて、取上げて行きます。ミシガン大学 ELI や Law School、ロンドン・サンフランシスコ・東京（三井物産）で国際取引・知的財産取引・プロジェクトに携わって来た経験をもとに仮想ケースメソッドや英文教材（プリント）を使います。獨協大の学生・新人を思い浮べて執筆した『英文契約書の書き方』（日経文庫）、『国際取引・知的財産法の学び方』（IBL）も使います。</p>
------	---

使用教材	テキスト	<p>1. プリント 2. 山本孝夫『英文契約書の書き方』（日本経済新聞社、日経文庫）、 3. 『国際取引法』（山田・佐野、有斐閣）</p>
	参考文献	<p>1. Folsom, Gordon 『International Business Transactions』（West Publishing、コースブックと Nutshell 版） 2. 山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール（Seminer at Michigan Law School）』（国際商事法務 [IBL] 94年9月～97年3月、39回連載中） 3. 新堀聡『貿易取引入門』（日本経済新聞社） 4. 山本孝夫共編著『解説実務書式大系・知的財産権Ⅲ 研究開発・ライセンス』（三省堂） 5. 『ビジネス英文手紙の書き方』（大田原房子、日経文庫）</p>

評価方法	<p>前後期2回のレポートとクラスへの参加を重視します。これまで4年間は、梶山ゼミ・霞ゼミ、独語学科、仏語学科はじめ、受講生が意欲的だったので、レポートとしました。新年度も前期レポート期限を9月末（テーマ自由、2千字以上）とします。これ迄は力のこもったレポートが多く A・B 中心の評価でした。自主性・主体性を評価します。</p>
------	---

受講者に対する要望など	<p>私は授業は受講生と教師が各1対1で意見交換し、協力して作りあげるものだと考えています。93年度は学生アドバイザー起用、最近3年は、毎回「質問・意見・メッセージメモ」（B5版）を提出願い、授業に反映させました。質問・意見メモは必ず2度読み、次回以降のクラスや、内容により、本人に直接答えるようにしてきました。夢を追う仲間の楽しいゼミナールにしたいと思います。授業に参加し、意見をきかせて下さい。自由な聴講も歓迎します。（クラスの OB/OG、卒業生も気軽に来てください。）</p>
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	開講にあたり、①1年間の目標と進め方②レポートと評価（前例・ヒント）③基本参考書・サプリーディング（リスト30冊）④国際ビジネスと契約⑤英文ビジネスレター（実例）を紹介します。（『英文契約書の書き方』 pp.16-20）
2	ビジネスレター、ビジネス契約書の役割・種類はどんなものがありますか。国際取引の特色は何でしょうか。セリヌ・ディオン、マライア・キャリー、エンヤをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約書を作りますか。（『プリント』）
3	具体的なケースや経済事件を取上げて、「国際取引」の種類を学びます。94年はエアバス事故、95年はミュージカルとブランドビジネス。96年はヴァージン（航空、レコード）。売買・ライセンス……（『英文契約書の書き方』 pp.20-23）
4	AthenのAlpha CompanyがNew YorkのSanta ClausにToyを注文します。Alpha社からのLetterとPurchase Orderを読んで、その内容を吟味します。船積条件・価格条件・支払条件・信用状（『コースブック』 pp.33-41）
5	Santa Clausケース（継続）。「国際売買の仕組み」[FOB, CIF条件]を学びます。FOBとCIF条件のちがいは何でしょうか。アルファ社とサンタクロス社がCIF条件で契約した時、NYとアテネ間の海上輸送はどちらが手配しますか。
6	米Georgia州のSam Silverは、英BathのBill Bonesから、百冊の「Desire under Thornbush」をFOB Savannah条件で注文を受けました。続いてBathのHuntからも同書百冊の注文がきました。（『コースブック』 pp.85-87）
7	Huntからの注文はCIF Bath条件です。あなたはSilverから相談を受けました。「同じ英Bath向けの同書二百冊を一緒に送るつもりですが、支障はありますか。あるとしたら、その理由は？」（『国際取引法』 pp.69-113）
8	海外や外資で働くのも、国際取引の一形態です。「求人広告」「雇用契約」「Resume（英文履歴書）」「Cover Letter」「Interview」を取上げます。あなたのResume、野球選手の雇用契約、俳優の雇用契約を作ってみませんか。
9	Aurora Borealis社（東京）とKaren View社（サンフランシスコ）社の契約をめぐる、レター形式の契約のし方、フォーマルな契約書のドラフティングを学びます。米国UCCとは何でしょうか。（『英文契約書の書き方』 pp.43-112）
10	UCCなどアメリカの法律とプラクティス、裁判の特色を紹介します。ボストンの海辺のレストランでフィッシュチャウダーの魚の骨がどにひっかかった婦人がUCCのWarranties違反を根拠にレストランを相手に訴訟を提起しました。一審は婦人の勝訴です。二審は？
11	国際取引の舞台に登場する“Actors”について考えます。Corporationだけではありません。アメリカのL.L.P.とは何でしょうか。Partnershipとは異なるのでしょうか。Delaware Enterprise, M.N.E.とは何でしょうか。
12	前期のレポート（期限：9月）は、国際取引、ビジネスレター、国際的企業、国際エンターテイメント、国際ビジネス契約等に関する限り、自由課題です。翻訳や映画の字幕制作も認めます。（調査・インタビューなど行動力・独創性を高く評価します。）
備考	クラスの終りに毎回、自由な質問・意見・メモ（B5版）を受取り、次のクラスなどの初めや後半に、5人分位ずつ紹介し、お答えして行きます。学生参加による講義をつくり上げて行きます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の重点テーマと指針を紹介します。あなたの夏休みの成果・感想を聞いたり、私のすごし方をお話します。（94年は北大集中講義・コペンハーゲン知的財産執行委印象記（AIPPI 94.9月号）、97年夏は札幌大学集中講義。）
2	契約英語、ビジネス英語の基本を紹介します。『英文契約書の書き方』（pp.191-209 [契約英語のポイント]）の基礎的表現（May, Shall, Will, 時刻, 数字, 期間等）も紹介します。「twelve and two-fifths percent」は分りますか。
3	国際技術移転・知的財産取引(1)の基本を紹介します。Intellectual property Rightsとは何でしょうか。Copyright, Patent, trademark, Trademarkとは何でしょうか。（『コースブック』 pp.612-621, 『国際取引法』 pp.189-209）
4	国際技術移転・知的財産取引(2)として、具体的なライセンス契約や契約条件を学びます。（『コースブック』 Problem 9.4 Patent and Knowhow Licensing pp.706-725, 『英文契約書の書き方』 pp.146-171, 『知的財産権Ⅲ』 pp.285-413）
5	ライセンス契約と似ているが、別なビジネス形態に「フランチャイズ契約」があります。マクドナルドの契約書を見たことがありますか。Colonel Chickenのフランチャイズ契約を通してフランチャイズを学びます。（『コースブック』 pp.675-691）
6	映画・ミュージカル・音楽など国際的なエンターテイメントビジネスがテーマです。映画やミュージカルはどのように制作されますか。輸入・上演・放送・ビデオ化の実際や契約を学びませんか。（「Jesus Christ Superstar事件」）
7	エンターテイメント（第2週）……映画・ミュージカル・音楽・放送には著作権ライセンスが複雑にからんできます。著作権とビジネスの実際と契約を取り上げます。（『知的財産契約の常識』 [95. 1~95. 3月号], 『知的財産権Ⅲ』 pp.413-439）
8	セーラー・ムーン、ミッキー・マウス、スーパーマン、バットマン……。キャラクターチャンダイジング・ビジネスのヒーローは、Counterfeiterとも戦わなければなりません。（「スーパーマン事件」「バットマンの戦い」）
9	「海外への進出と合弁事業」(1)……販売代理店と支店・現地法人、合弁会社（Joint Venture Company）はどう違うのでしょうか。合弁契約のポイントは何でしょうか。（『国際取引法』 pp.211-220, 『新国際取引ハンドブック』 pp.104-164）
10	「海外への進出と合弁事業」(2)……「合弁契約」は何のために締結されるのでしょうか。M&Aを成功させるポイントは何でしょうか。国際間の企業提携ではどのような事項について取り極めますか。経営方針で対立した時はどうしますか。
11	国際取引に伴う契約から発生しやすい紛争の原因となる重要問題を取上げます。①製造物責任法、②Anti-trust法、③Tax（Transfer Pricing, Tax Haven）、④環境問題。（『国際取引法』 pp.168-176, 「味の素事件」）
12	国際取引紛争とその解決方法について取上げます。具体的なケース、仮想ケースをもとに、問題と解決方法、予防策を議論します。（山本孝夫『国際取引紛争の解決と外国弁護士起用上の注意点』（『国際商事法務』 93. 11. 12月号）
備考	「ビジネス英語・国際取引」はあなたの身近にあります。①個人輸入（海外通販）②海外への留学、旅行③外資への応募・就職④海外での買物、ホテル予約⑤インターネット⑥翻訳⑦通訳…。

科目名	ビジネス英語Ⅱ（93年度以降） 商業英語Ⅱ（92年度以前）	担当者名	杉山晴信
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	日本商工会議所主催の商業英語検定試験A・Bクラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易取引の全体にわたって満遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。
講義概要	前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に6つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、信用状、海上保険といった専門事項 (technicalities) について講義します。本講義で使用する下記のテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。
使用教材	<p>テキスト</p> <p>伊東克己・太田正孝・稲津一芳・W.O'Connor『現代商業英語読本』（英潮社、1988）</p> <p>参考文献</p> <p>①浜谷源蔵『最新貿易実務（増補二版）』（同文館、1995） ②山田晃久『ミクロ マクロ 貿易取引』（学文社、1992） ③粕谷慶治・山田晃久『国際貿易論』（学文社、1990） ④神田善弘『実践貿易実務』（JETRO、1988） ⑤桐谷芳和『貿易取引と信用状』（経済法令研究会、1987） ⑥杉若雄次『貿易取引と貿易金融』（経済法令研究会、1986） ⑦田中・中川・仲谷『国際売買契約ハンドブック』（有斐閣、1986）</p>
評価方法	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。
受講者に対する要望など	コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。 (テキスト：p. p. 2～3)
2	貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に6つのステージに大区し、その各々について概説します。 (テキスト：p. p. 14～22)
3	貿易マーケティングの段階について、市場調査 (Market Research) を中心に講義します。 (テキスト：配布プリント)
4	取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、引合いまでを取り上げて講義します。 (テキスト：p. p. 42～53、配布プリント)
5	取引関係創設の段階のうち、信用照会 (Credit Inquiry) について詳細に講義します。 (テキスト：p. p. 54～60、配布プリント)
6	貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件 (General Terms & Conditions) で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。 (テキスト：p. p. 77～80、配布プリント)
7	貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。 (テキスト：p. p. 61～76、配布プリント)
8	貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積 (Shipment) の手配までの過程を講義します。 (テキスト：p. p. 81～88、配布プリント)
9	貿易取引の履行段階のうち、為替予約 (Forward Exchange Contract)、海上保険 (Marine Insurance) の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。 (テキスト：p. p. 94～97、配布プリント)
10	貿易決済の段階のうち、船積み書類 (Shipping Documents) の整備から荷為替手形 (Documentary Bill) の取組までの過程を講義します。 (テキスト：p. p. 89～93、配布プリント)
11	貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避を検討します。 (テキスト：配布プリント)
12	貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段としての仲裁 (Arbitration) をテーマに講義します。 (テキスト：p. p. 98～105、配布プリント)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から種々の貿易形態について講義し、各々の特色や長所・短所を比較検討します。 (テキスト：p. p. 4～6、配布プリント)
2	信用調査の目的・方法、調査項目などについて講義し、調査依頼状の書き方や調査報告書の読み方を実例を用いて学びます。 (テキスト：配布プリント)
3	各種オファーの特色を講義し、オファーと承諾をめぐる法的な諸問題について学習します。 (テキスト：配布プリント)
4	いわゆるインコタームズ (Incoterms) に規定された定型貿易条件について講義し、実例に基づき輸出価格の積算訓練を行います。 (テキスト：配布プリント)
5	輸出通関および船積の手続一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合とに区分して、各々詳細に講義します。 (テキスト：配布プリント)
6	インボイス (Invoice) について講義し、各種インボイスの内容と目的、記載事項などを学習します。 (テキスト：巻末付録、配布プリント)
7	船荷証券 (Bill of Lading) について講義し、各種船荷証券の定義、法的性質、記載事項などを学習します。 (テキスト：巻末付録、配布プリント)
8	インボイスと船荷証券以外の船積み書類 (Shipping Documents) について講義し、各々の内容と目的を学習します。 (テキスト：巻末付録、配布プリント)
9	海上保険について講義し、各保険条件の填補範囲と免責事項を学習するとともに、実例に基づいて保険料の算出訓練を行います。 (テキスト：巻末付録、配布プリント)
10	荷為替信用状 (Documentary L/C) について講義し、信用状の意義、種類、当事者、信用状決済の長所・短所などを学習します。 (テキスト：巻末付録、配布プリント)
11	貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して前期の授業を総復習します。 (テキスト：p. p. 19～22)
12	後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。
備考	

科目名	時事英語Ⅰ-1,2	担当者名	新井 妥門
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>クラスの数日前に録音した放送英語（主にCNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。</p>		
講義概要	<p>学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは使用せず、受講は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。</p>	
	参考文献	<p>例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書がよい。 必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。</p>	
評価方法	<p>定期試験、出席状況を含む平常点</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習により聞き取りづらい部分を確認しておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業形式についての説明
2	教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
3	学生によるディクテーション発表とそのチェック
4	同上
5	同上 教材の録音
6	学生によるディクテーション発表とそのチェック
7	同上
8	同上 教材の録音
9	学生によるディクテーション発表とそのチェック
10	同上
11	同上 聞き取りにくい語のまとめ
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
2	学生によるディクテーション発表とそのチェック
3	同上
4	同上 教材の録音
5	学生によるディクテーション発表とそのチェック
6	同上
7	同上 教材の録音
8	学生によるディクテーション発表とそのチェック
9	同上
10	同上 教材の録音
11	学生によるディクテーション発表とそのチェック 問題点のまとめ
12	テスト
備考	

科目名	時事英語 I-3	担当者名	金子節也
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事は言うに及ばず、CNNをはじめ、テレビ放送のVTR、インターネットをおおいに活用したい。</p>		
講義概要	<p>主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解し考察する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。</p> <p>その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV、インターネットなどにより補足してゆく。</p>		
使用教材	テキスト	金子節也著； <i>I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...</i> , こびあん書房、1988ほか	
	参考文献	金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991、他。 (ほかに TV 放送などからのサブ教材使用予定)	
評価方法	出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化…幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
2	日米関係—その1、テキストの2、“The Media Plays Up American Pressure”の最初の3分の1。テキスト pp. 11-14
3	日米関係—その2、テキスト pp. 15-18 その他最新英字紙等による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。
4	日米関係—その3、“A Caution to the U. S. -Japan Relationship” (pp. 19-22) その他英字紙。
5	日米関係—その4、テキスト pp. 23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。
6	日本関係—その5、テキストの4 “How to Influence Big Business and Go Win-Win” (pp. 29-33)
7	日米関係—その6、テキスト pp. 34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。最新ビジネス用語にもふれる。
8	日英関係—その1、テキスト “I Too, Am a Bit of a Workaholic, but…” (pp. 37-41) 現代イギリス事情にもふれる。
9	日英関係—その2、テキスト pp. 38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。
10	ハイテク技術と雇用—その1、テキスト pp. 55-59 産業ロボットの導入と労使関係。
11	ハイテク技術と雇用—その2、テキスト pp. 60-64
12	イギリス事情—その1、テキスト “The Unions Were Just Too Greedy” (pp. 47-51) 日英生産性比較。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス事情—その2、テキスト pp. 52-55
2	ジャーナリズム研究—その1、テキスト “I Must Have a Little Japanese Blood” (pp. 1-5)。アメリカのジャーナリズムについて。
3	ジャーナリズム研究—その2、テキスト pp. 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。
4	ジャーナリズム研究—その3、テキスト pp. 8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。
5	アジア—その1、テキスト “Japan as a Big Brother” の ‘Help Us Stand on Our Own Two Feet’ (pp. 65-67)
6	アジア—その2、テキスト ‘The Japanese Rather Look West’ (pp. 68-70)
7	アジア—その3、テキスト ‘Do More for Our Spiritual Enrichment’ (pp. 71-73)
8	ジャパン・バッシング—その1、テキスト <i>Japan Unveiled</i> . “Japan, Not Russia, Main Threat” (pp. 2-4)
9	ジャパン・バッシング—その2、テキスト “Bashing Japan Isn’t the Answer” (pp. 6-8)
10	キャリア・ウーマン—その1、テキスト “OL-She’s Indispensable” (pp. 33-34)
11	キャリア・ウーマン—その2、テキスト “Japan’s New Breed of Office Ladies” (pp. 36-41)
12	高齢化社会の到来。テキスト Japan’s Aging Population-A Guinea Pig” (pp. 72-76)
備考	テキスト <i>Japan Unveiled</i> は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。

科目名	時事英語Ⅰ－４，５	担当者名	工藤政司
-----	-----------	------	------

講義の目標	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。従って時事英語Ⅰ－４，５では英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通曉し、国際人としての教養を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞雑誌に取り上げられた記事を通じて視野が広がったことを実感するだろう。		
講義概要	英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。		
使用教材	テキスト	プリント使用。	
	参考文献	Time, Newsweek, New York Times Weekly Review その他内外の英字新聞雑誌	
評価方法	前後期の試験各１回の成績及び出席を含む平常点をもって評価する。		
受講者に対する要望など	時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序には変更が生じる場合がある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のすすめ方についてのオリエンテーション
2	外から見た日本の政治。
3	同上
4	アメリカの政治
5	同上
6	アメリカの社会問題
7	同上
8	イギリスの政治と経済
9	同上
10	科学の現況
11	中国問題、その経済の発展と将来
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	環太平洋地域の問題。
2	工業の発展と世界の環境問題
3	同上
4	イギリスの政治と経済
5	ドイツの政治と経済
6	フランスの政治情勢を読む。
7	ロシアの現況。
8	New York Times Op Ed
9	同上 継続講義。
10	Time の Cover Story を読む。
11	同上
12	同上
備考	

科目名	時事英語 I - 6	担当者名	佐藤 真千子
-----	------------	------	--------

講義の目標	<p>本講義の目標は、時事性に富んだ様々な国際問題を捉え、国際情勢に視野を広げることで、記事内容の理解力を高め、頻用される時事用語や英語表現を養うことを目指します。</p>
-------	--

講義概要	<p>本講義では、<i>Asiaweek</i>, <i>The Atlantic Monthly</i>, <i>The Economist</i>, <i>Far Eastern Economic Review</i> 等の雑誌から、世界各地における一週間または一ヶ月の出来事が要約されている頁を教材として使用します。</p> <p>政治・外交問題を中心に取り上げ、世界の出来事を英語で正しく理解していきます。したがって語彙や記事の内容を正確に把握するために、随時、日本語の新聞や雑誌での確認は欠かせません。</p> <p>記事内容の具体的な説明について、受講者による発表を取り入れていきます。</p>
------	---

使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	

評価方法	<p>平常点、試験又はレポートにより、総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>
------	--

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	適宜、時事問題を取り上げます。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	適宜、時事問題を取り上げます。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	時事英語 I-7	担当者名	篠田 愛理
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>学習者が時事英語に慣れ、英字新聞記事が理解できるようになる基本的な読み方を指導。下記の教科書以外に、その時々最新の事件を <i>Time, Newsweek</i> 誌、日本の英字新聞等から適宜に活用。語彙学習のチェックの為に小テストも施行、時事英語理解の向上を目的とする。</p>		
講義概要	<p>各地域の背景（国際、国内問題、政治、外交、経済、産業）、関連表現、関係語彙学習にも力を入れる。できれば社会、文化、科学、教育、宗教、スポーツ、自然現象、女性問題、日本-アジア関係等のトピックにも触れたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『最新時事英語・世界を読む (<i>Newsworld '97—Getting to Know the Changing World</i>)』Wallace GAGNE/木塚晴夫共編著、マクミラン・ランゲージハウス社、プリント。</p>	
	参考文献	<p>『世界の国一覧表 1997年度用』世界の動き社、『朝日新聞ジャパン・アルマナック 1997』朝日新聞社、『TIME キーワード800 時事用語編』アルク社、その他授業中に指示。</p>	
評価方法	<p>前期、後期の二つの期末試験、夏期休暇中のレポート、平生の授業での貢献度、語彙小テストの合計点、及び出席状況によって決定。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Orientation : 授業内容、目標、予定の解説、紹介、新聞英語の語法、略語、見出し用語
2	Introduction : LIFE IN THE GLOBAL SOCIETY (1) Modernity and Postmodernity
3	(2) Technology and Social Change
4	Part 1 : NORTH AMERICA (1) Life in North America
5	(2) U. S. A.
6	(3) U. S. A.
7	(4) The Continent
8	Part 2 : ASIA (1) Life in the New Asia
9	(2) Japan
10	(3) Japan
11	(4) China
12	前期末試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期末試験の評価
2	(5) Korea
3	Part 3 : EUROPE (1) Life in the European Union
4	(2) The Continent
5	(3) Great Britain
6	(4) Russia
7	(5) Bosnia
8	Part 4 : THE THIRD WORLD (1) Life on the Margin
9	(2) Southeast Asia
10	(3) Africa
11	(4) The Middle East
12	後期末試験
備考	

科目名	時事英語 I - 8	担当者名	野村 展子
-----	------------	------	-------

講義の目標	平易な英語で内容のあるプレゼンテーションが出来るようになることを目標とする。具体的には、1. インターネットで国内外の時事ニュースにアクセスし、文字もチャートもグラフもデータも映像も全てダウンロードしてワードにペーストしたものを基礎資料として作成する。2. 図書館やインターネット上でニュースの背後にあるもの—政治、経済、歴史、民族、宗教等—をリサーチする。3. リサーチした内容を更にワードやエクセルで作業してレポートを完成させ、パワーポイントを使って平易な英語でプレゼンテーションする。	
講義概要	前期の12回は(1)VOAの2000語ニュースなどを手始めに、ニュース英語に親しむ。(2)ABCやCNNニュースを英語・日本語両方で聞き、ニュース報道に用いられる英語に慣れ、ニュース英語を理解し、発信する英語力養成をステップ・バイ・ステップで図る。(3)インターネットで世界のニュースにアクセスして映像やデータと共にニュースをダウンロードして分析し、1つのトピックを中立的立場、相反する立場、異なる側面、異なる角度から見たり考えたりする視点を養う。後期はスタートから4週間、毎週異なるキーワードを設定してリサーチする。(1)キーワードで各自が興味を持つトピックを選ぶ。(2)インターネットでニュースにアクセスして図書館他でリサーチする。(3)パワーポイントを使ってプレゼンテーションをする。11月後半からの4週間はプロジェクトにはいる。プロジェクトではキーワードから選んでリサーチした複数のトピックスの中から(1)各自が1番興味を抱いたトピックに絞り込む。(2)より深くリサーチしてプロジェクト・ペーパーに仕上げる。(3)プロジェクト・プレゼンテーションをおこなう。	
使用教材	テキスト	プリント (E-mailによる指示)
	参考文献	日本語・英語で書かれた政治、経済、民族、歴史、宗教、国際法等に関する書籍や政府刊行出版物。インターネットでアクセスして得られる資料や文献 (E-mailにより指示)
評価方法	(1)前期・後期試験、(2)リサーチ・ペーパー、(3)プレゼンテーション、(4)授業参加度・出席状況などが評価の基準となる。授業の性格上出席を重視する。総合評価は(1)40%、(2)20%、(3)20%、(4)20%	
受講者に対する要望など	E-mailやマイクロソフト・オフィス(ワード、エクセル、パワーポイント)の操作に慣れていない学生は情報センターが開催する講習会その他で上記の操作に習熟しておくことが望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の詳細を説明：受講希望者は必ず出席すること
2	文字ニュースー1：新聞のヘッドライン、リード、ボディ等の構成、to不定詞、-ing形、-ed形の表現など、ニュース英語の基礎知識を学習
3	放送ニュースー1：VOAの2000語ニュースを題材に、dictation, monitor, pair work等で内容理解を図る
4	映像ニュースー1：BBCニュースを題材に英語と日本語でニュースを視聴し、語彙力やリスニング力の養成を図る
5	文字ニュースー2：インターネットでUSA TODAYにアクセスし、OUR, VIEW・OPPOSING VIEWを題材にリサーチし、MY VIEWを基本的な英語力を駆使して発表
6	放送ニュースー2：放送ニュースを5分間テープにとり全体像を理解して、リサーチし、MY VIEWを基本的な英語力を駆使して発表
7	映像ニュースー2：CNNニュースを題材にリサーチし、MY VIEWを基本的な英語力を駆使して発表
8	文字ニュースー3：インターネット上に流れている時事ニュースを題材にリサーチし、多角的にニュースをみる視点を養う
9	放送ニュースー3：BBCラジオ放送を題材にリサーチし、多角的にニュースをみる視点を養う
10	映像ニュースー3：ABCテレビ放送を題材にリサーチし、多角的にニュースをみる視点を養う
11	プレゼンテーションー1：パワーポイントを使ってプレゼンテーション レジメは授業前日までにE-mail提出
12	プレゼンテーションー2：パワーポイントを使ってプレゼンテーション レジメは授業前日までにE-mail提出
備考	詳細は全てE-mailで指示

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	キーワード・プレゼンテーションー1：レジメは授業前日までに、レポートは授業終了後 E-mail提出
2	" - 2 : "
3	" - 3 : "
4	" - 4 : "
5	リサーチ・プレゼンテーションー1：レジメは授業前日までに、レポートは授業終了後 E-mail提出
6	" - 2 : "
7	" - 3 : "
8	" - 4 : "
9	プロジェクト・プレゼンテーションー1：レジメは授業前日までに、レポートは授業終了後 E-mail提出
10	" - 2 : "
11	" - 3 : "
12	" - 4 : "
備考	詳細は全てE-mailで指示

科目名	時事英語 I-9	担当者名	森永京一
-----	----------	------	------

講義の目標	英字新聞・雑誌やテレビ・ラジオの報道・解説などを自由に理解・活用できるようにするのが目的。あわせて国際問題や外国事情などに対する理解を深めることを目指します。	
講義概要	テキストのほか、最新の新聞・雑誌、ビデオなども使用、時事英語独特の用法などを身に付けるようにします。	
使用教材	テキスト	藤井章雄他『 <i>English for Mass Communication</i> 』1997 Edition 朝日出版社刊
	参考文献	
評価方法	前後期のテスト	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ジャーナリズム英語の特異性
3	見出しの用法、略語
4	新聞の英語と放送英語
5	政治の英語（国内）
6	政治の英語（外国）
7	経済の英語
8	経済の英語（続）
9	金融の英語
10	外交の英語
11	国際機構の英語
12	国際問題の英語
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際問題の英語（続）
2	軍事の英語
3	天気予報などの英語
4	災害・事故の英語
5	犯罪・司法の英語
6	労働関係の英語
7	環境問題の英語
8	科学の英語
9	スポーツの英語
10	芸術の英語
11	映画の英語
12	まとめ
備考	

科目名	時事英語 I-10	担当者名	W. J. Benfield
-----	-----------	------	----------------

講義の目標	To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs.	
講義概要	We will look at seven major topics over the course of the year, devoting three classes to each one. Initially we will analyze each topic through the medium of articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework leading to group presentations done in class. We will also analyze the language of news reporting and there will be regular quizzes on current events.	
使用教材	テキスト	Print and video.
	参考文献	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course outline ; student selection.
2	Review of main news stories of previous year.
3	Topic 1 : reading/viewing, discussion.
4	Topic 1 : continued.
5	Topic 1 : group presentations.
6	Topic 2 : reading/viewing, discussion.
7	Topic 2 : continued.
8	Topic 2 : group presentations.
9	Topic 3 : reading/viewing, discussion.
10	Topic 3 : continued.
11	Topic 3 : group presentations.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first semester's work.
2	Topic 4 : reading/viewing, discussion.
3	Topic 4 : continued.
4	Topic 4 : group presentations.
5	Topic 5 : reading/viewing, discussion.
6	Topic 5 : continued.
7	Topic 5 : group presentations.
8	Topic 7 : reading/viewing, discussion.
9	Topic 7 : continued.
10	Topic 7 : group presentations.
11	Review of semester's work.
12	Final examination.
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-1	担当者名	新井 妥門
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>クラスの数日前に録音した放送英語（主にCNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。</p>		
講義概要	<p>学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは使用せず、受講者は60分のカセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。</p>	
	参考文献	<p>例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書がよい。 必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。</p>	
評価方法	<p>定期試験、出席状況を含む平常点</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習により聞き取りづらい部分を確認しておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業形式についての説明
2	教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
3	学生によるディクテーション発表とそのチェック
4	同上
5	同上 教材の録音
6	学生によるディクテーション発表とそのチェック
7	同上
8	同上 教材の録音
9	学生によるディクテーション発表とそのチェック
10	同上
11	同上 聞き取りにくい語のまとめ
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション
2	学生によるディクテーション発表とそのチェック
3	同上
4	同上 教材の録音
5	学生によるディクテーション発表とそのチェック
6	同上
7	同上 教材の録音
8	学生によるディクテーション発表とそのチェック
9	同上
10	同上 教材の録音
11	学生によるディクテーション発表とそのチェック 問題点のまとめ
12	テスト
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-2	担当者名	佐藤真千子
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、アメリカが世界に発信しているCNNニュースを通して、世界の動向を知ることが目的とします。最近、“CNN factor”と呼ばれるものが研究の対象となっています。そこには、テレビニュースに写し出された海外の映像が世論に大きな影響を与えており、その結果、アメリカの対外政策も制約を受けているという現状があります。本講義では、このような“CNN factor”に注目しながら、政治・外交問題を取り上げ、そのニュースの内容を正しく理解し、分析することを目標とします。</p>		
講義概要	<p>本講義では、CNN放送から録画したテレビニュース（2～3分）とそのニュース原稿を教材として使用します。ニュース原稿は、要点を短時間に伝えているので不完全文も目立ちますが、非常によくまとまっています。その明確なニュース構成（短い挨拶、問題提起、概要の紹介、レポーターの報告、結び）、いきいきとした英語や表現に慣れ親しみながら、ニュースの内容を正しく理解することに努めます。本講義では、時事問題を単に一過性のもので捉えるのではなく、ニュースに関連する他の英語文献も活用しながら、ニュースの歴史的背景にも注目していきます。</p> <p>受講者による発表を随時取り入れていきます。</p>		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	授業にて適宜、紹介します。	
評価方法	<p>平常点、試験又はレポートにより、総合的に評価します。詳細については初回授業にて説明します。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	適宜、時事問題を取り上げます。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	適宜、時事問題を取り上げます。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-3	担当者名	森永京一
-----	---------	------	------

講義の目標	英語資料活用の能力強化を図るとともに、時事問題、国際問題への理解をさらに向上させるのが目的。ホットなテーマを選ぶことで学生諸君の関心を一層高めたいので、以下の順序には必ずしも準拠しません。		
講義概要	講義の時点での最新のニュースや問題を積極的に採り上げていきたいと考えています。テキストのほか、最新の教材を使い、できる限り受講学生諸君の要望やニーズに合わせた形で進行させたいと考えています。		
使用教材	テキスト	Wallace Gagne : NEWSWORLD '97 MACMILLAN LANGUAGE	
	参考文献		
評価方法	レポート提出およびテスト		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	政治記事の翻訳演習
3	経済記事の翻訳演習
4	金融記事の翻訳演習
5	国際関係の翻訳演習
6	社会記事の翻訳演習
7	スポーツ記事の翻訳演習
8	コラムを読む
9	コラムを読む(続)
10	海外の日本関係記事を読む
11	海外の日本関係記事を読む(続)
12	英語資料と国内資料の比較
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英文記事の書き方
2	英文記事の書き方(続)
3	英字時事週刊誌について
4	「タイム」を読む
5	「タイム」を読む(続)
6	「ビジネスウィーク」を読む
7	米英の新聞を読む
8	米英の新聞を読む(続)
9	英字広告について
10	テレビ報道特集番組
11	テレビ報道特集番組(続)
12	まとめ
備考	

科目名	ドイツ語Ⅲ	担当者名	山本 淳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>【ドイツ語セミナー】</p> <p>この授業では、以下のことを目標とします。</p> <p>◇現代ドイツ社会に関するさまざまなテキストを読み、現代ドイツ語の表現・語彙に慣れると同時に、今日のドイツ社会がどのような顔を持ち、またどのような問題を抱えているのかを知る。</p> <p>◇さらに、日本との比較という点も念頭に置きながら、それぞれのテーマに批判的検討を加え、自分の意見をまとめる。</p>		
講義概要	<p>できるだけアクチュアルなテーマ（たとえば統一後の社会、環境、家庭や教育など）を扱ったドイツ語テキストを教材として用います。ただ読み進めるだけでなく、受講生のみなさんにそれぞれのテーマについて調べてきていただき、発表していただくと考えています。テキストを素材に、一緒に現代ドイツについて考えてみましょう。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配布します。	
	参考文献	その都度指示します。	
評価方法	前・後期末各1回のレポートと授業への参加度により評価します。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語Ⅲ	担当者名	田 桐 正 彦
-----	--------	------	---------

講義の目標	<p>フランス語Ⅰ・Ⅱの学習を通じて身につけた文法知識・語彙を生かして、フランス語を読める・聞き取れる・しゃべれるようになりたい。</p> <p>そう思っている学習意欲のあるみなさんのための授業です。1年間の限られた時間を最大限に活かして、フランス語を実際にコミュニケーションの道具として使うための練習をしてみましよう。</p>	
講義概要	<p>1時間(90分)の授業を前半・後半に分けて、前半では、配布するプリントを教材に、フランス語の読解力の向上をめざします。文法事項のより正確な理解のために、文法の解説も行いますが、とにかくフランス語を正確に声を出して「読めるようになる」ための訓練に重点を置きます。1年間で、なんとか読めるようになると思います。</p> <p>後半は、簡単なフランス語会話の入門のビデオを教材に、初歩的なフランス語の聴き取り、発話の口頭練習を行います。1年間で、フランス語を耳から理解し、基礎的な会話文が口について出るように、少しずつ慣れてゆきましよう。</p>	
使用教材	テキスト	教材はこちらで用意したプリントを配布します。
	参考文献	参考書は必要ありません。
評価方法	<p>受講者の人数によって評価方法を考慮します。少人数の場合には、試験を行わなくても平常の授業で勉強ぶり、実力がはっきりとわかりますから、試験は行わないことになるでしょう。もしも人数が多い場合には、成績の公正な評価のために試験を行うことになります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>フランス語Ⅲを受講してみようというみなさんは、フランス語が好きな方でしょう。好きな語学を積極的に学ぶのは、楽しいことです。少人数の授業になると思いますので、みんなでワイワイと楽しくやりましよう。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ-1	担当者名	假名垣 宏
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>スペインの近世から内戦終了に至る歴史を中心として、それぞれの時代の代表的な文化の様相を学ぶことを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は“EL ESCORIAL”、“EL GRECO”、“CERVANTES Y EL QUIJOTE”、“GOYA”といった項目で、スペインの代表的な建造物、画家、作家について読みすすめる。</p> <p>後期は、“LOS VAIVENES DE LA HISTORIA”というテーマで、16世紀から20世紀にかけてのスペインの盛衰・浮沈を研究しながらテキストを読む。</p>		
使用教材	テキスト	<p>“VISION DE ESPAÑA—historia cultura carácter—” Enrique R. Ayúcar 著 (朋友出版株式会社)</p>	
	参考文献	<p>『スペイン帝国の興亡 1469-1716』 J・H・エリオット著・藤田一成訳 岩波書店 『概説スペイン史』 立石博高・若松隆編 有斐閣選書 『新スペイン内戦史』 川成洋・渡部哲郎著 三省堂選書 『スペイン内戦—老闘士たちとの対話—』 野々山真輝帆著 講談社現代新書</p>	
評価方法	<p>前期と後期にそれぞれ西文和訳の試験を行なう。テキストから2題、その他の著作から1題出し、通年の成績で評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>中級のテキストで、かなり難解の部分もあるが、文体に慣れ、スペインへの関心が深まるにつれ、読解力をつけることができると思う。</p>		

科目名	スペイン語Ⅲ-2	担当者名	野々山 ミチコ
-----	----------	------	---------

講義の目標	スペイン・ラテンアメリカの現代短篇小説を読み、その文化の特殊性について考える。	
講義概要	授業に用いる教材のコピーはそのつど配付する。同時に文法の復習を行なう。	
使用教材	テキスト	コピー配付
	参考文献	とくになし
評価方法	授業への参加度とテストによる。	
受講者に対する要望など	予習をきちんとしてくること。	

科目名	ドイツ語会話 I-1	担当者名	R. Briel
-----	------------	------	----------

講義の目標	<p>Die Texte und Übungen im Lehrbuch dienen als Ausgangsbasis für Gespräche auf deutsch über Japan und die deutschsprachigen Länder sowie aktuelle Themen jeglicher Art.</p> <p>Bitte nehmen Sie regelmäßig <u>und</u> aktiv am Unterricht teil.</p> <p>Kopien des Lehrbuchs (zweite Hälfte) werden zur Verfügung gestellt.</p> <p>Lehrbuch: Sprachkurs Deutsch 1, Neufassung. U. Häussermann u. a. Frankfurt, Aarau: Diesterweg, Sauerländer.</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語会話Ⅰ-Ⅱ	担当者名	C. Jobst
-----	-----------	------	----------

講義の目標	一年間でドイツ語の基礎（発音、語彙、文法）を身につけることが目標になります。	
講義概要	<p>とにかく繰り返して発音の練習をすることから始めましょう。口語での練習を中心に、文法等の説明は必要最小限にしたいと思います。そしていっしょにやさしく、かつスリリングなテキストを読んでいきましょう。テキストは第二次大戦末期に行方不明となったロシア＝プロシアの財宝『琥珀の部屋』をめぐるサスペンス物語ですので、興味をもって読み進むことができるでしょう。</p> <p>進度に関しては参加者のレベルを考慮して決めたいと思いますので「早すぎないだろうか……」などと心配する必要はありません。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>教材：琥珀の部屋</p> <p>著者：岡村三郎/Joachim Weiland</p> <p>発行所：朝日出版社</p>
評価方法	平常点及び年末試験	
受講者に対する要望など	耳からそして口からドイツ語を覚えたいと考えていらっしゃる方はどなたも大歓迎です。	

科目名	ドイツ語会話 I-3	担当者名	U. J. 川村
-----	------------	------	----------

講義の目標	<p>Entwicklung der Hörverstehens- und Sprechfähigkeit mit einfachen Dialogen zur Kommunikation im Alltagsdeutsch.</p> <p><i>Methode</i>: Hörverstehensübungen durch Zuhören, Nachsprechen, Lesen und Nachspielen der Dialoge</p>	
講義概要	<p>14 <i>Lerneinheiten</i>: Vorstellen, Informationen erfragen (Berufe, Wohnung, Arbeit, Studium), eine Bitte aussprechen, Wünsche äussern, etwas planen, Telefongespräche führen, Einkaufen, nach dem Weg fragen, über Zeit sprechen, u. s. w.</p>	
使用教材	テキスト	<i>Deutsch einfach 1 + Kasette</i>
	参考文献	INTERNATIONES Werner und Alice Beile Textbücher und Kassetten werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt
評価方法	<p>Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlusstests.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Grammatische Grundkenntnisse, Interesse an aktiver Mitarbeit, <i>regelmässige Teilnahme</i> am Unterricht</p>	

科目名	フランス語会話Ⅰ-Ⅰ	担当者名	R. Floirac
-----	------------	------	------------

講義の目標	フランス語でコミュニケーションする能力を身につける、それも「聞く・話す読む・書く」のすべての面にわたる力を養う——これが『フランス語21』の目標です。次のことを念頭において少し努力すれば、1年のうちに、大学生が実生活で必要とする最も基本的なことが、フランス語を使ってできるようになります。	
講義概要		
使用教材	テキスト	石野好一・ほか著『フランス語21』HAKUSUIISHA
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話Ⅰ－Ⅱ	担当者名	S. Giunta
-----	------------	------	-----------

講義の目標	<p>会話の基本は、自分で文章を考え、話して見ることです。今まで学んだことを役立てて、会話力をつけていくことを目的とします。</p>		
講義概要	<p>今まで学んだフランス語の初歩の表現を、会話の中で生かしていくことを学びます。LLの会話と練習は、質問に対して素早く適切な返答の習慣を身につけ、自分の考えを表現するうえで役立つでしょう。補助教材としてビデオも使用します。3年生優先で40人までとします。</p>		
使用教材	テキスト	<p>倉方秀憲ほか著 『セラヴィ 1』 早美出版社</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>レポートによって評価します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話 I-3	担当者名	Y. Perrot
-----	-------------	------	-----------

講義の目標	CE COURS PERMETTRA AUX ETUDIANTS DE MAITRISER LA CONVERSATION DE BASE.	
講義概要	NOUS TRAVAILLERONS SELON LE PRINCIPE: ECOUTER, COMPRENDRE ET REEMPLOYER.	
使用教材	テキスト	NOUS UTILISERONS DES PHOTOCOPIES.
	参考文献	
評価方法	IL Y AURA UN EXAMEN EN FIN D'ANNÉE.	
受講者に対する要望など		

科目名	スペイン語会話Ⅰ(総合)1,2(94年度以降) スペイン語会話Ⅰ-1,2(93年度以前)	担当者名	野々山 ミチコ J. L. Velasco
-----	---	------	--------------------------

講義の目標	<p>二外の三年目の授業で、スペイン語Ⅱ(総)の継続である。教科書「Modern Spanish」の二年時終了時の進度にあわせて、おおよそ13課からはじめる。再帰動詞、比較の文章、過去分詞を使った表現、および接続法の活用など、文法項目の進展にあわせて、より高度なスペイン語の総合的運用能力(話す、聞く、書く、読む)の獲得をめざす。</p> <p>この授業は、経済学部三年目の授業との合併科目になっている。経済学部では、別の教科書を使ってきたが、進度と講義の進め方に差はないので、積極的受講を期待する。</p>	
講義概要	<p>教科書「Modern Spanish」の13課から18課まで(おおよその目安である)。また、担当者によっては、プリント・ビデオなども使う。詳しい内容については、開講時に担当者が説明する。</p>	
使用教材	テキスト	「Modern Spanish」
	参考文献	
評価方法	<p>出席、年二度の定期試験、課題の提出、担当者によっては小テストなどの結果を総合的に判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>LLの授業および講読の授業(スペイン語Ⅲ)が用意されているので、同時受講を希望する。</p>	

科目名	スペイン語会話Ⅰ(LL)3(94年度以降) スペイン語会話Ⅱ(LL)2(93年度以前)	担当者名	霞 洋子
-----	--	------	------

講義の目標	<p>二外の三年目の授業で、スペイン語会話Ⅰの内容を補うLLの授業である。教科書「Modern Spanish」の二年時終了時の進度にあわせて、おおよそ13課からはじめる。再帰動詞、比較の文章、過去分詞を使った表現、および接続法の活用など、文法項目の進展にあわせて、より高度なスペイン語の総合的運用能力(特に話す、聞く)の獲得をめざす。</p> <p>この授業は、経済学部三年目の授業との合併科目になっている。経済学部では、別の教科書を使ってきたが、進度と講義の進め方に差はないので、積極的受講を期待する。</p>	
講義概要	<p>教科書「Modern Spanish」の13課から18課まで(おおよその目安である)。また、ビデオ、音楽なども使い、スペイン語の豊かな世界を体験させたい。</p>	
使用教材	テキスト	「Modern Spanish」
	参考文献	
評価方法	<p>出席、テスト、授業への積極的参加などの結果を総合的に判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語会話Ⅰとの同時受講を希望する。</p>	

科目名	スペイン語会話Ⅱ（94年度以降） スペイン語会話Ⅱ（会話）Ⅰ（93年度以前）	担当者名	霞 洋子
-----	---	------	------

講義の目標	二外の四年目の授業で、スペイン語会話Ⅰの継続である。教科書「Modern Spanish」の三年時終了時の進度にあわせて、おおよそ18課からはじまる。接続法の活用と使い方の練習が中心となる。文法項目の進展にあわせて、より高度なスペイン語の総合的運用能力（話す、聞く、書く、読む）の獲得をめざす。		
講義概要	教科書「Modern Spanish」の18課から（おおよその目安である）。四年次用の授業は、この授業だけなので、教科書以外のプリント・ビデオなどを使用し「読み」を含めた総合的な内容にしたい。詳しくは、開講時に説明する。		
使用教材	テキスト	「Modern Spanish」	
	参考文献		
評価方法	出席、年二度の定期試験、課題の提出、担当者によっては小テストなどの結果を総合に判断する。		
受講者に対する要望など			

科目名	言語情報処理 I a・b-1, 2 (94年度以降) 言語情報処理 1 (93年度)	担当者名	高柳 敏子
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、初めてコンピュータに接する英語科の学生を対象に、まずキーボードトレーニングから始め、コンピュータリテラシーの習得としてコンピュータ・コミュニケーション、ワードプロセッサ、および表計算ソフトとそのデータベースの取り扱い等を学習しながら、コンピュータの文章解析への応用を目指しその基礎を実習する。</p>		
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、近年盛んに使われるようになったネットワークについて、パソコン通信を含めて Internet によるメールの送受信等を実習する。次に、Windows 95 のもとでワープロソフト MS-Word による日本語ワープロを中心に表やグラフ等を含めた総合的な文書編集の基礎と、英文ワープロの扱いを学習する。</p> <p>後期は、MS-Excel による表計算の基礎とその応用としてデータベースの取扱いを習得しながら、MS-Excel による文章解析の基礎を学習する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定：第 1 回目の授業で指定する。</p> <p>タイプ練習ソフト (TypeQuick)</p>	
	参考文献	<p>随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>評価は、定期試験に替わる前・後期各 1 回の実習試験と同じく前・後期各 2～3 回程度のレポートおよび、出席を加味して行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習が中心の授業なので欠席しないこと。年間を通して実習用にフロッピーディスク (3.5 インチ 2HD) を 3 枚使用するので、講義開始時までに各自用意すること。</p> <p>第 1 回目の授業時に受講生を決定するので必ず出席すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータ入門(1) : Windows 95 とマウスの操作 Windows パソコンに触れる。
3	コンピュータ入門(2) : キーボードとタイピング タイピングソフトの解説とタイプ練習をする。
4	Internet (1) : mail の送受信を学ぶ。
5	Internet (2) : File の送受信 mail に添付ファイルを付けて送受信する。
6	ワードプロセッサ(1) : キーボードと日本語入力 MS-Word の起動と日本語入力システムを学ぶ。
7	ワードプロセッサ(2) : ディスク、ファイル、文書の概念 ディスクの初期設定および、文書の保存と呼び出しを学ぶ。
8	ワードプロセッサ(3) : カット&ペースト(コピー&ペースト) 文書内および文書間の文書の移動や複写を学ぶ。
9	ワードプロセッサ(4) : 表組み 文書の一部や数字部分の表組みを学ぶ。
10	ワードプロセッサ(5) : 段組み 文書の段組みを学ぶ。
11	ワードプロセッサ(6) : 英文入力処理 半角入力、ハイフネーション、スペルチェック等を学ぶ。
12	ワードプロセッサ(7) : 総合問題 ワードプロセッサの機能を使った総合的なレポートを作成する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章解析(1) : 文章解析の準備 Internet を利用して英文を選択・取得し、編集・整理し、テキストファイルとする。
2	文章解析(2) : 英文テキストファイルの入力と表計算の基礎 英文テキストファイルを使用し、MS-Excel の基礎を学ぶ。
3	文章解析(3) : 英文テキストファイルの編集 英文テキストファイルを MS-Excel 上で編集・整理する。
4	文章解析(4) : 単語の使用頻度の集計 データベース集計機能を利用し、列毎に単語の使用頻度を集計する。
5	文章解析(5) : テキスト全体の単語の使用頻度 列毎の単語の使用頻度をまとめ、テキスト全体の集計をする。
6	文章解析(6) : 単語の使用度数分布 単語の使用頻度数による分布を求める。
7	文章解析(7) : 単語の文字数分布 関数を利用して各単語の文字数を計算し、文字数分布を求める。
8	文章解析(8) : グラフの利用 単語の頻度分布や長さの分布をグラフにする。
9	文章解析(9) : 文字の使用頻度 データベース関数を利用し、文字毎の使用頻度を求め集計する。
10	文章解析(10) : 1文内の単語数の分布 列毎の文の終了記号(.!?等)の頻度から、1文内の単語数を求める。
11	文章解析(11) : KWIC インデックスの作成
12	文章解析(12) : 文章解析のまとめ 文章解析の結果を整理し、レポートを作成する。
備考	

科目名	言語情報処理Ⅱ a・b (94年度以降) 言語情報処理Ⅱ (93年度)	担当者名	前田 功雄
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>この講義では、言語情報処理Ⅰやコンピュータ概論で学んだワープロ、表計算の技術をもとにこれらのソフトを連携させながら、もっと高度な使いみちを学ぶ。特に、ワード (MS WORD) とエクセル (MS EXCEL) のデータ連携やワードのレイアウト枠機能 (文書内に貼り付ける図形やグラフを任意の位置に好きな大きさに貼り付ける機能) に熟達されたい。また EXCEL は数ある表計算ソフトの中で統計分析に定評がある。この統計分析ツールをマスターすることがこの講義の目標の一つでもある。更に、データベースや C A I (COMPUTER ASSISTED INSTRUCTION) についても学ぶ。</p>	
講義概要	<p>一言でいえば、ウィンドウズを活用した情報処理の実践的な授業である。言語研究や語学教育に適用範囲を合わせたことにより、英語学科の学生に馴染みやすい例題を多く取り入れた。とかく面倒な成績の統計処理もアプリケーション・ソフト (MS EXCEL) を使うことにより、誰でも簡単に必要な統計量 (例えば、平均とかばらつきの度合を示す標準偏差や馴染みのある偏差値等) や説得力のあるグラフが作れるよう指導する。このような実例を通して解り難い統計概念の教育における意味を明らかにする。</p> <p>もう一つの話は C A I (Computer Assisted Instruction) に関するもので、C A I 用教材の準備の仕方から学習者の利用方法の工夫について議論する。取り上げるテーマはコンピュータ・ネットワーク上の C A I システムである。</p>	
使用教材	テキスト	最初の授業時に述べる。
	参考文献	講義中随時紹介する。
評価方法	前期、後期のレポート提出と出席回数その他レポート。	
受講者に対する要望など	履修条件があるので「履修の手引」を参照のこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの仕組みと言語処理
2	ワープロとマルチメディア
3	ワープロとDTP (Desk Top Publishing)
4	ワープロ実習
5	表計算ソフトとは
6	英語教育と表計算ソフト (MS EXCEL)
7	MS EXCEL と文書解析
8	文書解析実習 I
9	文書解析実習 II
10	成績処理と MS EXCEL
11	種々の関数を使った統計値の算出
12	前期総合レポートの作成
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	成績データのグラフ表示
2	成績データと基本統計量
3	成績データをヒストグラムに画く
4	2つの項目の統計的関連—相関係数および独立性—
5	3つ以上の項目間の統計的関連—相関行列—
6	2つのクラスの成績から見た統計的比較
7	教授法を変えたことによる成績変化の統計的意味
8	成績データ処理に関するレポート作成
9	英語教育とCAI (Computer Assisted Instruction)
10	CAIとコンピュータ・ネットワーク
11	コンピュータ・ネットワーク上のCAI実習
12	総合レポートの作成
備考	

科目名	統語論 a・b (94年度以降) 統語論 (93年度) 英語文法論 (92年度以前)	担当者名	安井美代子
-----	--	------	-------

講義の目標	この講義の目標は、英語、日本語などの統語構造に関して私たちが知っていることを明確にかつできるだけ一般的に述べることにある。これには文の構造を抽象的に捉えることが必要となる。実際の統語分析を通してこの能力を習得していく。	
講義概要	生成文法統語論の基礎を講義する。扱うデータは英語が中心となるが、私たちが母国語話者としての直感を持っている日本語のデータもできるだけ取り入れ、英語との比較分析を行う。毎回受講者には具体的分析をしてもらい、それをふまえて生成文法統語論の全体像を段階的に講義していくので、欠席が重なると理解が困難になる。	
使用教材	テキスト	プリントを適宜配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. Radford: <i>Transformational Syntax</i>, Cambridge University Press. ・ A. Akmajian and F. Heny: <i>An Introduction to the Principles of Transformational Syntax</i>. MIT Press. ・ L. Haegeman: <i>Introduction to Government and Binding Theory</i>. Blackwell.
評価方法	前後期末の定期試験及び平常点による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	統語論の目標
2	句構造と句構造規則
3	続き
4	<i>he, they</i> 、「彼」などの代名詞とその先行詞の間の構造的関係
5	続き
6	<i>himself, themselves</i> 、「自分」などの再帰代名詞とその先行詞の間の構造的関係
7	続き
8	英語の受動文や 'John seems to be kind.' などの不定詞文を名詞句移動規則により分析する
9	名詞句の格表示について
10	単語が持つ統語的情報 (格付与、意味役割など)
11	続き
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期定期試験の解説
2	wh- 句移動規則による英語の疑問文の分析
3	wh- 句移動規則が関与しているその他の構文 (関係節、主題文など) の分析
4	wh- 句移動規則が従う制約について
5	続き
6	日本語の疑問文、かきまぜ規則について
7	英語の省略構文に見られる統語的制約について
8	英語の句構造の再分析および日本語の句構造について
9	続き
10	'I want to go.' などの不定詞文の分析
11	'John died young.' などに見られる形容詞とその修飾語の間に見られる構造的関係
12	まとめ
備考	

科目名	意味論 a・b (94年度以降) 意味論 (93年度) 英語学特殊講義 (意味論) 1 (92年度以前)	担当者名	神尾昭雄
-----	--	------	------

講義の目標	我々は日常至るところでことばを使っている。それは、ものを考えたり、情報を伝え合ったりするためであるが、ことばがこのような働きを持つことができるのは、ことばが意味を持っているからである。この講義では、ことばが意味を持ち、様々な情報を表わすことができるのは、ことばのどのような仕組みによるものかについて、できるだけわかりやすく考え、意味について受講者自身の認識を深めると共に、ことば全般に関して積極的に考えさせることを目標とする。	
講義概要	意味論は言語学の中でも最も研究の遅れている分野である。そのため、意味論についての体系的な基礎知識が確立されていない。したがって、本講義では第1に可能な限り体系的な基礎知識が得られるよう、担当者が様々な工夫をこらして基礎となる知識と理解を与えるように努める。第2に、そのような基礎知識と理解をまとめ、そこに見出される基本的原理を理解すべく努める。それにより、意味の研究の骨格を少しでも明らかにできるならば幸いである。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	中右 実「認知意味論の原理」大修館書店
評価方法	前・後期末の試験のほか、前期・後期それぞれの中間に中間試験を行なう。これら4回の試験の結果により、成績を評価する。	
受講者に対する要望など	担当者の講義が中心となるので、必ず出席して講義内容を理解するよう努めること。授業中の質問は大いに歓迎する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	入門。意味について考えるきっかけとなる事柄。講義の進め方。
2	入門。第1回の講義でとりあげた事柄に現在の意味論がどう答えるかをわかりやすく説明する。
3	現在考えられている意味論の枠組を大まかに説明する。
4	すでにとりあげた事柄が現在の意味論の体系の中にどう位置づけられるかを説明する。
5	事例研究（1）
6	事例研究（2）。これまでのまとめ。
7	中間試験。（ノートなどの参照は一切不可）
8	単語の意味をどのように分析するかについて。
9	単語の意味について。
10	句および文の意味について。
11	句および文の意味について（続）。
12	今期のまとめ。意味論とはどのようなものか。意味とは何かについてどのように考えるか。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期をふりかえる。前期の概要とそこから生じる疑問について。
2	事例研究（3）
3	これまでの事例研究の意味と意味理論との関連。
4	事例研究（4）
5	事例研究（5）
6	意味理論とはどのようなものか。事例研究の結果を参照しながら説明する。
7	中間試験。
8	語用論と文の解釈。
9	語用論と文の解釈（続）。
10	語用論と意味論の関係について。
11	まとめ。意味とは何かについて、どのように考えてきたか、また今後どのような発展がありうるか。
12	予備日（学会出張のため）。
備考	

科目名	音声・音韻論 a・b (94年度以降) 音声・音韻論 (93年度) 英語学特殊講義 (音声・音韻論) 2 (92年度以前)	担当者名	大西雅行
-----	---	------	------

講義の目標	音声現象を測定し、音声構造と規則性を考える。		
講義概要	音声のメカニズム、音声の生成、音声の分析と分類、音韻規則など。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ J. C. Catford: <i>A Practical Introduction to Phonetics</i>. ・ P. Ladefoged & I. Maddieson: <i>The Sounds of the World's Languages</i> ・ G. J. Borden & K. S. Harris: <i>Speech Science Primer</i>. ・ J. Clark & C. Yallop: <i>An Introduction to Phonetics and Phonology</i>. ・ J. T. Jensen: <i>English Phonology</i> ・ P. Lieberman & S. Blumstein: <i>Speech Physiology, Speech Perception, and Acoustic Phonetics</i>. 	
評価方法	定期試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	スピーチの基本構造 ①initiation (気流の起し手)
2	②phonation (発音)
3	③articulation (調音)
4	調音場所
5	同時調音
6	母音の特性
7	母音の分類と表記 (基本母音)
8	母音の音響特性
9	子音の音響特性
10	韻律特徴と音響効果
11	音声環境と音の生成
12	ストレス、イントネーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	音声表示と音韻表示
2	母音体系と子音体系
3	弁別的素性
4	音の変化—①
5	音の変化—②
6	音節
7	強勢と音調—①
8	強勢と音調—②
9	強勢と音調—③
10	リズム
11	音形分析—①
12	音形分析—②
備考	

科目名	英語史 a・b (94年度以降) 英語史 (93年度) 英語史概説 (92年度以前)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	--	------	--------

講義の目標	英語の歴史を扱うこの講義では、英語学・英文学概論による重複を避ける観点から、徹底して諸文献を渉猟し、その範囲も文字の起源から初期近代英語までに限定した。目標は OED の引用例が読めて Shakespeare や聖書の英語が抵抗なく読めるようになることである。		
講義概要	年間講義予定を見れば分かる通り、アルファベットの発生から英語で書かれた最初の文学作品のベオウルフ、14世紀の「カンタベリー物語」、そしてシェイクスピアと聖書に至るまでの英語の歴史を、手書き写本の解読によって丸で英語の絵本を見るような楽しさで身につけてもらう。教材は辞書に至るまでプリントして配付し、ビデオ上映も多用する。要は英語という文字の面白さを分かってもらいたいのである。また現代英語の問題として黒人英語やクリオール語はやはり英語史でしか扱えないものとして触れてみるつもりである。		
使用教材	テキスト	(プリント)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・Eduard Sievers: <i>An Old English Grammar</i> (AMS Press) ・Fernand Mosse: <i>Handbook of Middle English</i> (Johns Hopkins Press) ・John Holm: <i>Pidgins and Creoles</i>, (Cambridge Univ. Press) ・小野捷『英語史概説』(成美堂) ・桜庭一郎『英語史概要』(篠崎書林) 	
評価方法	成績評価は前期・後期の定期試験とレポートによる。出席を絶対条件とする。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アルファベットの起源 (文字の起こり、アルファベットの歴史)
2	英語の家系図 (世界の言語とその歴史、日本語との比較)
3	文献学の重要性、英語諸方言、クリオール語、現代アメリカのかかえる言語問題
4	Old Englishの音韻・語形・統語
5	Cynewulf's <i>Elene</i> , Caedmon's <i>Hymn</i>
6	<i>Beowulf</i> (1)
7	<i>Beowulf</i> (2)
8	<i>Beowulf</i> (3)
9	<i>Beowulf</i> (4)
10	<i>The Battle of Maldon</i> (1)
11	<i>The Battle of Maldon</i> (2)
12	<i>The Battle of Maldon</i> (3), King Alfred, Wulfstan 等
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Middle Englishの音韻・語形・統語
2	The <i>Ormulum</i> , <i>Ancrene Wisse</i>
3	The <i>Canterbury Tales</i> (1)
4	The <i>Canterbury Tales</i> (2)
5	The <i>Canterbury Tales</i> (3)
6	The <i>Canterbury Tales</i> (4)
7	<i>Troilus and Criseyde</i> , <i>The Pearl</i> , <i>Piers Plowman</i> 等
8	Early Modern Englishの音韻・語形・統語
9	Shakespeare 研究方法論
10	Shakespeare の喜劇・史劇
11	Shakespeare の悲劇・ロマンス劇
12	英訳聖書
備考	

科目名	英語学特殊講義 a・b (94年度以降) 英語学特殊講義 (93年度) 英語学特殊講義 (統語論) 3 (92年度以前)	担当者名	川崎 潔
-----	--	------	------

講義の目標	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Versioo (1611年出版) は、W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書と言えよう。AVは先方する英訳聖書の粹を集大成したものであり、そへ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。この講義では、その The Authorized Version の文法と文体への手引きを少しばかり試みたい。それはまた Shakespeare の英語への手引きともなるであろう。</p>	
講義概要	<p>The Authorized Version の文法については、現代英語との相違点を取り上げ、それをマタイ伝、特に山上の説教 (5～7章) の中で調査し、必要に応じてティンダル訳聖書 (1525-6年出版)、Revised Standard Vorsion (1946-52年出版) とともに比較検討してみたい。文体については、簡樸性、具象性・比喻・反復・併行体を取り上げる。なお山上の説教については、参考文献にあげたすぐれた講解があり、これを熟読すれば得るところ多大であろう。</p>	
使用教材	テキスト	<p>The Authorized Version (The King James Version) (現行版) プリントも配布する。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Authorized Version (A Reprint of The Edition of 1611, OUP, Kenkyusha, 1985. ・ 寺澤芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969 ・ 市河三喜『聖書の英語』研究社、1937。 ・ 荒木一雄・宇賀治正朋『英語史Ⅲ A』、英語学大系第10巻、大修館、1984。 ・ 大塚高信『シェイクスピアの文法』研究社、1976。 ・ 齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944。 ・ 井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994。
評価方法	<p>前期末と後期末にレポートを提出してもらう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業に出席し、そこで取り上げられた事項を自分で調べてもらいたい。それによって確かな知識が習得できるであろう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の人称語尾：直説法・2人称・単数・現在と過去'-(e)st'；be動詞；直説法・3人称・単数・現在'-(e)th'.. 仮定法：独立節；条件文の帰結節；仮定・非現実を含意した独立文
2	仮定法：従属節
3	疑問文の助動詞'do'
4	否定平叙文の助動詞'do'
5	命令文の助動詞'do'
6	肯定平叙文の助動詞'do'
7	時制・態の助動詞；法助動詞'shall'
8	法助動詞'will'
9	非人称動詞'behave', 'befall', 'grieve'
10	非人称動詞'happen', 'like', 'need', 'please'
11	非人称動詞'repent', 'seem', 'think'
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の活用：二重語形変化
2	動詞の活用：spake型過去形など；be動詞の語形変化
3	人称代名詞：第2人称代名詞；利害の与格；itの属格；the same；関係代名詞の先行詞
4	関係代名詞：who, which, that
5	関係代名詞：the which；what, that which, that that, that；whereofなど
6	形容詞：比較法；二重比較；形容詞の名詞化
7	副詞：形容詞の副詞用法；-s形副詞と-s欠形副詞；'of+名詞'
8	前置詞：受動態の動詞の行為者を表わす'of'；不定詞の前のfor to；前置詞のa, [an] 接続詞：接続的添辞that, as；'and'の多用
9	語順：形容詞の後置 文体：簡樸性
10	文体：具象性・比喩
11	文体：反復・併行体
12	予備日
備考	

科目名	英語学文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	四 宮 満
-----	----------------------	------	-------

講義の目標	英語の表現、文体の問題を言語学、ことに談話分析の観点から、理解させることを目標とする基礎的な研究		
講義概要	いろいろなジャンルの英語のデーターを分析するために先ず、理論方法をテキストにより解説し理解させる。		
使用教材	テキスト	<i>Discourse Analysis for Language Teachers</i> by, MaCarthy	
	参考文献		
評価方法	レポートと定期試験による		
受講者に対する要望など	英語を熱心にていねいに読む意欲あること		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業についてのオリエンテーションをする。談話分析の基礎文体論について概説する。
2	テキスト第一章について解説（談話分析とは）
3	"
4	第1章の課題研究
5	第2章について解説（文法との関連）
6	"
7	第2章の課題研究 "
8	第3章について解説（話しとの関連） "
9	" "
10	第3章の課題研究
11	第4章について解説（言類論との関連）
12	" "
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第4章の課題研究
2	第5章について解説 "
3	（話しことがとの関連） "
4	第5章の課題研究
5	第6章について課題研究 "
6	（書きことばとの関連） "
7	第6章の課題研究
8	データ分析（1） "
9	データ分析（2） "
10	データ分析（3）
11	まとめ
12	まとめ
備考	

科目名	英米文学史 a (英) 1・b (英) 1 (94年度以降) 英米文学史 2 (93年度) イギリス文学概論 (92年度以前)	担当者名	佐藤 勉(前期) 富士川和男(後期)
-----	---	------	-----------------------

前期

講義の目標	この授業ではイギリス文学の歴史をAnglo-Saxon時代から1970年代の現代までを概観するものである。そのために3つの目標を定める。イギリス文学の主たる作品のReading Listsを作成する。秀れた文学作品がどんな風に作者の人生と思想を反映し、その時代精神とその国の歴史の理想を指し示しているかを学ぶ。イギリス文学がどのような形態を持ち、どのような思潮的發展を遂げてきているかなど批評的な解釈を試みる。		
講義概要	1) 時代ごとに簡潔な歴史的社会的状況を梗概しながらその時代の文学の特質との関連を述べる。2) 必須の文学用語 lists を参考に文学の読み方を学ぶ。3) 授業は指定したテキストにそって読み進める。4) 読み進めるページをあらかじめ指示するのでその予習をして授業に出席することが必要である。		
使用教材	テキスト	Ifor Evans: <i>A Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1990). ¥1760.	
	参考文献	日本語による参考文献は各自見付けること。したがって英文のもののみ挙げる。 William J. Long: <i>English Literature</i> (Ginn & Co., 1945), Stephen Coote: <i>The Penguin Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1993), Andrew Sanders: <i>The Short Oxford History of English Literature</i> (O. U. P., 1994), Pat Rogers (ed): <i>An Outline of English Literature</i> (O. U. P., 1992), Robert Bernard: <i>A Short History of English Literature</i> (Blackwell, 1994).	
評価方法	授業への出席と前期の筆記試験によるが、レポートの提出を求めることがある。		
受講者に対する要望など	文学に興味があり、作品を読むことに時間を惜しまない学生、および大学院に進学を希望する学生は是非受講して戴きたい。		

後期

講義の目標	イギリス文学が生んだ代表的作品を歴史のパースペクティブから概観し、特に各時代背景との関係を中心に考察する。その底部には、文化をもっている人間社会は、なぜ文学を生む人と、それを受容する人との関係を内包しているかという問題が存在している。		
講義概要	擬古典主義時代(18世紀)から現代にいたる文学史を講義形式で行なう。イギリス文学の特色を探ぐる。		
使用教材	テキスト	a-1 テキスト継続使用	
	参考文献	講義形式をとる。特に参考文献は指定しないが、個人的に相談があれば応じる。	
評価方法	期末に試験を行なう。		
受講者に対する要望など	講義内容は、英語を専攻する者にとって、常識として最低限の知識であると思う。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第一章 Before the Conquest についての通読と講義。アングロサクソンから中世までを一気に終える予定である。第二章 English Poetry from Chaucer to Donne までを扱う。Chaucer, Gower, Gawain-Poet, Romamance などについて通読と講義。
2	前の授業の継続
3	第二章の続き。New Way in English Poetry, Wyatt, Surrey, Sidney, Spenser, Shakespeare を含む Elizabethan Poets までを扱う。第三章 English Poetry from Milton to Blake についての通読と講義。John Milton, Dryden, Alexander Pope, まで。
4	前の授業の継続
5	第四章 The Romantic Poets についての詳細な内容を通読し講義する。主要な詩人たちの時代的思想的背景をその詩人たちとともに概観する。第四章の続き。Wordworth, Coleridge, Lord Byron, P. B. Shelley, そしてロマン派のきら星、詩人 John Keats までを扱う。
6	第五章 English Poetry from Tennyson を通読し、そのポイントを講義する。Robert Browning, Matthew Arnold, Edward Fitzgerald まで。第五章の続き。T. E. Eliot, Gerard Manley Hopkins, W. B. Yeats, W. H. Auden, C. D. Lewis, Dylan Thomas, までを通読する。
7	前の授業の継続。
8	第六章 English Drama to Shakespeare を通読し、演劇の土台としての University Wits について講義する。第六章の続き。演劇の形態、Comedy, Tragedy の伝統——ギリシャにおけるドラマの本質、その主な作品の紹介をする。
9	前の授業の継続。
10	第七章 Shakespeare に入る。イギリスのルネッサンス時代的背景とその特質を説明する。Shakespeare の伝記を知る。第七章の続き。Shakespeare の作品に関する部分を通読するとともに、彼の四大悲劇について主要なポイントを講義する。
11	第八章 English Drama from Shakespeare to Sheridan を通読しながら、その後のイギリスのドラマの様子を Ben Jonson を中心にみる。第八章の続き。その後の演劇の変貌と衰退を時代の流れと併せながらみる。Beaumont と Fletcher, Wycherley, Congreve, John Gay まで。
12	第九章 English Drama from Sheridan を通読する。この章の中心は G. B. Shaw, T. S. Eliot, Noel Coward, John Osborne, Samuel Beckett である。及び前期の授業のまとめとテスト要領を活かす。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	18世紀イギリス文学 1 詩 ドライデン、ポープ、サムエル・ジョンソンの文芸批評論、自然詩と冥想詞
2	18世紀イギリス文学 2 小説 近代小説の出現 デフォ、スイフト、リチャードソン、フィールドング
3	ロマン主義 1 詩 ワーズワース、コールリッジ、 批評 ロマン主義文芸批評論
4	ロマン主義 2 小説 ウォルター・スコット ジェイン・オースチン
5	ヴィクトリア朝文学 1 詩 テニソン、ブラウニング、マッシュウ・アーノルド、A. E. ハウスマン
6	ヴィクトリア朝文学 2 小説 ディケンズ、サッカレー ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット
7	小説 ギヤスケル・スチーヴンソン トマス・ハーディ、オスカー・ワイルド
8	20世紀文学 (1920年代まで) 詩 イエイツ、T. S. エリオット、ロバート・グレイヴス 小説 ヘンリ・ジェイムズ、コンラッド
9	(1940年代まで) 詩 戦争詩人たち 小説 ロレンス、ジョイス、ウルフ、フォースター
10	(第2次大戦後) アングリー・ヤングメン、フェミニズム
11	総括 1 男性作家と女性作家
12	総括 2 文芸思潮と18-20世紀
備考	

科目名	英米文学史 a (米) 2・b (米) 2 (94年度以降) 英米文学史 1 (93年度) アメリカ文学概論 (92年度以前)	担当者名	秋山 武夫
-----	---	------	-------

講義の目標	植民地時代から現代にいたるまでの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらう。	
講義概要	アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。西へ西へと進んだ開拓時代、フロンティアの消滅、資本主義の形成、奴隷制、南北戦争、自然主義、「失われた世代」などを背景として登場する作家について講義する。	
使用教材	テキスト	ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』(太陽社)
	参考文献	『アメリカ文学を読む 30回』(太陽社)
評価方法	試験、提出物	
受講者に対する要望など	講義した作品を数多く読んでほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクションとしてアメリカ文学の特質を語る。作家は孤独で、社会の Outsider であった。
2	アメリカ文学の中に厳然と存在している Puritanism (清教主義) を歴史的に語り、現代文学、文化との関係を概説する。D. H. Lawrence はアメリカ文学には「狂気」の血が流れていると言っている。
3	Puritanism を体現している Anne Bradstreet と Edward Taylor の文学、及び Jonathan Edwards を語る。敬虔で素朴で、いかめしいアメリカの源泉を探りたい。現在のアメリカでは「神への回帰」が叫ばれている。
4	典型的なアメリカ人の原型と言われる Benjamin Franklin の <i>Autobiography</i> の特徴を考える。
5	心やさしいクエーカー教徒ジョン・ウールマンの日記と「アメリカ文学の父」と言われる Charles Brockden Brown について述べる。
6	James Fenimore Cooper の「革脚紳物語」を概説し、アメリカ文化の原点となっている問題点を指摘する。
7	Unitarianism の開祖となった W. E. Channing とその延長として生まれた Transcendentalism (超絶主義) の作家達 (R. W. Emerson, H. D. Thoreau) について講義する。
8	アメリカ作家としてヨーロッパで高い評価を受け、アメリカ文学の問題点を提出していた Washington Irving の短編小説について語る。リップ・ヴァン・ウインクルってどんな人でしょう？
9	不幸な生涯を送ったにもかかわらず、不滅の天才と受容されている E. A. Poe の短編小説、詩論、詩について述べる。平均的なアメリカ人がどうして Poe を「病的な人」と言うのか考える。
10	大作家 Nathaniel Hawthorne の代表作『緋文字』と短編小説について述べて、彼の特徴を語る。彼の言う「罪」とは？
11	アメリカ最大の作家と言われる Herman Melville と「世界10大小説」の一つとされる『白鯨』について考える。
12	リズムと活気に溢れた詩人 Walt Whitman の <i>Leaves of Grass</i> (『草の葉』) の特異性をさぐる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マーク・トウェーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家と言われているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。
2	ヘンリー・ジェイムズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短篇をいくつかとりあげたい。
3	エミリー・ディキンソンは生涯独身、後半生25年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終りが来る前に」などと歌う詩人です。
4	「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『歓楽の家』のリリー・パートの可憐な姿を伝えたい。
5	現実主義文学を提唱したハウエルズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったのかを考える。
6	1945年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、深刻な問題作『アメリカの悲劇』をとりあげる。
7	手工業から大工業へ移り変わる時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダースンの『フィンズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説を論述。
8	第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツジェラルドの『偉大なるギャッピー』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る「失われた世代」の作家像を紹介する。
9	「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し彼が捕らえた20世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。
10	『陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。
11	徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、『黒衣の道化師』、『ウォッシュ』、『くまつづらの香り』等にふれつつ、論じる。
12	『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960年のはじめに愛犬のプードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。
備考	

科目名	英米の小説 a-1・b-1 (94年度以降) 英米の小説 1 (93年度) イギリス文学各論 (小説) 1 (92年度以前)	担当者名	北澤 滋久
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>—D. H. ロレンス小説論—</p> <p>小説家、D. H. Lawrence (1885-1930) の芸術と思想について、4期に大別してできるだけわかりやすく、かつ詳しく講義して、受講者の興味を誘いたいと思っております。これによって、この作家の洞察した同じ機械文明下に生きるみなさんの人生にひとつの指標を提供することが、20世紀イギリス小説の一典型を紹介することとともに、この講義の主たる目的です。</p>		
講義概要	<p>ロレンスの長編小説を主軸に、ときに詩作等を織り込みながら、彼の文学の特質を語ります。いまは世紀末、新世紀に向かって生きる指針を、この講義から見いだしてもらえたらよいと思っております。例えば昨今でいうところのエコロジー問題にも奥深いヒントが得られるはずです。更なる概要は、別表の年間講義予定の項をご覧ください。</p>		
使用教材	テキスト	<p>下記の自著にほぼ準拠して講義しますが、購読を強要しません。図書館に在ります。 北澤滋久『D. H. ロレンス：その文学と人生』 墨水書房</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Cambridge Edition of the Works of D. H. Lawrence ・ The Cambridge Edition of the Letters of D. H. Lawrence ・ Penguin Books of the Works of D. H. Lawrence ・ 井上義夫 『評伝 D. H. ロレンス』 I～III 小沢書店 ・ キース・セイガー 『図説 D. H. ロレンスの生涯』 研究社出版 <p>その他の参考文献の詳細は、随時講義時間内で紹介します。</p>	
評価方法	<p>前期の小論文（9月末提出）と後期の試験において評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講読とは異なり講義科目ですから、時間中に英文を翻訳することなどはせずに、専ら講師の理解するところを語ってゆきますが、質問を歓迎します。小人数なれば、ディスカッションの時間も毎回設けたく思っています。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに：ロレンスの文学の概略及び講義の概要と質疑応答
2	第1期の主題総覧：ロレンス文学の発生
3	The White Peacock について
4	The Trespasser について
5	Sons and Lovers について1：Paul とその母、Gertrude を主題に
6	Sons and Lovers について2：Paul とその恋人、Miriam, Clara を主題に
7	第2期の主題総覧：Frieda との結婚にも触れて
8	The Rainbow について1：Ursula に至るまでの Brangwen 家の女性たちを主題に
9	The Rainbow について2：Ursula Branguen 論
10	Women in Love について1：Gerald と Gudrun を主題に
11	Women in Love について2：Rupert と Ursula を主題に
12	前期のまとめ：質疑応答
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3期の主題総覧：love-urge と power-urge ということ
2	Aaron's Rod について
3	Kangaroo について
4	The Plumed Serpent について1：dark god の教理を主題に
5	The Plumed Serpent について2：女性たちのキャラクターを主題に
6	第4期の主題総覧：reciprocity of tenderness への転換
7	第4期に至る道程としての、The Ladybird について
8	The Man Who Loved Islands, The Man Was through with the World の位置をめぐって
9	The Man Who Died について
10	Lady Chatterley's Lover について
11	生と死のファンタジィ：ロレンスの宇宙観
12	質疑応答：総括にかえて
備考	

科目名	英米の小説 a-2・b-2 (94年度以降) 英米の小説 2 (93年度) イギリス文学各論 (小説) 2 (92年度以前)	担当者名	吉元清彦
-----	--	------	------

講義の目標	われわれは今日、文学をどう捉え（考え）ているのか、もしくはどう捉えようとしているのか？ 現代アメリカの作家たちはその作品を通して、つまり「言葉」による表現芸術としての「作品」によって、いかなる「世界（時代・人間）像」を提示しようとしているのか、について考える。	
講義概要	第二次世界大戦後以降のアメリカ文学の状況を、主として「小説」を中心に重要な作家たちの思想風土にも言及しながら概観し、作品が語りかけてくるものについて考えてゆきたい。 後半は J. D. Salinger の作品を取りあげ、考察・検討を加えてゆく予定。（尚、毎授業の冒頭に著名な作家たちの作品のテープを聴いて楽しむことにしよう。）	
使用教材	テキスト	授業開始日に、参考文献等と一緒に紹介する予定。
	参考文献	同上。
評価方法	前期はレポート提出、後期は筆記試験を実施し、この両者の成績を総合して評価を出す予定。	
受講者に対する要望など	とにかく、いろいろたくさん読んでもらいたいのでは。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容・方針の案内・説明。
2	序 文学をどう捉える(考える)か (テープ: Washington Irving: Rip Van Winkle)
3	同 上 (テープ: Nathaniel Hawthorne: Young Good Man Brown)
4	同 上 (テープ: Edgar Allan Poe: The Tell-Tale Heart)
5	本論 1. 2、30年代の作家たち (テープ: Frank Stockton: The Lady of The Tiger ?)
6	2. Survival という強迫観念——現代アメリカ作家の思想風土 (テープ: M. Twain: The Notorious Jumping Frog of Calaveras County)
7	同 上 (テープ: Mark Twain: What Stumped the Blue Jays ?)
8	同 上 (テープ: Bret Hart: The Outcasts of Poker Flat)
9	3. 4、50年代以降のアメリカの作家たち (テープ: Ambrose Bierce: An Occurrence at Owl Creek Bridge)
10	4. ヌダヤ系アメリカの作家たち (テープ: Hamlin Garland: The Return of a Private)
11	5. 黒人作家たち (テープ: O. Henry: The Gift of the Magi: The Furnished Room)
12	6. 文学批評について (テープ: Stephen Crane: An Episode of War)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	5. J. D. Salinger の作品 (<i>Nine Stories</i> より) (テープ: Jack London: To Build a Fire [beginning])
2	5 の 1. "A Perfect Day for Bananafish" を読む (テープ: Jack London: To Build a Fire [concluded])
3	同 上 (テープ: Sherwood Anderson: Unlighted Lamps)
4	5 の 2. "Uncle Wiggily in Connecticut" を読む (テープ: Ring Lardner: Haircut)
5	同 上 (テープ: Robert Benchley: The Treasurer's Report)
6	5 の 3. "Just Before the War with the Eskimos" を読む (テープ: James Thurber: Interview with a Lemmign)
7	同 上 (テープ: Ernest Hemingway: Indian Camp)
8	5 の 4. "For Esmé—with Love and Squalor" を読む (テープ: Ernest Hemingway: The End of Something)
9	同 上 (テープ: Ernest Hemingway: The Killers)
10	同 上 (テープ: William Faulkner: A Rose for Emily)
11	6. まとめ(次への一歩のために) (テープ: John Updike: A & P)
12	同 上 (テープ: Request のあったもの)
備考	

科目名	英米の詩 a・b (94年度以降) 英米の詩 (93年度) 英米文学特殊講義 (英米の詩) (92年度以前)	担当者名	原 成 吉
-----	--	------	-------

講義の目標	まず、詩を楽しむことから始め、アメリカという異文化の鏡を使って、私たちが生きている時代を考える。		
講義概要	アメリカ先住民の口承詩(うた)、カウンター・カルチャーの時代、そしてポスト・ベトナム時代の Rock Music の Lyric から始め、19世紀の Emily Dickinson, Walt Whitman、20世紀のモダニスト詩人——Ezra Pound, T. S. Eliot, William Carlos Williams, Wallace Stevens, H. D., Marianne Moore, e. e. cummings——そしてポストモダンの「ビート派」、「告白派」、「フェミニスト」と呼ばれている詩人たちの作品を紹介する。個々の詩作品を文学史的な知識ではなく、「私たちの時代」というコンテキストから論じる。		
使用教材	テキスト	Geoffrey Moore (ed.), <i>The Penguin Book of American Verse</i> (Penguin)	
	参考文献	Jay Parini (ed), <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York: Columbia University Press, 1933) 亀井俊介・川本皓嗣 編『アメリカ名詩選』(岩波文庫)	
評価方法	授業への参加度と年2回のレポート(ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論)で決める。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカの大地の歌—Native American のうたをきく。
2	Cock Music の Lyrics を読む (1) —ヴェトナム戦争の時代
3	Cock Music の Lyrics を読む (2) —ポスト・ヴェトナム時代
4	デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン
5	ミクロコスモスのなかのマクロコスモス—女性詩人 Emily Dickinson の世界
6	モダニズムの起源を探る— (1) Ezra Pound がみた東洋
7	モダニズムの起源を探る— (2) H. D. がみたギリシャ
8	詩に描かれた現代人の苦悩—T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” を読む
9	“Here & Now” の詩の世界—William Carlos Williams のみたアメリカの美学
10	「究極の虚構のうた」—Wallace Stevens の “Sunday Morning” を読む
11	小文字の「私」がつくる “typography” の詩— e. e. cummings の詩の「意味」
12	音節がつくる華麗なる詩—Marianne Moore の “The Fish” を追って
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Beat Poets (1) —Allen Ginsberg の作品
2	Beat Poets (2) —Gary Snyder の作品
3	Confessional Poets (1) —Robert Lowell の作品
4	Confessional Poets (2) —Sylvia Plath の作品
5	Black Mountain School Poets (1) —Robert Creeley の作品
6	Black Mountain School Poets (2) —Denise Levertov の作品
7	New York School Poets (1) —Frank O'Hara の作品
8	New York School Poets (2) —John Ashberry の作品
9	Feminist Poets (1) —Adrienne Rich の作品
10	Feminist Poets (2) —Diane Wakoski の作品
11	Black Poets (1) —Imamu Amiri Baraka の作品
12	Black Poets (2) —Nikki Giovanni の作品
備考	

科 目 名	英米の演劇 a・b (94年度以降) 英米の戯曲 (93年度) イギリス文学各論 (戯曲) 3 (92年度以前)	担当者名	長谷部加寿子(前期) 児嶋一男(後期)
-------	--	------	------------------------

前 期

講義の目標	シェイクスピア劇作品を中心に、イギリス・ルネッサンスの演劇風土と思想を考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容してきたかを考察する。役者、舞台、演出の変容等を探求した後、現代のシェイクスピア劇を研究する。		
講義概要	イギリス・ルネッサンスの時代精神と演劇風土を概観した後、シェイクスピアの劇作品に焦点を合わせる。歴史劇、喜劇、悲劇、問題劇、ロマンス劇の中の代表的な作品を取り上げる。役者や舞台、演出の変遷等を含めた演劇史や批評史、現代のシェイクスピア劇、特に東京での舞台などにも言及する。		
使用教材	テキスト	長谷部加寿子『シェイクスピアに於る人間群像』高文堂出版社	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	年二回の筆記試験と、年一回の観劇レポートが課せられる。		
受講者に対する要望など			

後 期

講義の目標	現代を代表する英米の劇作家の作品を読みながら、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることをまずは認識する。続いて、現代英米文化について、特に英米の現在の時代風潮がどういうふうに現代演劇に示されているかについて考える。		
講義概要	現代のロンドンとニューヨークの演劇事情を概観した後、現代英米の劇作家を取り上げ、主な劇作品を読んでいく。その他に、東京で上演される現代演劇について随時考える。本読みもしくは立ち稽古の有志を受講生から募り、舞台の雰囲気鑑賞できるようにする。		
使用教材	テキスト	児嶋一男ほか：『現代英米の劇作家たち』英潮社	
	参考文献	・プリント ・そのつど、講義中に言及する。	
評価方法	定期試験中の筆記試験と、観劇レポート提出が課せられる。		
受講者に対する要望など	実際に舞台の上演を見られないので、教室では映画化されたものの一部を上映することで、間に合わせることがあります。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関係、及び劇の発生から中世劇（神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇）について述べる。テキストの中の別表でシェイクスピアと同時代劇作家達の作品を概観する。
2	この時代の劇作品の一覧（プリント）、シェイクスピア劇作品を4期に分け各時期の演劇的展開及び特徴を具体的に考察する。歴史劇全体の概観とテーマの解説・特徴などについて述べる。
3	歴史劇の第1の4部作、「ヘンリー6世」1部・2部・3部、及び「リチャード3世」を具体的なせりふを通じて見ていく。「リチャード3世」の上演、批評の変遷、及び現代の名優達の演技等についても言及する。
4	第2の4部作「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部2部及び「ヘンリー5世」について述べる。喜劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。
5	「間違いの喜劇」「じゃじゃ馬ならし」「真夏の夜の夢」「ヴェニスの商人」について述べる。見間違えや思い違いによる喜劇的要素、劇構造のテクニク、演出の変遷等について述べる。
6	「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴ってダイナミックな劇展開をするなかで、円熟した喜劇の様相を見せている事を考察する。
7	悲劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ロミオとジュリエット」「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台や映画などについても言及する。
8	「オセロー」について述べる。イアゴの解釈の変化や名優達の演技についても触れる。
9	「マクベス」について述べる。舞台や映画の「マクベス」や、精神分析的症候の好例として研究されるマクベス夫人の夢遊病についても考察する。
10	「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、当時の自然観、人間観を表現すると同時に、時代を超えた人間の深い悲しみを映し出している。
11	ローマ史劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれる作品群について述べ、次にロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「冬物語」「嵐」について述べる。
12	シェイクスピア劇全体を展望し、各時代がどのような受容と変遷を経て来たかを考察する。現代にとってシェイクスピアとは何かという問題を、私の立場から考察する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	切符の入手から観劇までを概説した後、ロンドンとニューヨークの現代演劇事情を概観する。
2	Samuel Beckett (1906-1989): <i>Waiting for Godot</i> 『ゴドーを待ちながら』 (1952)
3	John Osborne (1929-95): <i>Look Back in Anger</i> 『怒りをこめてふり返れ』 (1956)
4	Tom Stoppard (1937-): <i>Rosencrantz and Guildenstern are Dead</i> 『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』 (1966)
5	Michael Frayn (1933-): <i>Noises Off</i> 『舞台裏の騒ぎ』 (1982)
6	Brian Friel (1929-): <i>Dancing at Lughnasa</i> 『ルーナサの踊り』 (1990)
7	Tennessee Williams (1911-83): <i>The Glass Menagerie</i> 『ガラスの動物園』 (1945)
8	Arthur Miller (1915-): <i>Death of a Salesman</i> 『セールスマンの死』 (1949)
9	Edward Albee (1928-): <i>Who's Afraid of Virginia Woolf?</i> 『ヴァージニア・ウルフなんか恐くない』 (1962)
10	Sam Shepard (1943-): <i>Buried Child</i> 『埋められた子供』 (1978)
11	David Mamet (1948-): <i>Glengarry Glen Ross</i> 『グレンギャリー・グレン・ロス』 (1983)
12	Neil Simon (1927-): <i>Brighton Beach Memoirs</i> 『ブライトン・ビーチの思い出』 (1984)
備考	

科目名	英米文学文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	園部明彦
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>前期は、T. E. Hulme の <i>Speculations</i> から <i>Bergson's Theory of Art</i> を、後期は、K. Burke の <i>Language as Symbolic Action</i> を通して、言葉の問題をさまざまな面から考えて見たい。</p>	
講義概要	<p><i>Speculations</i> は、イマジズムの詩運動を生み、エリオットをはじめ現代文学に多大な影響を及ぼし、文学におけるその後の潮流を予見するものと高く評価されている。また、<i>Language as Symbolic Action</i> は、単に理論だけにとどまらず、実際の作品への言及がきわめて豊富で、Burke 自身のシステムがそこに明確に示されている。両書とも、見方によっては、文学のありかたそのものを一変させるような強烈な起発力を秘めている。その内容は、文学だけにとどまらず、哲学、心理学、美学、民俗学、論理学など多岐にわたっており、われわれにとっては難解きわまりない。授業では、ただ読むだけでなく、内容についてもできるだけ詳細に検討していく。</p>	
使用教材	テキスト	T. E. Hulme : <i>Speculations</i> , K. Burke : <i>Language as Symbolic Action</i> (プリント)
	参考文献	
評価方法	<p>毎時間、講義の時間のなかで、テキストだけでなく、できるだけ多くの資料のなかから課題を出し、受講者全員にその場で答案を作成してもらう。成績は、この毎回の答案の合計点数によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>遅刻ほど講義に水をさすものはない。よい講義を期待するなら、最低限のきまりだけは守って欲しい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	<i>Speculations</i> より <i>Bergson's Theory of Art</i> の 1)、2)、3) について。 〈芸術の自発生〉、〈美的直感〉とは。
2	同書 4)、5)、6)、7) について。〈しなやかな実在〉とは。
3	同書 8)、9) について。ショウペンハウアーの〈芸術による盲目意志からの解脱〉とは。
4	同書 10)、11) について。芸術家にとっての〈発見〉とは。
5	同書 12)、13)、14) について。ヒュームの言う〈counter〉とは。
6	同書 15) について。〈直覚の型〉とは。
7	同書 16)、17)、18) について。〈生硬な抽象〉とは。
8	同書 19)、20)、21) について。〈言葉を映像化する〉とは。
9	同書 22)、23)、24) について。〈イメージの創造〉とは。
10	同書 25)、26)、27) について。〈諸情緒の最小公分母〉とは。
11	同書 28)、29) について。〈実在との接触〉とは。
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	K. Burke の <i>Language as Symbolic Action</i> から Mind, Body, Unconscious について (1)、(2)
2	(2 a)、(2 b)
3	(3)、(4)
4	(5)
5	(6)、(7)
6	(8)
7	primal とは
8	jingle とは
9	lexical とは
10	entelechiial とは
11	tautological とは
12	まとめ
備考	

科目名	英米の社会と思想 a・b (94年度以降) 英米の社会と思想 (93年度) 英米の哲学 (92年度以前)	担当者名	荻間寅男
-----	--	------	------

講義の目標	<p>ジェントルマンとアマチュア主義により代表される宗教改革・科学革命・市民革命・産業革命と近代西欧を精神・物質世界の両面において先導してきたアングロ・サクソン思想の特質を、その起源から歴史的に展望することにより、分ち難く結びついた英米の社会と思想との一層の理解をはかるとともに、そこに潜む古典への憧憬の根底を検討したい。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	使用せず。ただし、資料をプリントし配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイリー『十八世紀の自然思想』みすず書房 ・マッキンタイア『美徳なき時代』みすず書房 ・マッキンタイア『西洋倫理思想史』上・下 九大出版会 ・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房 ・マクファーレン『イギリス個人主義主義の起源』リプロポート ・吉田健一『英国に就て』ちくま文庫 ・吉田健一『英国の文学』岩波文庫 	
評価方法	指定した図書についてのレポートを基本とする。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英米思想と西欧精神
2	西欧精神の源流
3	先住民とローマ人
4	キリスト教の渡来と普及
5	イギリスのスコラ主義
6	ルネッサンスと宗教改革
7	イギリス宗教改革
8	モアと北方ルネッサンス
9	フランシス・ベーコンと科学革命
10	トマス・ホッブス
11	ジョン・ロック
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ニュートンと王立協会
2	ヒュームとスミス
3	功利主義と産業革命
4	18-9世紀の宗教運動
5	実証主義と進化論
6	唯美主義とブルームズベリ
7	大衆社会と分析哲学
8	アイルランド
9	トクヴィルとデモクラシーの逆説
10	プラグマティズム
11	亡命知識人
12	まとめ
備考	

科目名	英米の政治と経済 a・b (94年度以降) 英米の政治と経済 (93年度) 英米の経済 (92年度以前)	担当者名	宮川 淑
-----	--	------	------

講義の目標	科目名は「英米の経済」だが、本講では、近代化の始まる16世紀から現代までのイギリスの政治と経済が対象となる。	
講義概要	1、近代化の始期（中央集権国家体制へ、市場経済の時代へ）、2、市民革命の時代（国家主権をめぐる内乱、資本主義経済へ）、3、市民社会（ホッブズ・ロックの市民社会論、スミス経済学、アメリカ植民地の独立）、4、産業革命当時の政治と経済（民衆の生活状態、政治改革）、5、労働党政権の時代（産業国有化と福祉国家の展開、イギリス病へ）、6、サッチャー政権以後の順に講義する。	
使用教材	テキスト	特定のテキストは使用せず、授業のつど資料を配布する。
	参考文献	世界歴史体系『イギリス史』2、3、(山川出版社) 中村英勝『イギリス議会史』(有斐閣) 宮川淑『西洋経済史』(法学書院) 宮川淑『レヴェラーズ』(エ・デュース) 小笠原欣幸『衰退国家の政治経済学』(勁草書房)
評価方法	前・後期の2度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今日までのイギリスは、数度の転換期を経ている。最初にその全過程の概略を説明する。
2	第1章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会などを扱い、中央集権国家体制の成立について。
3	第2週の後半部分を扱う。
4	重商主義について、16、17、18世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の3段階の説明。
5	エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。
6	先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。
7	近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。
8	マニュファクチャ―（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。
9	第2章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と議会。
10	政体論争―混合王制か議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。
11	市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。
12	先週からの継続。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3章 市民社会。トマス・ホブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。
2	アダム・スミスの経済学の解説。
3	イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとってもつ政治的・経済的意味を考える。
4	イギリス議会の改革とエドモンド・バークの政治思想について。
5	第4章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。
6	労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。
7	政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。
8	先週からの継続。
9	第5章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。
10	第6章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）の説明。
11	サッチャー政権第二期（1983～87）の説明。
12	サッチャー政権第三期（1987～90）および現在のメイジャー政権について。
備考	

科目名	英米の歴史 a・b (94年度以降) 英米の歴史 (93年度以前)	担当者名	佐藤唯行
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会から現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指し続けたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。(後期) 多人種・多民族社会アメリカに生きる代表的なエスニック集団の歴史について個別に勉強します。具体的には黒人、ヒスパニック系、中国人、日系人、インディアン、ユダヤ人などが扱われます。</p>		
講義概要	<p>前期のテーマは、「ユダヤ人問題の視点からイギリス史を見なおす。」 後期のテーマは、「多人種・多民族社会アメリカのエスニック・ヒストリー」 後期は毎回、文章化されたレジメを配布予定。前期は下記「テキスト」にそって授業を行います。</p>		
使用教材	テキスト	『英国ユダヤ人』 佐藤唯行 (1995年) 講談社選書 1500円	
	参考文献		
評価方法	<p>前期は定期試験によって評価を決定する。試験問題は20題の選択形式。全てのものを持ち込むことが可能です。 <u>後期はレポートによって評価する。</u></p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(儀式殺人告発の神話) キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である1144年のノーリッジで発生した「聖ウイリアムの殉教」を検証し、中世英国ユダヤ人史を研究する意味を確認する。
2	(中世英国のユダヤ人社会) ノルマン征服後、英国に成立したユダヤ人社会の特質を同時代の大陸との比較の中で明らかにする。当時の反ユダヤ主義的筆致の絵画史料も解説する。
3	(ユダヤ人と非ユダヤ人の関係史) 中世英国の主要な社会集団である諸侯・騎士、教会、都市とユダヤ人との個別の関係を探る。
4	(ユダヤ人金融の潜在的機能) 中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果してきた事を史料的に解明し、1290年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。
5	(英国ユダヤ人史の中間時代) 1290年の全面的ユダヤ人追放から1656年に再入国が許される迄の366年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。
6	(千年王国思想とユダヤ人再入国) ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想が Cromwell 政権下の1656年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。
7	(17世紀英国のユダヤ人社会) 17世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。
8	(18世紀英国のユダヤ人社会) 上層、中流上層のユダヤ人の中で18世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。
9	(19世紀英国のユダヤ人社会) ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって18世紀末から19世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。
10	(世紀転換期のユダヤ人社会) 1880年代から始まる推定30万人もの貧しい東欧系ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。
11	(20世紀前半のユダヤ人社会) 両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。
12	(現代英国のユダヤ人社会) ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日的諸問題について検討する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(ちびくろサンボ論争をめぐる) 「サンボ」ということばがアメリカ社会の中で引きずってきた意味を明らかにし、人種関係にどういった機能を果してきたのかを明らかにする。
2	(日本の大衆文化の中にみられる黒人イメージ) 日本人の黒人観の変遷を歴史的に辿る。
3	(黒人奴隷の意識の世界) 南部のプランテーションに生きた黒人奴隷達が何を考え、何を願ったのか、彼等の意識の内面をスレイブ・ナラティブをもとに掘り起こす。
4	(差別体制下の黒人指導者) 19世紀末から20世紀前半のアメリカ黒人史上、所謂差別体制下に、黒人解放の道筋を展望した指導者達の思想と活動に迫る。
5	(公民権闘争とブラックナショナリズムの台頭) M・LキングとマルコムXの思想と活動を中心に
6	(黒人・ユダヤ人の関係史) 公民権闘争期の南部で明らかとなったユダヤ人と黒人の特殊な関係、「苦くて甘い出会い」といわれる両者の関係史の形成過程を19世紀に迄さかのぼり歴史的に展望。
7	(合衆国内の反ユダヤ主義) 「民主主義の国アメリカ」も反ユダヤ主義とは決して無縁ではなかった。ヨーロッパとの比較の視座から、合衆国における反ユダヤ主義の特色とその形成メカニズムを考察。
8	(ヒスパニック・アメリカンの世界) 彼等の歴史と現状をとりわけ、黒人社会とのエスニック・コンフリクトの視点から明らかにする。
9	(中国系アメリカ人) ゴールドラッシュ直後のカリフォルニアにおける中国系移民労働者の導入から、近年の「山の手中国人」の形成過程まで。
10	(日系アメリカ人の歴史Ⅰ) 1890年代における移民の本格化から、1920年代のハワイにおける民族の違いを乗り越えた労働者階級の統一実現迄を学ぶ。
11	(日系アメリカ人の歴史Ⅱ) 第二次大戦後の日系人の「サクセス・ストーリー」の光と影、1970年代末以後の日米貿易摩擦のきしみの中で高まる反日系人感情について考える。
12	(インディアンと白人の関係史) 白人との毛皮交易がインディアン社会にもたらした文化的変容から、今日の保留地インディアンを取りまく状況について概観する。。
備考	

科目名	英米事情 a-1・b-1 (94年度以降) 英米事情 1 (93年度以前)	担当者名	E. Carney(前期) M. A. Schible(後期)
-----	--	------	------------------------------------

前期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Very Bloody History of Britain. John Farman. Red Fox(1993) ・ Background to Britain\ Britain today\ HMSO Britain\ Related prints. 	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test(2). 1st Term test : last class before summer 2st Term test : last class of the year		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	The goal of the course is to survey the cultural, political and artistic heritage of the United States. The lectures in English are designed to give the Japanese student an opportunity to improve his or her listening and note taking skills.		
講義概要	Each lecture will cover specific aspects of the social, political and intellectual history of the nation and their roots in Europe, the Middle East, Africa and Asia. We will also take a look at the contributions of the many ethnic groups to the language, fine arts and the popular culture of not only America but the world.		
使用教材	テキスト	Prints provided by the instructor.	
	参考文献		
評価方法	The final grade will be based on regular attendance, quizzes and the final examination.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.
2	Geographical coverage of the British Isles. Weather and its related effects on life and character. Plant and animal life...comparisons with Japan.
3	Historical outlines from early Britain to Norman Conquest. Racial mixings and the movements of ethnic groups. Romans, Vikings, Saxons, and the French.
4	The Middle Ages and the beginnings of religious change. The knight, the gentleman, and the highwayman. Empire and the legacies; fame and notoriety.
5	Education and the legacy of a class culture. The new system and the old in conflict. Success and failure of the comprehensive schools. Snobbery.
6	Language and dialect. The power of Cockney dialect in song and humour. The sustaining of dialect in spite of the mass media influence. Standard English?
7	Humour and the British character. Making all of life's problems a focus for laughter and how this is done. The media's use of humour as a counterbalance.
8	The law and its workings. British law courts and the summons. The use of the jury system. Some comparison with the American system.
9	Religion today. The failure of churches to survive. The success of some religious groups using "Billy Graham" methods. Superstition and modern thought.
10	Daily life, leisure, sport and entertainment. The British on holiday at home and abroad. The hotel system and the take-over power of the syndicates.
11	Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and the problems of police control. Options for work and school.
12	Final coverage of the modern scene; money, property, decline. Final testing preparation and execution.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	The new world — introduction to the geography, climate, the arts, religions, political and social systems of the native Americans.
2	The beginnings of a nation — the social, and intellectual life in the colonies. Development of the educational system.
3	The revolution and the first expansion to the west. The flowering of American literature: Poe, Hawthorn, Melville and Walt Whitman.
4	"A Fire Bell in the Night" — The first modern war. City sketches of New York and Atlanta, 1860 — 1868.
5	A changing people: 1880 — 1992, Immigration from Europe and migration from the South. Industrialization — The contributions of Edison, Bell, Ford, and the Wright brothers to the modern life style.
6	America goes to war, prosperity and the crash of 1929. The American picture show — Griffith and Hollywood's golden years. Ragtime, the blues and jazz: the art of Scott Joplin, Bertha Hill, Clara Smith, Jelly Roll Morton, Bix Biederbeck and Count Basie.
7	Serious music and America opera — the Boston, Philadelphia, Cleveland Symphonies and the Met; the compositions of Aaron Copeland, Howard Hanson, Glass and the operas of Gershwin and Menotti.
8	The Harlem Renaissance: Langston Hughe, Contee Cullen and Beardon. A vision of tomorrow — New York and American industrial design in the 1920's — 1930's. Another look at Hollywood — the system. Quiz.
9	The lively arts: Broadway — drama, dance and the musical. The magazine in America; The fiction of Faulkner, Fitzgerald and Hemingway.
10	The Second World War and the Cold War. Postwar literature: Arthur Miller, Updike, Bellow, Carver and Ralph Ellison.
11	"The Empire of Air." Radio, Television and the press.
12	Challenges for the next century. The American family: the single parent and the inner city. Review for the final examination.
備考	

科目名	英米事情 a-2・b-2 (94年度以降) 英米事情 2 (93年度以前)	担当者名	J. J. Duggan(前期) E. Carney(後期)
-----	--	------	-----------------------------------

前期

講義の目標	The purpose of this course is to introduce students to some facets of the culture and society of the United States, and in doing so, to develop a better understanding of the American way of life.		
講義概要	In this course we will look at some of the culture and society of the United States, such as the American family, courtship and marriage, religion, work and work organizations, leisure and recreation, universities and university life, women in American society, the automobile culture, and ethnicity. The format of the course will be lecture (in English) centered around outline handouts of the lecture material. You must be prepared to attend class and take notes.		
使用教材	テキスト	Outline handouts of the lecture material	
	参考文献		
評価方法	Grade assessment will be based on a final exam (though attendance will be required).		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Very Bloody History of Britain. John Farman. Red Fox(1993) ・ Background to Britain \ Britain today \ HMSO Britain \ Related prints. 	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test(2). 1st Term test : last class before summer 2st Term test : last class of the year		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction ; Some American characteristics
2	Life in the American family
3	Courtship and marriage
4	Religion in America
5	Work and work organizations
6	America at rest : Leisure and recreation
7	Universities and university life
8	Women in American society
9	The Automobile culture
10	Ethnicity in America
11	Ethnicity in America II
12	Review
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.
2	Geographical coverage of the British Isles. Weather and its related effects on life and character. Plant and animal life...comparisons with Japan.
3	Historical outlines from early Britain to Norman Conquest. Racial mixings and the movements of ethnic groups. Romans, Vikings, Saxons, and the French.
4	The Middle Ages and the beginnings of religious change. The knight, the gentleman, and the highwayman. Empire and the legacies ; fame and notoriety.
5	Education and the legacy of a class culture. The new system and the old in conflict. Success and failure of the comprehensive schools. Snobbery.
6	Language and dialect. The power of Cockney dialect in song and humour. The sustaining of dialect in spite of the mass media influence. Standard English?
7	Humour and the British character. Making all of life's problems a focus for laughter and how this is done. The media's use of humour as a counterbalance.
8	The law and its workings. British law courts and the summons. The use of the jury system. Some comparison with the American system.
9	Religion today. The failure of churches to survive. The success of some religious groups using "Billy Graham" methods. Superstition and modern thought.
10	Daily life, leisure, sport and entertainment. The British on holiday at home and abroad. The hotel system and the take-over power of the syndicates.
11	Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and the problems of police control. Options for work and school.
12	Final coverage of the modern scene ; money, property, decline. Final testing preparation and execution.
備考	

科目名	英語圏文化特殊講義 a・b (94年度以降) 英語圏文化特殊講義 (93年度) 英米文化特殊講義 (92年度以前)	担当者名	福井嘉彦
-----	---	------	------

講義の目標	キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する。		
講義概要	キリスト教以前のヨーロッパ文化の基本的様相から、キリスト教世界を形成した中世の文化的基本を考え、その文化が宗教改革を経験し、カトリック文化圏とプロテスタント文化圏を成し、特に英米ではピューリタニズムによる社会を形成して近代社会に入って行った様相に焦点を当てていく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席のあり方及び授業への積極的参加。レポート提出物の内容・及び筆記試験の結果等による。一定以上の欠席は不合格とする。		
受講者に対する要望など	必ず第一回目の授業に出席し、その際の注意事項にのっとり、その時要求されたレポートを提出しなければ履修者とは認められない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要説明と注意等。レポート提出のテーマ。
2	異教の神々。
3	女性神と男性神。
4	女性神の原理と男性神の原理。
5	ヨーロッパのキリスト教化。
6	イングランドへのキリスト教の布教。
7	王権と教権。
8	教会改革。
9	イングランドの教会改革。
10	中世の異端・バルド派。
11	中世の異端・カタリ派。
12	中世期末の風景。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	千年王国（Ⅰ）
2	千年王国（Ⅱ）
3	教皇位について
4	十字軍の理念
5	教会批判
6	ルター主義
7	カルヴィニズムと労働倫理
8	ヘンリー八世のイングランド教会
9	エリザベス一世のヴァ・ミディア
10	ピューリタン達
11	ピューリタニズムについて
12	総集篇
備考	

科目名	英米文化文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	山田 修
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>——スコットランドにおけるヴァイキング——</p> <p>スコットランド北東にうかぶオークニーにいくと、Sigurd や Ingrid という英国人らしからぬ名にぶつかる。またハイランド州北部の地域 Sutherland の原義は、こんな北にありながら southern land である。その点、9世紀から13世紀にかけて、このオークニーを中心にヴァイキング王国があったといえ、合点がいくであろう。2つの名は北欧系の名であり、サザーランドはオークニーから見れば南にある。</p> <p>このヴァイキング王国の足跡をたずね、ヴァイキングがスコットランドに残したものを考える。</p>		
講義概要	<p>a (前期) では、ヴァイキングの活動を西方ルートを中心に概観した後に、テキストの第1章から第4章まで読む。b (後期) では、残りの第4章から第8章を読み、最後にスコットランドとヴァイキングの関係を考える。</p> <p>毎回数名の担当者をきめて、その諸君の発表を中心に進めていく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Anna Ritchie: <i>Viking Scotland</i> (B.T. Batsford/Historic Scotland, 1993) [プリント]</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・荒 正人『ヴァイキング』中公新書、1968 ・F. デュラン著 久野浩・日置雅子共訳『ヴァイキング』文庫クセジュ、1980 ・B. アルムグレン著 蔵持不三也訳『図説・ヴァイキングの歴史』原書房、1990 ・Eric Simpson: <i>The Vikings in Scotland</i> (Chambers, 1977) ・Barbara E. Crawford: <i>Scandinavian Scotland</i> (Leicester University Press, 1987) ・Gordon Donaldson: <i>A Northern Commonwealth—Scotland and Norway</i> (Saltire, 1990) ・H. Pálsson & P. Edwards (tr): <i>Orkneyinga Saga—The History of the Earls of Orkney</i> (Penguin Classics, 1981) 	
評価方法	<p>a (前期) と b (後期) は別々に評価する。それぞれの筆記試験に、発表及び出席状況を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の時間に出席して、受講許可をとること。無断登録は認めない。テキストのプリントはその時に配付する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	1. Atlantic Scotland and the Viking adventure
3	同 上
4	2. Scotland before the Vikings
5	同 上
6	3. Viking Age Scotland AD 780-1100
7	同 上
8	4. The Viking Heartland: the Northern Isles and Caithness
9	同 上
10	同 上
11	同 上
12	同 上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	5. The Western seaway: Argyll and the Western Isles
2	同 上
3	同 上
4	同 上
5	6. The Viking fringe: southern and eastern Scotland
6	同 上
7	7. After the Vikings: late Norse Scotland AD 1100-1300
8	同 上
9	同 上
10	同 上
11	8. Scotland's Viking inheritance
12	まとめ
備考	

科目名	国際政治論 a-1・b-2 (94年度以降) 国際政治論 1, 2 (93年度) 国際関係論特殊講義(国際政治論) 2, 3 (92年度以前)	担当者名	有賀 貞
-----	---	------	------

講義の目標	国際政治についての基本的知識をもち国際政治の歴史的理解を助けることを目指す。	
講義概要	<p>国際政治の歴史的展開を簡潔に講義することに力点をおくが、それに関連して、幾つかの国際政治理論にも言及する。</p> <p>講義概要は英文で作成し配布する。それにより、国際政治についての基本的語彙の習得を助ける。</p>	
使用教材	テキスト	テキストは使用しない。
	参考文献	参考文献は最初の授業で紹介する。主なものは『講座国際政治』1、2巻、3巻（東京大学出版会）、岡部達味『国際政治の分析枠組』（同）など
評価方法	学期中に提出するレポート（40点）と期末試験の成績（60点）を総合して評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業についての説明。国際関係の研究の歴史と現在。 A Brief Guidance: Studies in International Relations—Its History and the State of the Art
2	ヨーロッパ国際社会の成立と勢力均衡の理念 The Shaping of European International Community and the Concept of the Balance of Power
3	伝統的東アジア国際秩序の崩壊と帝国主義日本の台頭 The Collapse of the Traditional East Asian International System and the Rise of Japan as an Imperialist Power
4	帝国主義の時代と帝国主義論 The Age of Imperialism and Theories of Imperialism
5	ナショナリズムと国際主義 Nationalism and Internationalism
6	戦間期における反自由主義的民主主義思想の台頭 The Rise of Opposition to Liberal Democracy in the Interwar Years
7	冷戦期の国際政治とその終わり International Politics of the Cold-War Era and the End of the Era
8	「第三世界」の政治と経済 Politics and Economy in the "Third World"
9	現代における外交と政策決定過程論 Diplomacy in the Contemporary World and Decision Making Analysis
10	現代における戦争と安全保障 War and Security in the Contemporary World
11	現代における民族と国家 Ethnicity and the State in the Contemporary World
12	資本主義の世界化と情報化 The Globalization of Capitalism and the Information Revolution
備考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わせるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科 目 名	担当教員名	備 考
94年度以降 入学者	国際政治論 a-1	有賀 貞	履修するときは必ず組み合わせ せて登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
93年度 入学者	国際政治論 1	有賀 貞 (前期) 竹田 いさみ (後期)	
	国際政治論 2	竹田 いさみ (前期) 有賀 貞 (後期)	
92年度以前 入学者	国際関係論特殊講義 2	有賀 貞 (前期) 竹田 いさみ (後期)	
	国際関係論特殊講義 3	竹田 いさみ (前期) 有賀 貞 (後期)	

科目名	国際政治論 a-2・b-1 (94年度以降) 国際政治論 1, 2 (93年度) 国際関係論特殊講義(国際政治論) 2, 3 (92年度以前)	担当者名	竹田 いさみ
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料(国際問題)をどうやって料理(分析)するかを学ぶこととなります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことである。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法(分析枠組み)に相当します。</p>	
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することとなります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うこととなります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることとなります。</p> <p>講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>	
使用教材	テキスト	講義用資料集
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻(東京大学出版会、1989) ・猪口孝『国際政治経済の構図』(有斐閣、1982) ・衛藤藩吉他『国際関係論』(東京大学出版会、1982) ・川田侃『国際関係の政治経済学』(日本放送出版協会、1980) ・高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』(中央公論社、1966) ・P・ビオティ、M・カピ『国際関係論』(彩流社、1993) ・蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』(学陽書房、1992)
評価方法	<p>評価は基本的に試験ですが、授業の進み方を検討して決めます。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	①国際関係を見る眼：木・林・森 ②国際関係の世界：戦争と平和（伝統的問題）・繁栄と貧困（南北問題）・世界経済ネットワーク、開発、環境、生存
2	①国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー・慧星・ケインズ・キッシンジャー） ②国際関係論：世界大戦の落し子（資料集：8-14、35-45頁）
3	①利害調整：有限の世界、無限の欲望（資料集：21-27頁） ②政治過程：権力+正統性=権威（資料集：47-48頁）
4	①人間・政治・権力：ホッブス・グロティウス・カント（資料集：52-54頁）
5	国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム 意味・単位・構造・過程（資料集：59頁）
6	①リアリズム（現実主義）：トゥクェディデス～E. H. カー（資料集：67-71） ②E. H. カー：ユートピアニズム vs リアリズム（資料集：12頁） ③勢力均衡論（資料集：91-94頁）
7	①リアリズム（現実主義論）：ヨーロッパ古典外交の特色ーウィーン会議：「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」 メッテルニヒ・タレーラン・カースルリー
8	①リアリズム（現実主義）：ビデオ教材「会議は踊る」
9	①多元主義・相互依存論（資料集：58、118-142頁） ②トランスナショナルリズム：EUの出現・パワー論の補完
10	①グローバリズム・従属論（資料集：59、143-171頁） ②反欧米思想・南の主張・世界システム
11	国際政治と利害調整メカニズム
12	まとめ
備考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わさるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科 目 名	担当教員名	備 考
94年度以降 入学者	国際政治論 a-1	有賀 貞	履修するときは必ず組み合わせて登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	履修するときは必ず組み合わせて登録して下さい
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
93年度 入学者	国際政治論 1	有賀 貞（前期） 竹田 いさみ（後期）	
	国際政治論 2	竹田 いさみ（前期） 有賀 貞（後期）	
92年度以前 入学者	国際関係論特殊講義 2	有賀 貞（前期） 竹田 いさみ（後期）	
	国際関係論特殊講義 3	竹田 いさみ（前期） 有賀 貞（後期）	

科目名	国際関係史 a・b (94年度以降) 国際関係史 (93年度) 国際関係論特殊講義(国際関係史) 1 (92年度以前)	担当者名	有賀 貞
-----	---	------	------

講義の目標	<p>1. 履修者に国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。</p> <p>2. 履修者が日本語の講義内容が英語ではどう表現されるかを知り、国際関係史に関連する英語の基本的語彙を習得できるようにする。</p> <p>3. いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。</p>		
講義概要	<p>1. 国際関係史の一般的説明の中では20世紀に重点をおく。前期では第2次大戦の始まりまで、後期ではそれ以後1990年代初めまでの時期を扱う。</p> <p>3. 講義は日本語で行うが、講義の概要を英文にした印刷物を毎回配布する。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。配布する英文印刷物がその代わりである。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェームズ・ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房) ・ ギルベルト・チブラ『世界経済と世界政治』(みすず書房) ・ 入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会) ・ ルイス・ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版) ・ 細谷千博『日本外交の軌跡』(日本放送出版協会) ・ W. C. McWilliams and Harry Piotrowski, The World since 1945 (Lynne Rienner) ・ 有賀貞『アメリカ政治史』(福村出版) 	
評価方法	<p>前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを一回提出する。評価は試験とレポートの成績を総合して行う。93年度入学者の場合は、前後期の成績の平均が評価となる。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	The 19th Century as the European Century
2	East Asia in the Age of Imperialism
3	European Politics on the Eve of World War I
4	The Beginning of World War I
5	Wilson and Lenin: the Reformer and the Revolutionary
6	Postwar Confusion in the World
7	The Creation of the Washington System
8	The Restoration of Relative Stability in Europe
9	The Great Depression and the Breakdown of Peace
10	The Beginning of World War II
11	The Outbreak of the Pacific War
12	(Questions and Answers)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	The Wartime Alliance of US, UK, and USSR
2	The End of World War II
3	The Onset of the Cold War
4	East Asia in the Early Cold War Era
5	The Socialist World and East-West Relations in the Post-Stalin Era
6	The Retreat of European Imperialism and Progress in European Integration
7	The Vietnam War and the Reorientation of American Foreign Policy
8	International Relations in the Middle East and the Oil Crisis
9	Politics and Economy during the "New Cold War"
10	The Collapse of the Soviet Bloc and the End of the Cold War
11	International Relations in the the Post-Cold War Era
12	(Questions and Answers)
備考	

科目名	国際開発協力論 a・b (94年度以降) 国際開発協力論 (93年度) 国際関係論特殊講義(国際開発協力論) 4 (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>経済発展論の歴史的系譜を二重構造モデル(古典派、新古典派etc)の枠組みで理論的にレビューし、旧計画経済圏諸国および途上国の開発問題の現状を把握したうえ、理論と現実との整合性と限界について考察する。また、資源環境論の立場から、持続可能な発展との関連において、途上国の自助努力と先進国の協力・援助のあり方について論じる</p>	
講義概要	<p>前期は、経済発展論の理論的系譜、経済成長論と経済発展論の関係、国際貿易論、国際関係論等の学問的位置づけを中心に講義する。後期には、先進国の歴史的経済発展過程と現在の途上国の開発戦略、国際機関を通じる協力・援助の実態と問題点について実証的に講義する。</p>	
使用教材	テキスト	特に指定しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高木保興「経済開発論」創文社、 ・渡辺太郎「国際経済」春秋社 ・伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」 ・須田美矢子「国際マクロ経済学」日経新聞社
評価方法	<p>授業への出席を重視し、レポート提出により評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方についての説明
2	講義内容の全体フレームワークの説明と受講に当たっての注意事項
3	経済発展論の系譜 (1)
4	” (2)
5	” (3)
6	” (4)
7	欧米の経済発展過程 (1)
8	” (2)
9	” (3)
10	日本の経済発展過程と貿易 (1)
11	” (2)
12	オセアニアの経済発展過程と貿易
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	多国籍企業と国際直接投資
2	貿易自由化と経済発展 (1)
3	” (2)
4	” (3)
5	経済発展と資源環境問題 (1)
6	” (2)
7	” (3)
8	持続的開発と地球環境問題 (1)
9	” (2)
10	国際援助・開発協力と国際機関 (1)
11	” (2)
12	” (3)
備考	

科目名	国際関係論特殊講義 a・b (94年度以降) 国際関係論特殊講義 (93年度) 国際関係論特殊講義(国際貿易論) 5 (92年度以前)	担当者名	加賀爪 優
-----	---	------	-------

講義の目標	現代世界の国際関係をバランスよく把握し、長期的な視野に立って、多岐にわたる複雑な国際関係の基礎的潮流を冷静に見極め、その将来展望について議論できる能力を養うことを目的とする。		
講義概要	現代の世界各国の国際関係を、貿易・通商政策の視点から考察する一方、また、今日の世界を、先進資本主義国、旧計画経済国、第3世界その他に分類して、各々の主要国について、その現状と史的展開過程について講義する。 さらに、旧ソ連および東欧の崩壊後、生じつつある急激な情勢変化の中で、国際関係の機能や各種国際協定の貢献とその限界、および問題点について論じていく。		
使用教材	テキスト	テキストについては、講義中に適宜、教材をコピー配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席を重視し、レポート提出により評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方についての説明
2	講義内容の全体フレームワークの説明と受講に当たっての注意事項
3	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (1) アメリカ
4	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (2) アメリカ
5	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (3) アメリカ
6	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (4) アメリカ
7	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (5) カナダ
8	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (6) カナダ
9	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (7) オーストラリア
10	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (8) オーストラリア
11	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (9) アジア太平洋地域
12	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (10) まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (1) EU
2	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (2) EU
3	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (3) EU
4	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (4) 日本
5	先進資本主義国の通商政策とその史的展開過程 (5) 日本
6	旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (1) 旧ソ連
7	旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (2) 中国
8	旧計画経済国の通商政策とその史的展開過程 (3) 旧東欧
9	第3世界の通商政策とその史的展開過程 (1) アセアン・南アジア・アフリカ
10	第3世界の通商政策とその史的展開過程 (2) 中南米諸国
11	国際機関の機能と各種国際協定の貢献とその限界
12	予備日 (レポート課題についての説明)
備考	

科目名	国際関係論文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	阿部純一
-----	------------------------	------	------

講義の目標	英語文献を通して、冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきている国際関係の構造的変化を検討する。		
講義概要	米ソ冷戦が終焉し7年を経た現在においても、冷戦構造に代わる国際秩序はまだ形成途上にある。換言すれば、21世紀を間近にひかえ、われわれはまさに新しい国際秩序が形成される現代史の極めて重要な局面に立ち会っているのである。秩序は未形成であるとはいえ、その動向のカギを握っているのは、いわゆる「大国」間の関係である。そうした意味で、アメリカ、日本、中国、そしてロシアやインドも関与する東アジアは、地球大の国際関係のいわば縮図ともいえる。国際関係の動態をマクロに分析する文献、さらには東アジアの国際関係を論じる文献を取り上げ、現状分析ならびに政策分析を行っていく。		
使用教材	テキスト	プリント配付。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生の発表（詳細なレジメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。		
受講者に対する要望など	国際関係論および国際政治学の用語や現代国際関係史について十分な知識を持っていることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	異文化間コミュニケーション論 a-1-b-1 (94年度以降) 異文化間コミュニケーション論1 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(異文化間コミュニケーション論)1 (92年度以前)	担当者名	石井 敏
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は、国際社会における日本人が日々直面している異文化の人達とのコミュニケーション即ち異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決策を学際的に講ずることを目標とする。異文化間コミュニケーション活動においては、当該の外国語の発音・語彙・文法に関する言語的知識と技能に加えて、異文化間の平等性に基づいて自分と相手の文化の特性を相互に理解し、相互に適したコミュニケーション行動をすることが不可欠である。そこで、人間・文化・コミュニケーションの相関関係を理論と実際の両面から体系的に明らかにすることを目指す。</p>		
講義概要	<p>講義は、入門、基礎、そして応用の3部より成る。入門の部では、異文化間コミュニケーションの基礎概念と研究目的を明らかにする。基礎の部では、異文化間コミュニケーションの研究手法、言語及び非言語メッセージとコミュニケーションのレベル区分、そして日本社会と異文化間コミュニケーションについて解説する。応用の部では、教育と異文化間コミュニケーション、企業・組織と異文化間コミュニケーション、そして国際場面での異文化間コミュニケーションの諸問題について述べる。</p>		
使用教材	テキスト	石井敏編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏他『異文化コミュニケーション』(有斐閣) ・石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』(有斐閣) 	
評価方法	<p>多数の受講者が予想されるので、前期末と後期末の試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>内容と用語がかなり専門的になるので、教科書の指定の箇所を十分に読み、テーマについて予備知識を得てから授業に出席すること。万一欠席する場合には、友人の協力を得て、欠けた部分を早目に補っておくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講上の一般的注意。文化とコミュニケーションの相関関係について。教科書Ⅰ-1 文化とコミュニケーション。
2	異文化間コミュニケーションの定義と概念について。教科書Ⅰ-2 異文化コミュニケーション。
3	異文化間の相互理解の重要性と異文化間コミュニケーション能力について。教科書Ⅰ-3 異文化相互理解、Ⅰ-4 異文化コミュニケーション能力の向上。
4	異文化共生の概念と実情について。教科書Ⅰ-5 異文化が共生できる社会。
5	異文化間コミュニケーション研究の理論と方法について。教科書Ⅱ-1 異文化コミュニケーション研究の歩み、Ⅱ-2 異文化コミュニケーションの理論と研究方法。
6	異文化間コミュニケーションの研究領域と関連諸問題について。教科書Ⅱ-3 異文化コミュニケーションの領域、Ⅱ-4 異文化コミュニケーションの諸問題。
7	異文化間コミュニケーションにおける言語メッセージと非言語メッセージについて。教科書Ⅱ-5 言語メッセージと記号、Ⅱ-6 非言語メッセージ。
8	異文化間コミュニケーションと対人関係について。教科書Ⅱ-7 対人コミュニケーション。
9	異文化間レトリカル・コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-8 公的な場でのコミュニケーション。
10	集団・組織における異文化間コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-9 集団・組織とコミュニケーション。
11	文化とマス・コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-10 マス・コミュニケーション。
12	文化の概念と特性について。教科書Ⅱ-11文化の独自性と普遍性、Ⅱ-12文化変化と創造性。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人レベルの異文化接触と異文化適応について。教科書Ⅱ-13個人レベルの異文化接触。
2	国家レベルの異文化接触と異文化交流について。教科書Ⅱ-14国家レベルの異文化接触、Ⅱ-15日本の異文化交流史。
3	日本人のコミュニケーションと日本社会における異文化間コミュニケーションについて。教科書Ⅱ-16日本人のコミュニケーション特性、Ⅱ-17日本社会の特徴と異文化間コミュニケーション。
4	多文化社会と異文化間摩擦について。教科書Ⅱ-18多文化社会としての日本、Ⅱ-19文化摩擦の諸側面。
5	コミュニケーション教育と言語教育について。教科書Ⅲ-1スピーチ・コミュニケーション教育、Ⅲ-2語学教育（外国語教育と日本語教育）
6	日本における国際理解教育の目的・内容・方法について。教科書Ⅲ-3国際理解教育。
7	日本人の海外留学と在日外国人留学生の諸問題について。教科書Ⅲ-4海外留学とカウンセリング、Ⅲ-5外国人留学生の受入れ。
8	海外子女の異文化適応と帰国子女の帰国ショックについて。教科書Ⅲ-6海外子女と帰国子女。
9	企業と組織における異文化間コミュニケーションの問題について。教科書Ⅲ-7異文化経営、Ⅲ-8異文化交渉（経済・ビジネス）
10	異文化間コミュニケーション教育・訓練について。教科書Ⅲ-9異文化コミュニケーション研修。
11	国際文化交流活動と国際協力における異文化間コミュニケーション。教科書Ⅲ-10国際文化交流、Ⅲ-11国際協力。
12	会議通訳における異文化間コミュニケーションと先端メディアによる国際コミュニケーションについて。教科書Ⅲ-12国際会議におけるコミュニケーション、Ⅲ-13先端通信メディアと国際コミュニケーション。
備考	

科 目 名	異文化間コミュニケーション論 a-2・b-2 (94年度以降) 異文化間コミュニケーション論 2 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(異文化間コミュニケーション論)5 (92年度以前)	担当者名	町 田 喜 義
-------	--	------	---------

講 義 の 目 標	異文化間コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。		
講 義 概 要	前期は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、異文化間コミュニケーション研究の成果をマクロに考察する。主として、文化とコミュニケーションそこから派生する様々な概念とその連鎖を取り上げ、後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、日本語・日本文化に焦点をあて比較文化的内容にする。		
使 用 教 材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用	
	参考文献	・開講時に別紙配布する。	
評 価 方 法	筆記試験（前期）：50% グループ・リサーチ・ペーパー（後期）：30% （400字詰原稿用紙横書き〔B5版〕10枚程度） グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）：20% （各班10分：受講生数によって変更する）		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	☆遅刻をしないこと。 ☆グループ活動には各自の責任と義務が要求される。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明、「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える＝受講生の異文化体験の発表など
2	「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念。
3	グループ討議の為に班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?）
4	ビデオ映画：？
5	グループ討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて
6	異文化間コミュニケーションの基礎概念（1）
7	異文化間コミュニケーションの基礎概念（2）
8	コミュニケーション能力：Cross-Culturally Communicative Competenceとは？
9	対人コミュニケーション：仲良きことは良いこと？
10	言語と非言語のコミュニケーション（1）
11	言語と非言語のコミュニケーション（2）
12	異文化理解教育：カナダの事例→後期の内容への誘い
備考	※ 上記計画の詳細は開講時に別紙配布する。また、受講生数によって内容を変更することがある。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	言語と非言語（1）：その関連と領域
2	言語（英語）と非言語（2）：ビデオ映画（? 「ヒ・ミ・ツ」）
3	言語（日本語）と非言語（3）：ビデオ映画（? 「ヒ・ミ・ツ」）
4	比較文化論：上記の内容についてのグループ討議
5	日本語と日本文化（1）
6	日本語と日本文化（2）
7	日本語と日本文化（3）
8	日本語と日本文化（4）
9	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
10	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
11	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
12	エピローグ：今後のコミュニケーション行動について
備考	※ 上記計画の詳細は開講時に別紙配布する。また、受講生数によって内容を変更することがある。

科目名	マス・コミュニケーション論a・b (94年度以降) マスコミュニケーション論 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(マス・コミュニケーション論)3 (92年度以前)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになる事を目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデルおよび効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、とくに「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。		
使用教材	テキスト	(前期) プリント (後期) 佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房 1996	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版 1992 ・H. J. アイゼンク他著 岩脇三良訳『性 暴力 メディア』新曜社 1982 	
評価方法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	マス・コミュニケーションとは
2	コミュニケーションについての基礎知識① —プロセスの概念について—
3	コミュニケーションについての基礎知識② —意味はどこに存在するか?—
4	コミュニケーションについての基礎知識③ —メディア接触について—
5	マス・コミュニケーションのモデルについて① —モデルの長所と短所—
6	マス・コミュニケーションのモデルについて② —マス・コミュニケーションの要因—
7	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートは1000字程度にまとめる。)
8	マスコミ効果の概念について① —効果とは—
9	マスコミ効果の概念について② —順機能と逆機能— (レポート提出締切り)
10	マス・コミュニケーションと教育①
11	マス・コミュニケーションと教育②
12	まとめ
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	マスコミの影響研究について① —弾丸理論—
2	マスコミの影響研究について② —限定効果モデル—
3	マスコミの影響研究について③ —適用効果モデルから強力効果モデルへ—
4	メディア暴力研究について① —研究の背景—
5	メディア暴力研究について② —カタルシス理論—
6	メディア暴力研究について③ —観察学習理論—
7	メディア暴力研究について④ —脱感作理論—
8	メディア暴力研究について⑤ —カルティベーション理論—
9	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートは1000字程度にまとめる。)
10	メディア暴力研究について⑥ —4理論のまとめ(暴力番組の類型化)—
11	メディア暴力研究について⑦ (レポート提出締切り) —メディア暴力への対応—
12	まとめ
備考	

科目名	スピーチ・コミュニケーション論 a・b (94年度以降) スピーチ・コミュニケーション論 (93年度) コミュニケーション論特殊講義(スピーチ・コミュニケーション論) 2 (92年度以前)	担当者名	石井 敏
-----	--	------	------

講義の目標	<p>本講義は、異文化の人達との英語によるコミュニケーションを効果的なものにする事を目標とする。目標を達成するためには、英語の発音・語彙・文法という言語的要素の特徴を理解し、英語会話を学習するだけでは、極めて不十分である。日本人の立場に立ち、欧米型レトリック理論に基づいた英語スピーチ・コミュニケーションの理論を理解し、実践的訓練をすることが不可欠である。本講義は、英語スピーチ・コミュニケーション活動を理論と実際の両面で展開することのできる人材の育成を目指す。</p>		
講義概要	<p>英語による効果的なコミュニケーション活動を実際に展開するためには、長い伝統を持つ欧米のレトリック理論に基づくスピーチ・コミュニケーションの理論と実践的スキルを学習することが大切である。そこで本講義では、最初にスピーチ・コミュニケーション研究の意義、主な研究領域、レトリック理論の歴史的背景等を解説する。次に、英語スピーチ・コミュニケーションのレベル、目的と形式による分類等について説明する。続いて、スピーチ・コミュニケーションの代表的な形式であるオーラル・インタープリテーション、ディスカッション、スピーチ、そしてディベートの理論と実践を扱う。講義の多くは英語で行なわれる。</p>		
使用教材	テキスト	Klopf, D. & Ishii, S. <i>Effective Oral Communication</i> , (英宝社)。その他コピー。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏『スピーチの英語』(荒竹出版) ・橋本満弘、石井敏編『英語コミュニケーションの理論と実際』(桐原書店)。 	
評価方法	<p>評価は、出席状況及び授業活動への参加状況、発表活動と提出物、前期末と後期末の筆記試験の成績等による。授業回数の3分の1以上欠席した者は不合格となる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>英語による講義が多いので、受講者は、必ず予習及び準備をしてから出席をし、授業活動や発表活動に積極的に参加すること。課題提出や発表活動が遅れた場合には、理由を明らかにすること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講上の諸注意、スピーチ・コミュニケーションの主要研究領域の紹介（コピー配布）、現代日本社会における研究の意義についての解説（教科書3～12頁）。
2	欧米のスピーチ・コミュニケーションの研究と教育を理論的に体系化した古代ギリシャと古代ローマのレトリック理論の解説（コピー配布）。
3	欧米のレトリック理論を広く普及させ、研究領域を科学的コミュニケーション論にまで発展させた研究の歴史（コピー配布）。
4	スピーチ・コミュニケーションの一般概念、展開過程及び主要構成要素の機能上の特徴、構成要素間の相関関係等についての考察（教科書12～22頁）。
5	スピーチ・コミュニケーションのレベルと形式上の分類、各形式の概念と主な目的及び特徴についての解説（教科書22～35頁）。
6	オーラル・インタープリテーションの概念と展開過程の主な特徴、発表用作品の分類と選択に関する解説（教科書104～111頁）。
7	オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と解釈、発表のためのリハーサルに関する注意（教科書111～117頁）。
8	オーラル・インタープリテーションにおける作品解釈と感情移入、音声及び身体表現の機能と活用についての説明（教科書117～128頁）。
9	オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と発表に関するまとめと模範発表例（コピー配布）。
10	ディスカッションの概念と形式上の分類、リーダーの役割、問題の主な特徴と設定上の留意点に関する解説（教科書40～46頁）。
11	ディスカッションにおける問題の種類と設定方法、ダイバートの論題との区別、問題解決に関する考察（教科書46～54頁）。
12	ディスカッションの展開練習、展開記録の作成及び提出（コピー配布）。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	スピーチ（public speaking）の概念とコミュニケーション上の特徴（教科書55～56頁）、題材の選択と分析、参考文献の活用方法等に関する解説（教科書63～68頁）。
2	スピーチの構成方法、序論・本論・結論の各目的と主な特徴、論旨の展開法の分類に関する考察（教科書68～76頁）。
3	スピーチのアウトラインの作成方法、発表形式の分類と主な特徴に関する説明（教科書76～82頁）。アウトラインの作成及び提出。
4	スピーチの批評（speech criticism）の目的、方法、特徴等に関する紹介と概説（コピー配布）。
5	キング牧師のスピーチ“I Have a Dream”の背景、内容構成、レトリック上の主な特徴等に関する解説（テープ使用）。
6	ダイバートの概念と主なコミュニケーション上の特徴、形式上の分類、ディスカッションとの相違等に関する説明（教科書83～86頁）。
7	ダイバートの論題の種類と特徴、論題の設定方法（教科書86～87頁）、参考文献の調べ方と記録方法等に関する解説（教科書92～93頁）。
8	ダイバートの三段論証（Toulmin's model）の構造と構成要素、各構成要素の目的と機能等に関する説明（教科書93～95頁）。
9	ダイバートにおける反論方法、スピーチの主な種類と特徴、ダイバートの展開方法等に関する解説（教科書97～103頁）。
10	クラス全体を小グループに分けて非公式ダイバートの実践と記録（指定の論題と配布資料を使用）。
11	4月第1回講義から前回講義までの総復習とまとめ。
12	英語による筆記試験（資料の持込み可）。
備考	

科目名	コミュニケーション論特殊講義a・b(94年度以降) コミュニケーション論特殊講義(93年度) コミュニケーション論特殊講義(異文化間コミュニケーション)4(92年度以前)	担当者名	鍋倉健悦
-----	---	------	------

講義の目標	<p>——異文化間コミュニケーション——</p> <p>文化とコミュニケーションのかかわりについて学ぶことで、文化背景を異にする人々と相互理解を深めていくためにはどうしたらよいかを学習しながら、自文化についての知識も高めていく。</p>		
講義概要	<p>異文化間コミュニケーションの背景と領域、言語と認識の関係、言語と行動のつながり、非言語コミュニケーション、カルチャー・ショック、そしてより効果的なコミュニケーションの仕方。</p>		
使用教材	テキスト	<p>鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』(丸善ライブラリー)</p> <p>鍋倉健悦(編著)『日本人の異文化コミュニケーション』(北樹出版)</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋倉健悦『人間行動としてのコミュニケーション』(思索社)。 ・鍋倉健悦『コミュニケーションの英語』(丸善ライブラリー)。 ・鍋倉健悦『しぐさでわかる異文化・異性』(北樹出版)。 	
評価方法	<p>試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>広い好奇心を持っていない限り、当講座にはついていけない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	当講座の概要説明。
2	異文化間コミュニケーションの歴史。
3	異文化間コミュニケーションが学問として成立した背景。
4	文化人類学と異文化間コミュニケーション。
5	言語学と異文化間コミュニケーション。
6	国際政治と異文化間コミュニケーション。
7	インター・レイシアル・コミュニケーション。
8	インター・ナショナル・コミュニケーション。
9	文化の意味。
10	価値観の意味。
11	言語メッセージと非言語メッセージ。
12	言語相対論の内容。
備考	授業の進みぐあいによって、内容が変わる可能性あり。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	翻訳について—「吾輩は猫である」と I am a cat はどこまでイコールか。
2	バイリンガリズムについて。
3	「緋色の研究」について。
4	対物学。
5	動作学。
6	接触学。
7	近接学。
8	時間学。
9	音調学。
10	カルチャー・ショック
11	カルチャー・ショックの緩和対策。
12	より効果的な異文化間コミュニケーションに向けての提言。
備考	

科目名	コミュニケーション論文献研究 a・b (94年度以降)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	-----------------------------	------	---------

講義の目標	<p>以下を講義の目標とする。</p> <p>1) プレゼンテーションを効果的に行うことができる。</p> <p>2) コミュニケーションの領域の専門雑誌を自分で検索できる。</p> <p>3) 異文化コミュニケーションの文献をよみこなすことができる。</p> <p>4) 実証的な調査研究が自分でできる。</p>	
講義概要	<p>およそ次の順序で講義を進めて行く。</p> <p>1) 効果的なプレゼンテーションを身につけるために、スピーチ・コミュニケーションの文献を読み、実際にスピーチの練習を行う。 2) コミュニケーションの領域にはどのような英文専門雑誌があるのかを学習し、それぞれの専門雑誌の特徴を理解する。 3) よいコミュニケーションになるためにはどうしたらよいかをテーマに異文化コミュニケーションの文献を読んで行く。 4) 学術論文の構成の仕方、調査票の作り方、統計分析の方法について学び、模擬的な実証研究を行う。</p>	
使用教材	テキスト	Samovar, L. A. & Porter, R. E., 「Communication between cultures,」 Wadsworth Publishing Company, 1991.
	参考文献	古田暁 監修、石井敏 他著『異文化コミュニケーション (改訂版)』(有斐閣選書、1996)
評価方法	定期試験、レポートまたはグループ発表、平常点の総合評価を行う。	
受講者に対する要望など	毎回2時間前後の準備が必要なので余裕を持って時間割を組むように。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	プレゼンテーションとしてのスピーチ① ——構成方法——
3	プレゼンテーションとしてのスピーチ② ——各自プレゼンテーションを行う——
4	コミュニケーション関係の英文専門雑誌について①
5	コミュニケーション関係の英文専門雑誌について②
6	コミュニケーション関係の英文専門雑誌について③ (グループ発表)
7	異文化コミュニケーション①——文化について (a) ——
8	異文化コミュニケーション② ——文化について (b) ——
9	異文化コミュニケーション③ ——モデルと要素について (a) ——
10	異文化コミュニケーション④ ——モデルと要素について (b) ——
11	異文化コミュニケーション⑤ ——モデルと要素について (c) ——
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	異文化コミュニケーション⑥ ——非言語コミュニケーション (a) ——
2	異文化コミュニケーション⑦ ——非言語コミュニケーション (b) ——
3	異文化コミュニケーション⑧ ——非言語コミュニケーション (c) ——
4	異文化コミュニケーション⑨ ——良いコミュニケーターとは (a) ——
5	異文化コミュニケーション⑩ ——良いコミュニケーターとは (b) ——
6	異文化コミュニケーション⑪ ——良いコミュニケーターとは (c) ——
7	研究方法について① ——学術論文の構成—— (グループ分け)
8	研究方法について② ——調査票の作り方——
9	研究方法について③ ——統計分析の方法 (a) ——
10	研究方法について④ ——統計分析の方法 (b) ——
11	研究方法について⑤ ——コンピュータによる分析——
12	グループ別実証研究の発表
備考	

科目名	特別セミナー 1 (93年度以降) 英米文学特殊講義B-1 (92年度以前)	担当者名	J. C. Allard
-----	---	------	--------------

(前期完結)

講義の目標	<p>—THE DEVELOPMENT OF THE ENGLISH LANGUAGE THROUGH POETRY— Our AIM IS TO STUDY HOW ENGLISH HAS CHANGED SINCE THE MIDDLE AGES THROUGH A CAREFUL STUDY OF MAJOR POETS AND POEMS.</p>		
講義概要	<p>WE WILL READ WORK FROM CHAUCER TO THE PRESENT DAY. THE SOCIAL CONTEXT IS IMPORTANT AS WELL AS THE FORM AND LANGUAGE</p>		
使用教材	テキスト	<p>PHOTOCOPIES AND LIBRARY REFERENCE</p>	
	参考文献	<p>A GOOD ENGLISH DICTIONARY</p>	
評価方法	<p>WRITTEN EXERCISES, FINAL TERM PAPER. WORK WILL BE REVISED UNDER MY SUPERVISION BEFORE BEING GRADED.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	INTRODUCTION-ANGLO-SAXON TO MIDDLE EXGLISH ANGLO-SAXON, OLD GERMAN, OLD NORSE
2	CHAUCER CANTERBURY TALES
3	WYATT SONGS AND SONNETS
4	SIDNEY AND SPENSER SONNETS AND THE FAIRIE QUEENE
5	SHAKESPEARE PLAYS AND POEMS
6	DONNE SONGS AND SONNETS
7	MILTON PARADISE LOST
8	POPE THE RAPE OF A LOCK
9	THE ROMANTICS, WORDSWORTH AND KEATS
10	THE MODERNS, ELIOT AND BUNTING
11	POST MODERNISM, THE MARTIANS AND SEAMUS HEANEY
12	WHATS HAPPENING NOW, MARTIN NEWELL
備考	

科目名	特別セミナー2 (94年度以降) 英米文学特殊講義B-2 (92年度以前)	担当者名	J. C. Allard
-----	--	------	--------------

(前期完結)

講義の目標	—THE CULTURE AND LITERATURE OF ICELAND IN ENGLISH, FROM THE SAGAS TO BJORK— OUR AIM IS TO LEARN ABOUT ICELAND—BOTH IT'S ANCIENT LITERATURE AND ITS MODERN CULTURE.		
講義概要	THIS REMOTE AND VOLCANIC COUNTRY HAS PRODUCED GREAT OLD LITERATURE AS WELL AS EXCITING NEW WRITING, MUSIC AND MOVIES. WE WILL STUDY THE OLD SAGAS AND NEW WRITING, FILMS, AND MUSIC BY SJON, EINAR MAR, FRIDRIK FRIDRIKSSON, SUGARCUBES AND BJORK.		
使用教材	テキスト	PRINTS AND VIDEOS AND CDS	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ PARTS OF EGILS SAGA, NJALS SAGA AND EYRBYGGJA SAGA ・ FILMS-HEKLA, CHILDREN OF NATURE AND COLD FEVER. (STARRING NAGASE) GLING GLO AND DEBUT BY BJORK 	
評価方法	EXERCISES IN WRITING ABOUT MUSIC FILM AND LITERATURE. A FINAL TERM PAPER.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	INTRODUCTION. THE HISTORY AND THE LANDSCAPE.
2	THE SETTLEMENT, VIKINGS AND VOLCANOS. EGIL'S SAGA
3	THE COMMONWEALTH. EGIL'S SAGA
4	EARLY POETRY. EGIL AND NJAL'S SAGA
5	LAW AND ORDER. NJALS SAGA
6	GHOSTS IN EYRBYGGYA SAGA
7	BERSERKS-EYRBYGGJA SAGA
8	ICELAND SINCE 1950. THE FILMS OF GUDNY HALLDORSOTTIR AND FRIDRIK THOR FRIDRIKSSON
9	FILMS
10	FILMS AND POETRY. SJON AND EINAR MAR GUDMUNDSSON
11	MUSIC FROM STUTHMENN TO SUGARCUBES TO BJORK
12	MUSIC
備 考	